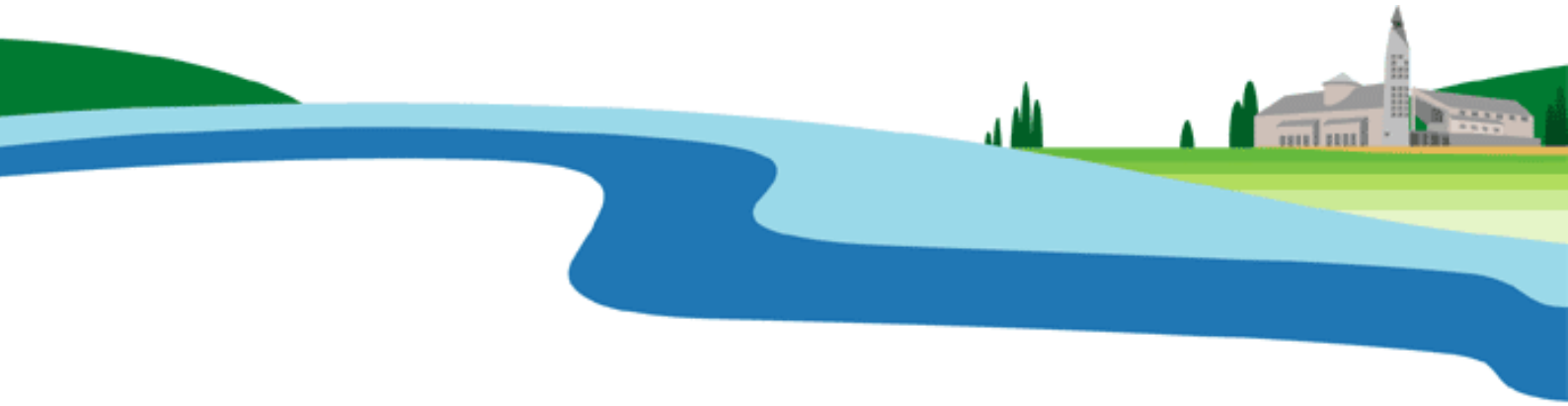
滋賀県立大学



滋賀県立大学
２０１９年度

講義概要（シラバス）

※この冊子は、Web 版シラバスを PDF に変換したものです。文字数の関係で全ての情報が記載されない場合があります。最新の情報や全文は、県大ポータル USPo（https://sgkwe.office.usp.ac.jp/SGKWeb/）で、ご確認ください。

目　　次

1110011 英語ＩＡ（活性化コース）（環境①）佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 1
1110012 英語ＩＢ（活性化コース）（環境①）佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 3
1110021 英語ＩＡ（活性化コース）（環境②）渡　寛法 前期 ・・・ 5
1110022 英語ＩＢ（活性化コース）（環境②）渡　寛法 後期 ・・・ 7
1110031 英語ＩＡ（活性化コース）（環境③）香山　恵美※ 前期 ・・・ 9
1110032 英語ＩＢ（活性化コース）（環境③）香山　恵美※ 後期 ・・・ 11
1110041 英語ＩＡ（活性化コース）（環境④）西澤　裕一※ 前期 ・・・ 13
1110042 英語ＩＢ（活性化コース）（環境④）西澤　裕一※ 後期 ・・・ 15
1110051 英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑤）関　初海※ 前期 ・・・ 17
1110052 英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑤）関　初海※ 後期 ・・・ 19
1110061 英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑥）神田　眞喜子 前期 ・・・ 21
1110062 英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑥）Armando Duarte 後期 ・・・ 23
1110221 英語ⅡＡ（応用コース）（環境①）Graham Jones※ 前期 ・・・ 25
1110222 英語ⅡＢ（応用コース）（環境①）Graham Jones※ 後期 ・・・ 27
1110231 英語ⅡＡ（応用コース）（環境②）Ashley Stevens※ 前期 ・・・ 29
1110232 英語ⅡＢ（応用コース）（環境②）Ashley Stevens※ 後期 ・・・ 31
1110241 英語ⅡＡ（応用コース）（環境③）齊藤　倫子 前期 ・・・ 33
1110242 英語ⅡＢ（応用コース）（環境③）齊藤　倫子 後期 ・・・ 35
1110251 英語ⅡＡ（応用コース）（環境④）Graham Jones※ 前期 ・・・ 37
1110252 英語ⅡＢ（応用コース）（環境④）Graham Jones※ 後期 ・・・ 39
1110261 英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑤）Karl Hedberg※ 前期 ・・・ 41
1110262 英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑤）Karl Hedberg※ 後期 ・・・ 43
1110271 英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑥）Gordon Maclaren※ 前期 ・・・ 45
1110272 英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑥）Gordon Maclaren※ 後期 ・・・ 47
1110421 英語ⅢＡ（充実コース）（環境①）市場　史哉※ 前期 ・・・ 49
1110422 英語ⅢＢ（充実コース）（環境①）市場　史哉※ 後期 ・・・ 51
1110431 英語ⅢＡ（充実コース）（環境②）西澤　裕一※ 前期 ・・・ 53
1110432 英語ⅢＢ（充実コース）（環境②）西澤　裕一※ 後期 ・・・ 55
1110441 英語ⅢＡ（充実コース）（環境③）真田　満※ 前期 ・・・ 57
1110442 英語ⅢＢ（充実コース）（環境③）真田　満※ 後期 ・・・ 59
1110451 英語ⅢＡ（充実コース）（環境④）Armando Duarte 前期 ・・・ 61
1110452 英語ⅢＢ（充実コース）（環境④）Armando Duarte 後期 ・・・ 63
1110461 英語ⅢＡ（充実コース）（環境⑤）佐久間　思帆※ 前期 ・・・ 65
1110462 英語ⅢＢ（充実コース）（環境⑤）佐久間　思帆※ 後期 ・・・ 67
1110471 英語ⅢＡ（充実コース）（環境⑥）Graham Jones※ 前期 ・・・ 69
1110472 英語ⅢＢ（充実コース）（環境⑥）Graham Jones※ 後期 ・・・ 71
1110631 英語ⅣＡ（展開コース）（環境①）菰田　真由美 前期 ・・・ 73
1110632 英語ⅣＢ（展開コース）（環境①）菰田　真由美 後期 ・・・ 75
1110641 英語ⅣＡ（展開コース）（環境②）齊藤　倫子 前期 ・・・ 77
1110642 英語ⅣＢ（展開コース）（環境②）坂本　輝世 後期 ・・・ 79
1110651 英語ⅣＡ（展開コース）（環境③）神田　眞喜子 前期 ・・・ 81
1110652 英語ⅣＢ（展開コース）（環境③）神田　眞喜子 後期 ・・・ 83
1110661 英語ⅣＡ（展開コース）（環境④）菰田　真由美 前期 ・・・ 85
1110662 英語ⅣＢ（展開コース）（環境④）菰田　真由美 後期 ・・・ 87
1110671 英語ⅣＡ（展開コース）（環境⑤）坂本　輝世 前期 ・・・ 89
1110672 英語ⅣＢ（展開コース）（環境⑤）坂本　輝世 後期 ・・・ 91
1110681 英語ⅣＡ（展開コース）（環境⑥）渡　寛法 前期 ・・・ 93
1110682 英語ⅣＢ（展開コース）（環境⑥）渡　寛法 後期 ・・・ 95
1130010 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境a) 森　將豪※ 前期 ・・・ 97
1130020 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境b) 亀田　彰喜※ 前期 ・・・ 99
1130030 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境c) 森　將豪※ 前期 ・・・ 101
1130040 情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境d) 亀田　彰喜※ 前期 ・・・ 103
1130140 情報科学概論（環境a） 森　將豪※ 後期 ・・・ 105
1130150 情報科学概論（環境b） 亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 107
1130160 情報科学概論（環境c） 森　將豪※ 後期 ・・・ 109
1130170 情報科学概論（環境d） 亀田　彰喜※ 後期 ・・・ 111
1150050 環境行動論/ 迫田　正美 前期 ・・・ 113
1150290 人間探求学（環境建築デザイン） 学科教員 前期 ・・・ 115
1200020 CAD演習Ⅰ Jimenez Verdejo Juan Ramon 後期 ・・・ 117
1200030 CAD演習Ⅱ Jimenez Verdejo Juan Ramon 前期 ・・・ 119
1200060 アジア建築史 川井　操 後期 ・・・ 121
1200110 イメージ表現法 金子　尚志 前期 ・・・ 123
1200280 環境建築デザイン演習 学科教員 後期 ・・・ 125
1200290 環境・建築デザイン概論 学科教員 前期 ・・・ 127
1200300 環境アセスメント 錦澤　滋雄※ 前期集中 ・・・ 129
1200390 環境科学概論Ⅰ 小泉　尚嗣 前期 ・・・ 131
1200400 環境科学概論Ⅱ 瀧　健太郎 後期 ・・・ 133
1200440 環境学原論/ 村上　修一 前期 ・・・ 135
1200480 環境監査 池北　實※ 前期集中 ・・・ 137
1200510 環境技術/ 宮崎　慎也※ 前期 ・・・ 139
1200520 環境技術史 白井　宏昌 後期 ・・・ 141
1200542 環境共生論 金子　尚志 後期 ・・・ 143
1200560 環境計画学 瀧　健太郎 後期 ・・・ 145
1200581 環境経済学入門 高橋　卓也 前期 ・・・ 147
1200582 環境財政 村上　一真 後期 ・・・ 149

1200650 環境職能論 川井　操 後期 ・・・ 151
1200700 環境政策学 上河原　献二 後期 ・・・ 153
1200810 環境設計Ⅰ Jimenez Verdejo Juan Ramon 前期 ・・・ 155
1200820 環境設計Ⅱ 金子　尚志 前期 ・・・ 157
1200840 環境設備 伊丹　清 後期 ・・・ 159
1200860 環境造形論 迫田　正美 後期 ・・・ 161
1200960 環境フィールドワークⅠ 学部教員 前期 ・・・ 163
1200970 環境フィールドワークⅡ 学部教員 前期 ・・・ 165
1200980 環境フィールドワークⅢ 学部教員 通年集中 ・・・ 167
1201085 環境公正論 土屋　正春※ 前期 ・・・ 169
1201110 基礎数学Ⅰ 山﨑　惣治郎※ 前期 ・・・ 171
1201120 基礎数学Ⅱ 山﨑　惣治郎※ 後期 ・・・ 173
1201160 景観計画 村上　修一 後期 ・・・ 175
1201200 建築一般構造 黒川　直樹※ 前期 ・・・ 177
1201210 建築環境工学 伊丹　清 後期 ・・・ 179
1201220 建築環境工学演習 伊丹　清 前期 ・・・ 181
1201250 建築数学・物理 伊丹　清 後期 ・・・ 183
1201260 建築生産施工 中西　茂行※ 前期 ・・・ 185
1201270 建築法規 戸川　勝紀※ 後期集中 ・・・ 187
1201340 構造計画（建築デザイン） 陶器　浩一 後期 ・・・ 189
1201350 構造材料実験 陶器　浩一 後期 ・・・ 191
1201360 構造力学Ⅰ（建築デザイン） 陶器　浩一 前期 ・・・ 193
1201370 構造力学Ⅱ 高田　豊文 前期 ・・・ 195
1201465 サスティナブルデザイン論 芦澤　竜一 前期 ・・・ 197
1202320 西洋建築・思潮史 迫田　正美 前期 ・・・ 199
1202340 設計演習Ⅰ 学科教員 前期 ・・・ 201
1202350 設計演習Ⅱ 学科教員 後期 ・・・ 203
1202360 設計演習Ⅲ 学科教員 前期 ・・・ 205
1202365 設計演習Ⅳ 東福　大輔※ 後期集中 ・・・ 207
1202370 設計基礎演習 学科教員 後期 ・・・ 209
1202450 卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン） 学科教員 前期研究 ・・・ 211
1202460 卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン） 学科教員 後期研究 ・・・ 213
1202570 地域環境計画 轟　慎一 後期 ・・・ 215
1202621 地域産学連携実習Ⅰ 学科教員 前期実習 ・・・ 217
1202622 地域産学連携実習Ⅱ 学科教員 後期実習 ・・・ 219
1202760 都市・地域計画 轟　慎一 前期 ・・・ 221
1202840 内部空間論 山崎　泰寛 後期 ・・・ 223
1202850 日本建築史 白井　宏昌 前期 ・・・ 225
1203180 木匠塾（建築デザイン） 高田　豊文 通年集中 ・・・ 227
1203200 ランドスケープデザイン 村上　修一 前期 ・・・ 229
1203330 建築デジタルデザイン基礎 永井　拓生 後期 ・・・ 231

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境①）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110011	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。
期末テストの他に１４、１５回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます（定期テスト50点中10点分になります）
5回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口優美子、柳田真知子	金星堂	978-4-7647-4089-1
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境①）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110011	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Unit1	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit1	Part2, 3, 6
第4回	Unit2	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit2	Part2, 3, 6
第6回	Unit3	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit3	Part2, 3, 6
第8回	Unit4	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit4	Part2, 3, 6
第10回	Unit5	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit5	Part2, 3, 6
第12回	Unit6	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit6	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit1～6の復習
第15回	暗唱テスト	Unit1～6の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境①）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110012	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。
期末テストの他に１４、１５回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます（定期テスト50点中10点分になります）
5回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口優美子、柳田真知子	金星堂	978-4-7647-4089-1
2				
3				

前期と教科書は同じです。必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※２回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境①）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110012	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Unit11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7～12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7～12の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110021	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

初回授業には時間を測れるストップウォッチ（スマートフォンでもOK）を持ってきてください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110021	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方についての説明、ワークシートの記入。
第2回	Unit １	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言
英語学習の基本は音読です。まずはTOEICレベルの英文をスラスラ声に出して読めるようにトレーニングしていきましょう！

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境②）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110022	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、TOEICの問題を教材に、英語能力、とくにリスニング能力の向上を目指します。聴く力を伸ばすためには、まず自分自身で発音できることが重要です。そこで授業では、リスニング問題を解くだけでなく、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアやグループワークを通して英語に慣れる活動も行います。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、120分に耐える集中力や、英語を聞いて即座に反応する瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、リスニング能力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEICリスニング問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、到達度確認テスト、および期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワークによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	『STRIKE UP THE TOEICR TEST LISTENING』	塚田幸光	金星堂	978-4-7647-4005-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境②）						担当教員	渡　寛法
講義コード	1110022	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習	
ナンバリング番号	101ENG102							

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	前期の振り返り、後期の目標確認。
第2回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 15	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 16	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 17	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 18	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Review 1	ここまでの到達度確認テストを行う。
第9回	Unit 19	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 20	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 21	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 22	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 23	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 24	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Review 2	到達度確認テスト、および、振り返りシートの作成。

担当者から一言
音読のスラスラ度をさらに磨いていきましょう！

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境③）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110031	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境③）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110031	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、自己紹介	授業の進め方説明、自己紹介
第2回	Unit 1	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 2	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 3	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 4	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 5	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 6	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 7	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 8	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 9	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	Unit 10	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う

担当者から一言

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境③）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110032	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業では、英語コミュニケーション能力の向上と、TOEICの問題演習によってスコアアップを目指します。コミュニケーションはさまざまなトピックについてペア、またはグループで会話をし、自分の意見を述べることや相手の話を聞いて質問をする練習をします。TOEICでは、 テスト形式の練習問題でテストの概要に慣れ、問題を解くスピードを向上させます。また、スキミングやスキャンニングなどで英文を読むスピードと要点をつかむ練習や、動画や音楽をつかったリスニング練習などを行います。

到達目標

日常生活 、社会の出来事、自分自身について英語でスムーズに話すことができる。
TOEICの問題を解くことに慣れ、出題の傾向を理解して問題を解くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

30%　授業内での取り組み
30%　授業内の課題
40%　到達度確認テスト（2回）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Effective Approaches to the TOEIC Test	田中清美	南雲堂	9784523176220
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境③）							担当教員	香山　恵美※
講義コード	1110032	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 11	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第2回	Unit 12	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第3回	Unit 13	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第4回	Unit 14	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第5回	Unit 15	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第6回	Unit 16	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第7回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う
第8回	Unit 17	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第9回	Unit 18	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第10回	Unit 19	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第11回	Unit 20	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第12回	問題演習	TOEIC問題演習 コミュニケーションアクティビティ
第13回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第14回	復習	これまでの授業で学んだ文法や表現などを復習する
第15回	到達度確認テスト	これまでの授業内容について確認テストを行う

担当者から一言

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110041	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1.TOEICで高得点が狙えるような比較的短い時間で長文の内容を理解できる英語の読解力を身につけること。
2.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力（特に基本的なビジネス英語の知識）を身につけること。
3. TOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30%	リスニングに関するレポート課題15% 語彙に関する小テスト15%
上記以外	20%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Gear Up for the TOEIC Test	Mark D. Stafford, 妻島千鶴子	金星堂	9784764739581
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
3	こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110041	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Events (1)	授業の進め方の説明とTOEIC問題演習
第2回	Events (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第3回	Eating Out (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第4回	Eating Out (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第5回	Shopping (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第6回	Shopping (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第7回	Office(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第8回	Office(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第9回	Housing (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第10回	Housing (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第11回	Community(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第12回	Community(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第13回	Facilities(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第14回	Facilities(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第15回	Personnel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第16回	Personnel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第17回	Meeting and Workshops (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第18回	Meeting and Workshops (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第19回	Transaction and Finance (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第20回	Transaction and Finance (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第21回	Travel　(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第22回	Travel　(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第23回	Health (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第24回	Health (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第25回	Letter and Email (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第26回	Letter and Email (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第27回	Ads and Notice (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第28回	Ads and Notice (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第29回	News (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第30回	News (2)/まとめ	語彙の確認とTOEIC問題演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。また学内TOEIC以降はTOEIC以外の内容も扱う予定です。とにかく授業に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてくださ

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110042	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

この授業では、TOEICの受験を念頭に置いて、主に語彙力の向上、読解力、あるいはリスニング力の向上を目標とします。　語彙の確認、リーディングあるいは、リスニングの演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。

到達目標

1.TOEICで高得点が狙えるような比較的短い時間で長文の内容を理解できる英語の読解力を身につけること。
2.TOEICで高得点を取るのに必要な英語の語彙力（特に基本的なビジネス英語の知識）を身につけること。
3. TOEICで高得点が狙えるような英語のリスニング力を身につけること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	100点満点中50点以下は評価をしません。
レポート課題	30%	リスニングに関するレポート課題15% 語彙に関する小テスト15%
上記以外	20%	授業に参加する積極的な態度（授業内での読解演習などに積極的に参加しているかなど）

半期で4回以上の欠席は評価をしません。
遅刻2回で欠席1回と考える場合があります。
予習をしっかりしていない者、提出物を提出しない者は評価の対象としない。

授業外学習

この授業における授業外の学習は、主に教科書の指定された範囲の語彙の学習、ならびに各自が決めた素材を使ったディクテーションとそれに関するレポートが中心になります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Gear Up for the TOEIC Test	Mark D. Stafford, 妻島千鶴子	金星堂	9784764739581
2	新TOEICテスト英単語ターゲット1500	松井こずえ	旺文社	9784010941751
3	こまったカタカナ英語　つうじる英語に大変身！	キャサリン・クラフト	中公文庫	9784122058736

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境④）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110042	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Events (1)	授業の進め方の説明とTOEIC問題演習
第2回	Events (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第3回	Eating Out (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第4回	Eating Out (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第5回	Shopping (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第6回	Shopping (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第7回	Office(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第8回	Office(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第9回	Housing (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第10回	Housing (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第11回	Community(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第12回	Community(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第13回	Facilities(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第14回	Facilities(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第15回	Personnel (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第16回	Personnel (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第17回	Meeting and Workshops (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第18回	Meeting and Workshops (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第19回	Transaction and Finance (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第20回	Transaction and Finance (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第21回	Travel　(1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第22回	Travel　(2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第23回	Health (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第24回	Health (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第25回	Letter and Email (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第26回	Letter and Email (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第27回	Ads and Notice (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第28回	Ads and Notice (2)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第29回	News (1)	語彙の確認とTOEIC問題演習
第30回	News (2)/まとめ	語彙の確認とTOEIC問題演習

担当者から一言

12月の学内TOEICに向けて学習していきますが、夏休みの間に学習した内容を忘れてしまわないように定期的に学習する習慣を身につけてください。また学内TOEIC以降はTOEIC以外の内容も扱う予定です。とにかく授業に集中して課題に取り組んでしっかりとした英語力を身につけてくださ

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110051	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

TOEIC形式の問題を正確に解く力を身につける。
TOEICのリスニング音声や読解問題を活用し、ライティング・スピーキング能力といった、英語発信能力をきたえる。

到達目標

(1) TOEICの語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について毎回の授業冒頭での小テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口　優美子他	金星堂	9784764740891
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110051	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 1	授業の進め方についての説明 Unit 1 Travel
第2回	Unit 1(2)	Unit 1　Travel （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第3回	Unit 2(1)	Unit 2　Dining Out （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第4回	Unit 2(2)	Unit 2　Dining Out （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第5回	Unit 3(1)	Unit 3 Media （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第6回	Unit 3(2)	Unit 3 Media （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第7回	Unit 4(1)	Unit 4 Entertainment （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第8回	Unit 4(2)	Unit 4 Entertainment （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第9回	Unit 5(1)	Unit 5 Purchasing （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第10回	Unit 5(2)	Unit 5 Purchasing （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第11回	Unit 6(1)	Unit 6　Clients （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第12回	Unit 6(2)	Unit 6　Clients （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第13回	Unit 7(1)	Unit7 Recruiting （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第14回	Unit 7(2)	Unit7 Recruiting （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第15回	総復習	前期の総まとめ

担当者から一言

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110052	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

TOEIC形式の問題を正確に解く力を身につける。
TOEICのリスニング音声や読解問題を活用し、ライティング・スピーキング能力といった、英語発信能力をきたえる。

到達目標

(1) TOEICの語彙力を身につける
(2) リスニング能力の向上
(3) リーディング能力の向上
(4) ライティング能力の向上
(5) スピーキング能力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	到達目標(2),(3),(4)について定期試験で評価する。
レポート課題	0	
上記以外	30	到達目標(1)について毎回の授業冒頭での小テストで評価(10%) 到達目標(5)について、授業内でのプレゼンテーションで評価（20%)

授業時間数の3分の1以上欠席した者は評価対象にしない。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE	溝口　優美子他	金星堂	9784764740891
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑤）							担当教員	関　初海※
講義コード	1110052	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーションとUnit 8	授業の進め方についての説明 Unit 8 Personnel
第2回	Unit 8(2)	Unit 8 Personnel （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第3回	Unit 9(1)	Unit 9 Advertising （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第4回	Unit 9(2)	Unit 9 Advertising （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第5回	Unit 10(1)	Unit 10 Meetings （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第6回	Unit 10(2)	Unit 10 Meetings （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第7回	Unit 11(1)	Unit 11 Finance （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第8回	Unit 11(2)	Unit 11 Finance （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第9回	Unit 12(1)	Unit 12 Offices （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第10回	Unit 12(2)	Unit 12 Offices （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第11回	Unit 13(1)	Unit 13 Daily Life （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第12回	Unit 13(2)	Unit 13 Daily Life （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第13回	Unit 14(1)	Unit 14 Sales & Marketing （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第14回	Unit 14(2)	Unit 14 Sales & Marketing （単語小テスト、TOEIC問題演習、ライティング・スピーキング活動）
第15回	総復習	後期の総まとめ

担当者から一言

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑥）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110061	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業概要

本授業はＴＯＥＩＣの問題形式に慣れ、基本的な英語力をつけることを目的とする。特に、リスニング力や読解力の養成に重点を置くが、英語コミュニケーション能力の基礎となる、語彙や文法の基本的な知識の確認もする。ペアワークやグループワークを通して、インプットからアウトプットへつなげる活動もする。

到達目標

（1）ＴＯＥＩＣに必要なリスニング力を身につける。
（2）ＴＯＥＩＣに必要な読解力を身につける。
（3）語彙力や文法力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末テスト40%で評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（1）（2）（3）について、到達度確認テストを２回行い、40%として評価。 到達目標（2）（3）（4）について、指示する活動や課題で２０%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	THE HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST	Koji Hayakawa 他	KINSEIDO	978-4-7647-4045-7
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＡ（活性化コース）（環境⑥）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110061	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明、及び課題についての説明。
第2回	Unit 1 Travel	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第3回	Unit 1 Travel	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第4回	Unit 2 Dining Out	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第5回	Unit 2 Dining Out	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第6回	Unit 3 Media	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第7回	Unit 3 Media	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ショ活動。
第8回	到達度確認テスト（１）	Ｕｎｉｔ １からＵｎｉｔ ３までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 4 Entertainment	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第10回	Unit 4 Entertainment	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第11回	Unit 5 Purchasing	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第12回	Unit 5 Purchasing	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第13回	Unit 6 Clients	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第14回	Unit 6 Clients	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第15回	到達度確認テスト（２）	Ｕｎｉｔ ４からＵｎｉｔ ６までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑥）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110062	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業概要

本授業はＴＯＥＩＣの問題形式に慣れ、基本的な英語力をつけることを目的とする。特に、リスニング力や読解力の養成に重点を置くが、英語コミュニケーション能力の基礎となる、語彙や文法の基本的な知識の確認もする。。ペアワークやグループワークを通して、インプットからアウトプットへつなげる活動もする。

到達目標

（１）ＴＯＥＩＣに必要なリスニング力を身につける。
（２）ＴＯＥＩＣに必要な読解力を身につける。
（３）語彙力や文法力を向上させる。
（４）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（１）（２）（３）について、期末試験40%で評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（１）（２）（３）について、到達度確認テストを２回行い、30%として評価。 到達目標（２）（３）について、毎回の課題で20%として評価。 到達目標（４）について、授業中の積極的な発言や発表で10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	THE HIGH ROAD TO THE TOEICR LISTENING AND READING TEST	早川　幸治他	金星堂	987-4-7647-4045-7
2				
3				

辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ＩＢ（活性化コース）（環境⑥）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110062	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 7 Recruting	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第2回	Unit 7 Recruting	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第3回	Unit 8 Personnel	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第4回	Unit 8 Personnel	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第5回	Unit 9 Advertising	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第6回	Unit 9 Advertising	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第7回	Unit 10 Meeting	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第8回	到達度確認テスト（１）	Ｕｎｉｔ ７からＵｎｉｔ １０までの確認テストを実施する。
第9回	Unit 11 Finace	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第10回	Unit 11 Finance	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第11回	Unit 12 Offices	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第12回	Unit 12 Offices	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第13回	Unit 13 Daily Life	Ｐａｒｔ １からＰａｒｔ ４ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第14回	Unit 13 Daily Life	Ｐａｒｔ ５からＰａｒｔ ７ までの問題演習、コミュニケ―ション活動。
第15回	到達度確認テスト（２）	Ｕｎｉｔ １１からＵｎｉｔ １３までの確認テストを実施する。

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境①）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110221	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) start thinking about English learning as a lifelong activity.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境①）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110221	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome to the class
第2回	Unit 1	Lifestyles
第3回	Unit 1	Lifestyles
第4回	Unit 2	Leisure
第5回	Unit 2	Leisure
第6回	Unit 3	Getting along
第7回	Unit 3	Getting along
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 4	Interests
第10回	Unit 4	Interests
第11回	Unit 5	Telling a story
第12回	Unit 5	Telling a story
第13回	Unit 6	Celebrations
第14回	Unit 6	Celebrations
第15回	Review	Looking ahead

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境①）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110222	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) continue thinking about English learning as a lifelong activity.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境①）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110222	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome back
第2回	Unit 7	Food & drink
第3回	Unit 7	Food & drink
第4回	Unit 8	Rules
第5回	Unit 8	Rules
第6回	Unit 9	Adventures
第7回	Unit 9	Adventures
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 10	Health
第10回	Unit 10	Health
第11回	Unit 11	Comparisons
第12回	Unit 11	Comparisons
第13回	Unit 12	The modern world
第14回	Unit 12	The modern world
第15回	Review	Looking to the future

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境②）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110231	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境②）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110231	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第3回	Hotels, Airports and Taxis	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher checks students have begun their writing.
第4回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第5回	How to get around	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第6回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第7回	Restaurants and Eating	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第8回	Shopping	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第11回	At the Doctors	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第12回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第13回	Going to the Movies	Focusing on the functional language used in real life situations when travelling abroad.
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境②）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110232	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Outline: Students write a one-page essay or story. The teacher meets each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read aloud their essay or story and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read aloud their essays to the teacher and the teacher gives them grades for writing and speaking. Students will also have a final interview test. This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and individual, pair, and group speech presentations.

到達目標

Speaking: Students will be able to speak English with (1) good pronunciation (especially th, l and si sounds), (2) fluency (without hesitation, reply to questions promptly) and (3) good delivery (clear voice and good volume, produce the required quantity of speech). Their English will also be (4) grammatically correct. Writing: Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	25% Mid-term Speaking test. 25% Mid-term Writing test.
レポート課題		
上記以外		

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated.
Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

Preparation for Quizzes (6 hours).Topic-related writing (6 hours).Pronunciation practice (3 hours).

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World 2	Stevens	3C English	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境②）							担当教員	Ashley Stevens※
講義コード	1110232	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction	Explanation of schedule, grading, rubric. For homework: Students start to write a one-page story or essay.
第2回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.
第3回	Where we live	Focusing on the functional language used in real life situations for discussing where we live. Teacher checks students have begun their writing.
第4回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第5回	Friends and family	Focusing on the functional language used in real life situations regarding our lives. Teacher continues advising and correcting Students' writing.
第6回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第7回	Sports and activities	Focusing on the functional language used in real life situations when discussing our hobbies. Teacher corrects pronunciation of students' writing.
第8回	Life experiences	Focusing on the functional language used in real life situations when the things we have done. Teacher continues to correct pronunciation.
第9回	Mid-Term Test	Mid-Term Test: Students read aloud their stories/essays to Teacher. Teacher gives a grade for speaking, and another grade for writing.
第10回	Jobs and the wrokplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace.
第11回	Jobs and the workplace	Focusing on the functional language used in real life situations regarding the wrokplace.
第12回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.
第13回	The biggest and the best	Focusing on the functional language used in real life situations discussing opinions and facts with a focus on superlatives.
第14回	Test Guidelines and Practice	Guidelines and practice for final interview test.
第15回	Interview Test	One to one interviews with student and teacher covering the modules taught.

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境③）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110241	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

学生はクラスを4回以上欠席すると評価の対象としません。また遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境③）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110241	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, getting to know other students.
第2回	Week 2	Unit 1: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Unit 1: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Unit 2: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Unit 2: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Unit 3: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Unit 3: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Review
第9回	Week 9	Unit 4: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Unit 4: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Uit 5: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Unit 5: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Unit 6: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Unit 6: Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第15回	Week 15	Review

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境③）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110242	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will complete weekly speaking homework assignments using their smartphones and Google Drive. Students will receive weekly comments and feedback on their speaking abilities. Writing skills from the previous semester will be used again, and new writing skills will be introducted.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	Midterm Presentation: 50% (each speaking objective 25% each; writing objectives 1 & 3 25% each, writing objective 3 50%), in class time week 8. Students will write and present about their summer vacation.
レポート課題	25	Homework: There will be writing and speaking homework on various topics.
上記以外	25	Final Presentation: Students will give a presentation about their success from this year academic year and their goals for the next year.

学生はクラスを4回以上欠席すると評価の対象としません。また遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境③）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110242	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Homework: Begin writing midterm paper.
第2回	Week 2	Pronunciation practice, using "would".
第3回	Week 3	Interviewing someone.
第4回	Week 4	Midterm practice presentations.
第5回	Week 5	Respond to video media.
第6回	Week 6	Using "after, before, when".
第7回	Week 7	Writing groups/peer feedback.
第8回	Week 8	Midterm presentations.
第9回	Week 9	Cause and effect.
第10回	Week 10	Using "whereas, however".
第11回	Week 11	Respond to video media.
第12回	Week 12	Writing groups/peer feedback. Homework: None.
第13回	Week 13	Final presentation preparation. Homework: Work on final presentation.
第14回	Week 14	Final presentation preparation and practice presentations. Homework: Continue working on final.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境④）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110251	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) start thinking about English learning as a lifelong activity.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境④）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110251	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome to the class
第2回	Unit 1	Lifestyles
第3回	Unit 1	Lifestyles
第4回	Unit 2	Leisure
第5回	Unit 2	Leisure
第6回	Unit 3	Getting along
第7回	Unit 3	Getting along
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 4	Interests
第10回	Unit 4	Interests
第11回	Unit 5	Telling a story
第12回	Unit 5	Telling a story
第13回	Unit 6	Celebrations
第14回	Unit 6	Celebrations
第15回	Review	Looking ahead

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境④）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110252	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will use a range of communicative activities to gain confidence and improve their English skills. Students will use a language framework to (a) set goals for their English, (b) measure their progress, and (c) continue thinking about English learning as a lifelong activity.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically. Students will be able to speak English with (1) good pronunciation, (2) fluency and (3) good delivery; their English will also be (4) grammatically correct. Students will be able to write (1) grammatically correct (2) complex sentences and paragraphs that are (3) spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term Speaking test. Each Speaking Objective is worth 25% of the total grade for the Speaking test.
レポート課題	50	Mid-term Writing test. Writing Objectives 1 & 3 are worth 25% and Objective 2 is worth 50% of the total grade for the Writing test.
上記以外		

授業外学習

One hour a week. Review and practice class material, and prepare for the tests.

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Breakthrough PLUS Level 2	Miles Craven	Macmillan Education	978-0-230-43819-4
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境④）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110252	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	Welcome back
第2回	Unit 7	Food & drink
第3回	Unit 7	Food & drink
第4回	Unit 8	Rules
第5回	Unit 8	Rules
第6回	Unit 9	Adventures
第7回	Unit 9	Adventures
第8回	Mid-Term Test	One-page essay
第9回	Unit 10	Health
第10回	Unit 10	Health
第11回	Unit 11	Comparisons
第12回	Unit 11	Comparisons
第13回	Unit 12	The modern world
第14回	Unit 12	The modern world
第15回	Review	Looking to the future

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110261	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	English for the World	Stevens	3C English Publications	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110261	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Getting to Know You	Making friends and exchanging (or not exchanging) personal information.
第3回	Getting to Know You	Learning to learn 1, going beyond first introductions, Quiz 1.
第4回	Airports and Hotels	Quiz 2, Talking about travel, memory game 1, song 1.
第5回	Airports and Hotels	Talking about travel and learning to learn 2.
第6回	Getting Around Town	Quiz 3, Describing your hometown and game 2.
第7回	Getting Around Town	Getting to know Shiga, song 2.
第8回	Food and Restaurants	Quiz 4, Food and Restaurants
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	Food and Restaurants	Comparing Japanese / American food.
第11回	Shopping	Quiz 5, Talk about shopping
第12回	Shopping	Talk about shopping, song 3.
第13回	At the doctor's	Quiz 6, Talk about illnesses and injuries
第14回	Watching movies	Talk about films and TV shows
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110262	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable communicative activities such as role-plays and short skits. Students are required to write a one-page essay or story. The teacher will meet with each student individually to give advice about content, grammar, and pronunciation. Students will practice reading their essays or stories in front of the teacher before having to do it again for a final evaluation. Students will be graded on both writing and speaking.

到達目標

Students will be able talk about activities encountered in everyday life using familiar grammatical constructions, and write about them fairly cohesively and logically.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		

25% Mid-term Speaking test. Each Speaking
25% Mid-term Writing test.
25% Vocabulary Quizzes

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑤）							担当教員	Karl Hedberg※
講義コード	1110262	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Explanation of the course,	Course introduction, useful English and self introductions.
第2回	Memory and the Past	Talking about your weekend.
第3回	Memory and the Past	Quiz 1, Asking about the past.
第4回	The Real You	Quiz 2, Talking about your good and bad points, song 1.
第5回	The Real You	Your horoscope and learning to learn 2.
第6回	My Favorites	Quiz 3, Talking about books, movies, and music.
第7回	My Favorites	Which do you prefer...?, song 2.
第8回	Let's Eat!	Quiz 4, Talking about food and cuisine.
第9回	Mid-Term Test	Students read aloud their writing to Teacher. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第10回	Let's Eat!	Tastes and textures.
第11回	Experiences	Quiz 5, Talking about some of you good and bad experiences.
第12回	Experiences	Have you...?, song 3.
第13回	Future Plans	Quiz 6, Can you see your future?
第14回	Future Plans	Hopes and dreams for the future.
第15回	Review, Review, Review	Review.
第16回	Final Exam	

担当者から一言

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑥）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110271	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues and speech presentations. Our text is a play made up of 20 short parts, most of which one-third of student pairs will intensively study at home (= major homework every 3nd week). In normal class weeks, from April to June, we'll practice one scene's pronunciation, intonation, movements and gestures as a class, then in pairs. After studying, the next week some pairs will perform the memorized scene as a test. Each student pair will do this four times.In July, those same student pairs will rewrite 5 pages worth of scene dialog, changing over half of it. Once the intructor corrects it, they will then perform 'their own' scene as a final test.

PAIR-ACT DRAMA SCENE (1/3 OF STUDENT PAIRS GRADED WEEKLY; FOLLOWING WEEK'S PRONUNCIATION PRACTICE)

到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 4 scenes for pair performance from memory (8 hours total)Pairs rewrite 75-90% of a ‘ new ’ scene based on Scenes VII & VIII (4 hours) Study this combined scene for end-of-term performance from memory (3 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars[New Version]		Drama Works, 2009	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＡ（応用コース）（環境⑥）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110271	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG103								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Class ＆Pair reading of Luggage Mix-Up; Accusation and Apology
第2回	Patching Things Up	Offering Help and Getting to Know a Stranger [II] 第2回-13回 PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Realization Of & Panic Over a Mistake	Calming Someone Down [III]
第4回	Calling For Assistance	Giving Information over the Phone [IV]
第5回	Upholding Household Rules	Receiving and Confirming Good News [V]
第6回	Getting Over Jet Lag	Talking About Sleepiness and One’s Job [VI]
第7回	A ‘Thank You’ Coffee	Expressing Gratitude and Setting Up a Date [VII+VIII]
第8回	Sharing and Eliciting Wonderful News	Warning Over High Expectations [IX]
第9回	Relating a Tough Situation	Asking About Job Qualifications [X]
第10回	Returning to the Beginning	The Luggage Mix-Up Conflict [I]
第11回	First Date	Banter, Sharing Likes, Dislikes and Goals in Common [XI]
第12回	Under the Table	Sharing Suspicions and Teasing About Anxieties [XII]
第13回	Stand-In	Subbing For Someone ill at Work [XIII]；NEW SCENE BRAINSTORMING
第14回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.
第15回	COMPLETE FINAL VERSION & ACT OUT (in pairs)	THE 75-90% ORIGINAL SCENE YOU WROTE, BASED on SCENES VII and VIII joined together.

担当者から一言

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑥）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110272	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業概要

This class intends to nurture and encourage communication skills in speaking and listening through activities such as everyday conversation dialogues. Our text is a play made up of 20 short parts, half of which each pair of students will study at home (= homework every 2nd week). Most weeks in class, we'll practice one scene's pronunciation, intonation,choreography and gestures as a class. The next week, half of the class student pairs will perform the memorized scene. Each term, half the class -- in student pairs -- will rewrite then perform 1-2 scenes. In the middle of the other term (either June or November), students will individually write about themselves or something that interests them. This paper will form the basis of a private chat with me, conducted while the rest of the class is learning and listening to the dialog of an English movie.

到達目標

(1) Students will be able to speak English with good pronunciation.
(2) Students will be able to speak English with fluency.
(3) Students will be able to speak English with good delivery.
(4) Students will be able to speak grammatically correct English.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	25% mid-term speaking test 25% mid-term writing test 50% weekly activity

授業外学習

Study 2 scenes for pair performance (5 hours total) Study two or three Screen Plays for movie quiz (3 hours total) Write an extensive 350-550 word report on your life, an autobiography, in English (7 hours)

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Pop Stars [New Version]		(Drama Works, 2009)	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語ⅡＢ（応用コース）（環境⑥）							担当教員	Gordon Maclaren※
講義コード	1110272	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	101ENG104								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	INTRODUCTION	Review Scenes I-XIII; Class>> Pair reading of Doing Someone ’ s Hair
第2回	Keeping Up With Friends ’ Lives	Shocking News Over the Phone [XV] 第2-8回PAIR-ACT DRAMA SCENE
第3回	Sharing Mixed Results	Celebrating, Evading and Consoling [XVI]
第4回	Adjusting to a Changed Situation	A Dream Future [XVII]
第5回	Breaking Some Bad News...But with a Silver Lining	Signing On [XVIII]
第6回	Working Out	Sharing Success; Asking a Big Favour [XIX]
第7回	The End'	The Drama's Resolution [XX]
第8回	Review Entire Story	Scene XIV Performance for any Excused Absence students
第9回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第10回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第11回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第12回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第13回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第14回	WRITE QUIZZES ON MOVIES WATCHED	WATCH FILMS WITH BILINGUAL SCREENPLAYS PREPARING FOR QUIZZES WHILE THE TEACHER INTERVIEWS ONE STUDENT ABOUT HER /HIS PERSONAL REPORT
第15回	OFFICIAL EXAM DATE	Interviews for yet-to-be interviewed / late students & reports

担当者から一言

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境①）							担当教員	市場　史哉※
講義コード	1110421	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。

到達目標

(1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける
(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける
(3)ニュースの内容を理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	35	Unit 7 - 13までの範囲から語彙、リスニングに関する問題を出題する。
レポート課題		
上記以外	65	授業中に行う小テスト　35% 毎回各Unitのリスニング問題を行う。

3分の1以上欠席した場合は評価対象としない。

授業外学習

学生にあてながら授業を行うので、単語を調べてくる必要がある。
中間テスト、期末テストまでにオンライン動画配信サービスを使って復習をする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ABC World News 20	Shigeru Yamane	金星堂	978-4-7647-4051-8
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境①）							担当教員	市場　史哉※
講義コード	1110421	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業内容の説明
第2回	Unit 1	Bao Bao to Return to China
第3回	Unit 2	Coat Designer
第4回	Unit 3	Robot Revolution
第5回	Unit 4	Mother Meets the Recipients of Her Son's Organs
第6回	Unit 5	Day Without Immigrants
第7回	Unit 6	911: Fatal Flaws
第8回	中間テスト	Unit 1 からUnit 6まで
第9回	Unit 7	Rising Costs of Trump Family Travel
第10回	Unit 8	13-year-old on a Game Show
第11回	Unit 9	Virtual Kidnapping
第12回	Unit 10	Reunion: Airman and theLittle Girl He Saved
第13回	Unit 11	Report on the Repulican Health Care Plan
第14回	Unit 12	A Rare Ride Inside an F-16
第15回	Unit 13	Race Against Time: Oroville Dam

担当者から一言

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境①）							担当教員	市場　史哉※
講義コード	1110422	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

アメリカのニュース番組を使ってリスニングの練習を行う。リスニングの能力を伸ばすには、発音に関する正しい知識だけではなく、次に来る語を予測するのに必要な構文の知識も必要になる。この知識がないと、英語のスピードについて行くことはできない。そしてこれらの知識は自分で英文を組み立てて表現するときにも必要になる。また、英語で会話をするには、世界で起きている出来事についての知識が欠かせない。ニュース番組を見てそのような知識と教養を身につける。

到達目標

(1)ニュースを理解するために必要な語彙力を身につける
(2)アナウンサーの英語を聞き取る能力を身につける
(3)ニュースの内容を理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	35	Unit 7 - 13までの範囲から語彙、リスニングに関する問題を出題する。
レポート課題		
上記以外	65	授業中に行う小テスト　35% 毎回各ユニットのリスニング問題を行う。

3分の1以上欠席した場合は評価対象としない。

授業外学習

学生にあてながら授業を行うので、単語を調べてくる必要がある。
中間テスト、期末テストまでに動画配信サービスを使って復習をする。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Broadcast: ABC World News Tonight	山根繁	金星堂	978-4-7647-4073-0
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境①）							担当教員	市場　史哉※
講義コード	1110422	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業内容の説明
第2回	News Story 1	Sister Jean: Basketball Team ’ s Secret Weapon
第3回	News Story 2	Blood-Testing: Charged with Massive Fraud
第4回	News Story 3	Millionaire Millennial
第5回	News Story 4	Fighting Robocalls
第6回	News Story 5	The Blue World
第7回	News Story 6	Moment of Impact
第8回	中間テスト	Unit 1からUnit 6まで
第9回	News Story 7	Father ’ s New Hand
第10回	News Story 8	Trump ’ s Weapon Ban?
第11回	News Story 9	American Men ’ s Bobsledding Team
第12回	News Story 10	Made in America: Recycling Discarded Water Bottles
第13回	News Story 11	The Children of Syria
第14回	News Story 12	Honoring Martin Luther King Jr.
第15回	News Story 13	Inside the Drug Cartel

担当者から一言

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境②）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110431	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境②）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110431	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境②）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110432	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

この授業では、主に語彙力の向上、リスニング力の向上、さらに、それらを踏まえた発信力の向上を目標とします。教科書を使用した語彙の確認、映画を使用したリスニングの演習、内容を理解した英文を使用した発信の演習という形を反復することで、英文を理解する際の基本的な能力の向上を目標として授業を進めていきます。　また12月のTOEICに向けての演習も行う予定です。

到達目標

1. 大学生にふさわしい程度の英語の語彙(ビジネス英単語も含む）を身につけること。
2. 映画のシナリオを読むことで英語の会話表現に慣れること。
3. 映画の音声に親しむことで、Englishes,すなわちイギリス英語、アメリカ英語、イタリアなまりの英語などに慣れること。
4. 映画の表現に親しむことで各学生の英語による自己表現力を高めること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	定期試験で100点満点中最低50点は取らないと評価はしません。
レポート課題	40%	家庭学習課題のレポートの提出がない場合は評価をしません。(20%) 毎回の小テストもこれに含みます。(20%)
上記以外	20%	授業態度(授業の準備はしっかりできているか、授業中の演習に集中して取り組んでいるかなど）を評価します。

2回の遅刻で1回の欠席とみなす場合があります。４回以上欠席は評価をしません。

授業外学習

この授業における授業外の学習は主に教科書を使った語彙の学習と、リスニング素材を利用したディクテーションによるリスニングの学習が中心となります。　通学時間などもうまく利用して毎日定期的に学習すればより学習効果が高まると思います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ローマの休日		電波実験社	9784864900133
2	TOEICテスト英単語Core Core 1200	小川慶	テイエス企画	488784204x
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

特になし

履修資格

講義名	英語IIIＢ（充実コース）（環境②）							担当教員	西澤　裕一※
講義コード	1110432	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス/Roman Holiday (1)	授業の進め方等について解説して映画の視聴など
第2回	Roman Holiday (2)/英単(1)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第3回	Roman Holiday (3)/英単(2)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第4回	Roman Holiday (4)/英単(3)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第5回	Roman Holiday (5)/英単(4)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第6回	Roman Holiday (6)/英単(5)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第7回	Roman Holiday (7)/英単(6)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第8回	Roman Holiday (8)/英単(7)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第9回	Roman Holiday (9)/英単(8)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第10回	Roman Holiday (10)/英単(9)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第11回	Roman Holiday (11)/英単(10)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第12回	Roman Holiday (12)/英単(11)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第13回	Roman Holiday (13)/英単(12)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第14回	Roman Holiday (14)/英単(13)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第15回	Roman Holiday (15)/英単(14)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第16回	Roman Holiday (16)/英単(15)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第17回	Roman Holiday (17)/英単(16)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第18回	Roman Holiday (18)/英単(17)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第19回	Roman Holiday (19)/英単(18)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第20回	Roman Holiday (20)/英単(19)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第21回	Roman Holiday (21)/英単(20)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第22回	Roman Holiday (22)/英単(21)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第23回	Roman Holiday (23)/英単(22)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第24回	Roman Holiday (24)/英単(23)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第25回	Roman Holiday (25)/英単(24)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第26回	Roman Holiday (26)/英単(25)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第27回	Roman Holiday (27)/英単(26)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第28回	Roman Holiday (28)/英単(27)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解
第29回	Roman Holiday (29)/英単(28)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解と発信の演習
第30回	Roman Holiday (30)/英単(29)	TOEICに向けたビジネス英単語の演習とハンドアウトを利用したRoman Holidayの内容理解/全体のまとめ

担当者から一言

初回の授業で、授業の進め方について詳しく説明するので必ず出席すること。
忙しい授業になると思いますが、がんばって授業に参加し、また指定された家庭学習もしっかりと行って大学生にふさわしい程度の英語力を身につ

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境③）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110441	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。またヴィデオ教材を使い、英語を聞き、理解する能力も養う。毎回の授業において、英語を音読し、発言することで弱強や強弱の英語独自のリズムに慣れ親しむ。

到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストの英文に関する問題に、英語で答えることができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標①②④について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の40%とする。 到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の20%とする。この20%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えることで予習をしっかり行うこと。
語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Impact 2	Katherine Stannett	Cengage	9781305509313
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iおよび英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境③）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110441	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction	授業の説明 予習手順の説明
第2回	Unit 1, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第3回	Unit 1, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第4回	Unit 1, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第5回	Unit 2, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第6回	Unit 2, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第7回	Unit 2, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第8回	1st Quiz Express yourself	第1回小テスト 教科書pp. 40-41
第9回	Unit 3, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説
第10回	Unit 3, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第11回	Unit 3, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第12回	Unit 4, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第13回	2nd Quiz Express yourself	第2回小テスト 教科書pp. 74-75
第14回	Unit 4, part 2	小テストの講評 宿題の解答と解説
第15回	Unit 4, part 3 Recapitulation	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解

担当者から一言
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境③）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110442	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

現代社会の諸問題に関するエッセイや科学に関する文章を読み、英語の読解力を伸ばすとともに、批判的にテキストを読む力を養い、知的レベルの高いコミュニケーションに必要な教養を深める。また、正確な英文法に注意しながら、論理的な英語を書く力を養う。英語を書くだけでなく、自分の考えを発表し、他学生と議論する能力も培う。

到達目標

①一般的な話題を扱うテキストの英文を正確に理解できる。
②テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で書くことができる。
③テキストを批判的に読み、自分の考えを英語で述べることができる。
④自然なスピードで英語のネイティブスピーカーが話す内容を理解することができる。
⑤正しい発音を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標①②④について試験を行う。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標①②④に関し、2回小テストを行い、評価の40%とする。 到達目標③と⑤に関しては、授業での発表をもとに、評価の20%とする。この20%には毎回の宿題も含める。

総授業回数の3分の1以上欠席した場合、評価の対象としない。
30分以上の遅刻は認めない。
遅刻3回で1回の欠席扱いとする。

授業外学習

教科書のテキストを批判的に読み、設問に答えてくることで予習をしっかり行うこと。
語彙と文法に関する問題プリントも毎回配付するので、解答してくること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Impact 2	Katherine Stannett	Cengage	9781305509313
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

随時、授業中にプリントを配付する。

前提学力等

英語Iと英語IIで身につけた英語力

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境③）							担当教員	真田　満※
講義コード	1110442	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction Unit 5, part 1	英語III Aで学んだことの復習 リーディング・パッセージの読解
第2回	Unit 5, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第3回	Unit 5, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第4回	Unit 6, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第5回	Unit 6, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第6回	Unit 6, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第7回	1st quiz Express yourself	第1回小テスト 教科書pp. 108-109
第8回	Unit 7, part 1	小テストの講評 宿題の解答と解説
第9回	Unit 7, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第10回	Unit 7, part 3	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第11回	Unit 8, part 1	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第12回	Unit 8, part 2	宿題の解答と解説 リーディング・パッセージの読解
第13回	2nd quiz Express yourself	第2回小テスト 教科書pp. 142-143
第14回	Unit 8, part 3	小テストの講評 宿題の解答と解説
第15回	Recapitulation	英語III Bで学んだことのまとめ

担当者から一言
英和辞書だけでなく、英英辞書も持参すること。

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境④）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110451	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

Students will gain confidence and ability in applying English language skills in enjoyable and educational communicative activities such as group discussions and writing activities.

Mid-term Presentation: Students write a one-page essay or story. The teacher meets with each student individually and gives advice about grammar and how to write interesting sentences. Students next read their essay or story aloud and the teacher corrects any pronunciation problems. Finally, students read their essays aloud to the class and the teacher gives grades for writing and speaking.

Homework: There will be speaking and writing homework in this class.

到達目標

Students will be able to speak English with good pronunciation, fluency, and good delivery (clear voice and good volume, address all class topics adequately, produce the required quantity of speech, apply class material such as vocabulary and sentence patterns). Their English will also be grammatically correct.

Students will be able to write grammatically correct, complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Final Oral Presentation - Students will give a final presentation in class. Students will also submit a written speech.
レポート課題	50	Mid-term Speaking test: Each Speaking Objective - 25% each Mid-term Writing test: Writing Objectives 1 & 3 - 25% each, Writing Objective 3 - 50%
上記以外	25	Homework - There will be writing and speaking homework in this class.

Refer to the Rubric for details on how grades are evaluated. 学生はクラスを３回以上欠席なると毎回欠席は採点から３点減らす。Students who miss more than 3 classes will lose 3 points for each class missed over 3 classes.

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Writing Paragraphs: From Sentence to Paragraph	Dorothy Zemach, Carlos Islam	Macmillan	978-02-30415-93-5
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Students are encouraged to bring a Japanese-English/English-Japanese dictionary (any is OK).

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境④）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110451	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Week 1	Course introduction, syllabus quiz, getting to know other students. Begin writing one-page story/essay. Topics will be discussed in class.
第2回	Week 2	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第3回	Week 3	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第4回	Week 4	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第5回	Week 5	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第6回	Week 6	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第7回	Week 7	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第8回	Week 8	Students read aloud their writing to the class. Teacher gives a grade for speaking and another grade for writing.
第9回	Week 9	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第10回	Week 10	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第11回	Week 11	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第12回	Week 12	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第13回	Week 13	Discuss the weekly topic in pairs, groups, and as a class. Use the weekly writing skill in textbook and other activities.
第14回	Week 14	Final presentations.
第15回	Week 15	Final presentations.

担当者から一言
It's OK to make mistakes as long as you try your best. A word on plagiarism (盗作): do your own original work on all assignments. Do not copy from the internet. Do not copy from other students. Students caught engaging in plagiarism will be subject to discipline

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境④）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110452	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

This social studies themed course focuses on building vocabulary as well as improving reading comprehension and listening skills. This approach will have clear benefits for those students taking the TOEIC test. Students will also work on their paragraph/essay writing skills and receive coaching from the tutor. In class, the students will work in pairs and small groups on discussion exercises related to course text topics. Students will also be introduced to a number of self-study techniques to empower their own learning experiences.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25	Mid-term essay speaking/reading test
レポート課題	25	Mid-term essay writing
上記以外	50	Final Test

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Required Text: Hot Topics Japan II - Stephanie Alexander [Compass Publishing].

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境④）							担当教員	Armando Duarte
講義コード	1110452	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Course Introduction/ People & Society Pt.1	Overview of Assignments. Hot Topics Japan 2, Unit 1 'Holidays in Japan'.
第2回	People & Society Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 2, 'The low crime rate of Japan'.
第3回	People & Society Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 3, 'Divorce in Japan'.
第4回	Health & Fitness Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 4, 'The healthy habits of Japanese women'.
第5回	Health & Fitness Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 5, 'Otsukare'.
第6回	Health & Fitness Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 6, 'Traditional Japanese foods'.
第7回	Children & Education Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 7, 'Martial Arts in Schools'.
第8回	Children & Education Pt.2	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 2, Unit 8, 'Whole Person Education'.
第9回	Children & Education Pt.3	Student mid-term essay reading/speaking tests Hot Topics Japan 2, Unit 9, 'The Suzuki Method'.
第10回	Science & Technology Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 10, 'Internet Cafe Kids'.
第11回	Science & Technology Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 11, 'E-wallets'.
第12回	Science & Technology Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 12, 'The Space Program'.
第13回	Art & Culture Pt.1	Hot Topics Japan 2, Unit 13, 'J-pop sensation'.
第14回	Art & Culture Pt.2	Hot Topics Japan 2, Unit 14, 'Taboo Tattoos'.
第15回	Art & Culture Pt.3	Hot Topics Japan 2, Unit 15, 'The Business of Cosplay'.

担当者から一言
Students should be prepared to do some self-study in order to follow the course. In class, students will work in pairs and small groups and will be expected to participate actively at all times.

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境⑤）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110461	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。
期末テストの他に１４、１５回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます（定期テスト50点中10点分になります）
5回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST INTERMEDIATE	番場直之、小山克明	金星堂	978-4-7647-4090-7
2				
3				

必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境⑤）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110461	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	英語の基礎事項の確認	基礎事項の確認
第2回	Unit1	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit1	Part2, 3, 6
第4回	Unit2	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit2	Part2, 3, 6
第6回	Unit3	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit3	Part2, 3, 6
第8回	Unit4	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit4	Part2, 3, 6
第10回	Unit5	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit5	Part2, 3, 6
第12回	Unit6	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit6	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit1～6の復習
第15回	暗唱テスト	Unit1～6の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語IIIＢ（充実コース）（環境⑤）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110462	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

TOEIC形式の教科書を使い、書いてある、もしくは音声での英語を素早く理解し、そしてアウトプットできるようなることを目標として、演習形式で特訓します。
英語を読み・聞きくだけでは実力はつきません。言語は他の人と情報を伝達するためのものですから、他の学生とペアになっての演習や音読が大事となります。したがって授業への積極的な参加が出席の必要条件です。
毎回の授業の初めに復習テスト（筆記式）と授業の最後にグループ単位での課題提出があります。
期末テストの他に１４、１５回目の講義で英文の暗唱テストを行います。

到達目標

（１）語彙力の向上
（２）リスニング力の向上
（３）読解力の向上
（４）英語での思考力の向上
（５）英語での発信力の向上

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%
レポート課題		
上記以外	50	（１）語彙力10% （２）リスニング力10% （３）読解力10%

14回、15回目の講義で英文暗唱テストが行われます（定期テスト50点中10点分になります）
5回の欠席で評価対象から除外されます（出席回数はお知らせしません）。なお学校が認めた公欠以外は一切認めません。

授業外学習

授業で扱った英文を、日本語から英語に、英語から日本語にクイックレスポンスできるまで復習しておくこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	978-4-7647-4090-7	番場直之、小山克明	金星堂	978-4-7647-4090-7
2				
3				

前期と教科書は同じです。必ず購入のこと。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

どのような物でも構わないので辞書を持参のこと。

前提学力等

※３回生以上の特例処置での再履修を希望する学生は、本シラバスを確認した上で必ず１回目の授業に出席すること。出席しなかった学生の再履修は認めない。

履修資格

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境⑤）							担当教員	佐久間　思帆※
講義コード	1110462	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前期の復習	基礎事項の確認
第2回	Unit7	Part1, 4, 5, 7
第3回	Unit7	Part2, 3, 6
第4回	Unit8	Part1, 4, 5, 7
第5回	Unit8	Part2, 3, 6
第6回	Unit9	Part1, 4, 5, 7
第7回	Unit9	Part2, 3, 6
第8回	Unit10	Part1, 4, 5, 7
第9回	Unit10	Part2, 3, 6
第10回	Unit11	Part1, 4, 5, 7
第11回	Unit11	Part2, 3, 6
第12回	Unit12	Part1, 4, 5, 7
第13回	Unit12	Part2, 3, 6
第14回	暗唱テスト	Unit7～12の復習
第15回	暗唱テスト	Unit7～12の復習

担当者から一言
※授業の進行を妨げ、他の学生が学習する機会を損なう行為（私語、Twitter、Line等の使用、ペアワークへの不参加等）をする者の受講は認めません。

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境⑥）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業概要

This social studies themed course will build on the speaking, listening, writing and reading skills of students, and further develop their vocabulary. In class, the students will work in pairs and small groups. Students will also practise a number of self-study techniques.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term listening/speaking test
レポート課題	50	Mid-term reading/writing test
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	978-1-61352-519-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIA（充実コース）（環境⑥）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110471	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 1	Personal space
第2回	Unit 1	Personal space
第3回	Unit 2	Japanese restaurant culture
第4回	Unit 2	Japanese restaurant culture
第5回	Unit 3	Collectivism
第6回	Unit 3	Collectivism
第7回	Unit 4	Natural vs. artificial ingredients in snacks
第8回	Unit 4	Natural vs. artificial ingredients in snacks
第9回	Unit 5	Medical masks in Japan
第10回	Unit 5	Medical masks in Japan
第11回	Unit 6	Japanese tea
第12回	Unit 6	Japanese tea
第13回	Unit 7	Youth subcultures in Japan
第14回	Unit 7	Youth subcultures in Japan
第15回	Unit 8	Juku culture

担当者から一言

講義名	英語IIIB（充実コース）（環境⑥）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110472	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業概要

This social studies themed course will build on the speaking, listening, writing and reading skills of students, and further develop their vocabulary. In class, the students will work in pairs and small groups. Students will also practise a number of self-study techniques.

到達目標

Reading: Students will be able to read and comprehend longer articles written using complex English sentences and topic-specific vocabulary.
Writing: Students will be able to write grammatically correct complex sentences and paragraphs that are spelled and punctuated correctly.
Speaking: Students will be able to articulate simple opinions and express agreement/disagreement in class discussions.

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	End-of-term listening/speaking test
レポート課題	50	Mid-term reading/writing test
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Hot Topics Japan 1	Stephanie Alexander	Compass Publishing	978-1-61352-519-7
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IIIＢ（充実コース）（環境⑥）							担当教員	Graham Jones※
講義コード	1110472	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG202								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 8	Juku culture
第2回	Unit 9	Studying abroad
第3回	Unit 9	Studying abroad
第4回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places
第5回	Unit 10	Cell phone etiquette in public places
第6回	Unit 11	Vending machines
第7回	Unit 11	Vending machines
第8回	Unit 12	Robotics research
第9回	Unit 12	Robotics research
第10回	Unit 13	Manga
第11回	Unit 13	Manga
第12回	Unit 14	Karaoke
第13回	Unit 14	Karaoke
第14回	Unit 15	Japanese gardens
第15回	Unit 15	Japanese gardens

担当者から一言

講義名	英語IVA（展開コース）（環境①）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110631	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、外国人が実際に体験する日本文化の現地レポートと、様々な国の出身者が自国文化と日本文化の違いを語るディスカッションの映像を見て、世界各国の多様な文化背景を持つスピーカーの考えに触れ、日本文化を再認識し、世界へ向けて英語で発信する力を養う。

到達目標

(1)語彙力を増強する。
(2)英語母語話者および非母語話者による英語を聞き取り、ペアまたはグループ・ワークによって自分の考えを述べる。
(3)日本文化を紹介する映像を視聴し、その内容を理解する。
(4)日本事象について英語で発信することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標(4)については、レポート課題によって評価する
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(30%)によって評価する。

授業を3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の携帯電話の使用は認めない。

授業外学習

毎週の授業について、web動画による視聴および音読を行い、復習をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Discovering Cool Japan	Akiko Tusuda他	成美堂	978-4-7919-7187-9
2				
3				

英和辞書を持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境①）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110631	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Unit1: Long-Established Businesses	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第3回	Unit2: Uniforms	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第4回	Unit3: Volunteer Work	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第5回	Unit4: High-Tech Living (Automobiles)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第6回	Unit5: Japanese Tableware	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第7回	Unit6: Homemakers of Japan	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第8回	Unit7: Seafood	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第9回	Unit8: Voice Actors	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第10回	Unit9: Japanized Foreign Dishes	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第11回	Unit10: Bags	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第12回	Unit11: Senior Citizens (Medical Checkups)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第13回	Unit12: Money	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第14回	Unit13: Monkeys	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第15回	復習	前期学習内容の確認と復習

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVB（展開コース）（環境①）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110632	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、NHK World Japanの海外向けニュース番組NEWSLINEを視聴し、国内のニュースを英語で理解し、さらに発信する力を養成する。

到達目標

(1)時事問題に関する語彙および身近な日本語に対する英語表現を習得する。
(2)ニュースを聞いて正しくその内容を理解することができる。
(3)正しい発音とイントネーションを身に付け、ニュースを音読することができる。
(4)ニュースの内容について自分の意見を英語で述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	(4)については、発表及びワークシートの提出で評価する。
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。さらに後期に受験するTOEICスコア(10%)を組み込む。

授業を3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなりる。授業中は携帯電話等の通信機器の使用は認めない。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となる。

授業外学習

毎週の授業後、各ユニットの映像をオンラインで視聴し、リスニング及びシャドウイング練習を行うこと。さらに、毎週実施する小テストに備えて語彙を覚えること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NHK Newsline2	Tatshuro Yamazaki	金星堂	978-4-7647-4072-3
2				
3				

英和辞書を持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境①）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110632	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit: Sprouting New Sushi Ideas	語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第3回	Unit2: In the Pole Position	小テスト①、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第4回	Unit3: Easing Off	小テスト②、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第5回	Unit4: In Memory of Monty	小テスト③、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第6回	Unit5: Dating the AI Way	小テスト④、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第7回	Unit6: Floating on a Dream	小テスト⑤、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第8回	Unit7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	小テスト⑥、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第9回	Unit8: Sorting It Out	小テスト⑦、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第10回	Unit9: Haircuts for Charity	小テスト⑧、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第11回	Unit10: Peer Group Consumption	小テスト⑨、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第12回	Unit11: Taste of Temple Life	小テスト⑩、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第13回	Unit12: New Take on Tatami	小テスト⑪、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第14回	Unit13: Traveling with Confidence	小テスト⑫、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第15回	Unit14: Tanzanian Students Discover Japan	小テスト⑬、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション

担当者から一言

授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVA（展開コース）（環境②）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110641	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、リスニングとリーディングを中心に英語の全般的な能力を総合的に高めることを目的とする。リーディングで全体の構造を把握し、50 words程度の比較的易しい英語を使って、自分の考えを英語で発信する練習を行う。Timed Readingなどの宿題や毎週のクイズ、クラスでのアクティビティーに積極的に取り組んで、さらに英語力を伸ばしていってもらいたい。

到達目標

（1）リーディング力を向上させる
（2）自分の意見をまとめて英文で書くことができる
（3）積極的に英語でコミュニケーションする経験を積む

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	25%	確認テストによって評価
レポート課題	25%	ライティング課題
上記以外	50	小テスト、Timed Reading およびその他の課題

正当な理由がなく４回以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

語学の学習は、週１回のクラスだけではできません。Listening Journalなどに積極的に取り組んでください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Reading choice	Yasuko Okino, Miwako Yamashina, Mitsuru Yokoyama	Cengage Learning	9781285197494
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境②）							担当教員	齊藤　倫子
講義コード	1110641	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション	コース説明と自己紹介
第2回	Unit 1	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 1	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 2	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 2	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 3	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 3	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	確認テストとまとめ	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 4	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 4	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 5	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 5	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 6	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第14回	Unit 6	クイズ、テキスト内容の確認と発展、English activities
第15回	まとめ	確認テストとまとめ

担当者から一言
実際に放映されたTVニュースを視聴し、その後の経過について調べることで、日本語だけでは入手できない情報やものの見方を手に入れることができます。リスニング力とスピーキング力を向上させながら、刻一刻と変化する世界の情勢についても学んでいきましょう。

講義名	英語IVB（展開コース）（環境②）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110642	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業は、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力（リーディング）、理解し考えたことを英語で表現する力（ライティング）、口頭での英語発表のやり取りを行う力（スピーキング＋リスニング）を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

到達目標

（1）自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
（2）口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
（3）自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標（1）について、中間および最終発表によって評価（15%） 到達目標（2）について、中間および最終発表によって評価（25%） 到達目標（1）（2）（3）について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価（50%）

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語１	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。辞書は、原則、紙の辞書か電子辞書を用意してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境②）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110642	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション／Unit 1	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 2 Self-appeal	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 3 What is research?	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 4 Outline of research	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 5 Organizing ideas and data	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 6 Research methods	テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 7 Writing a script	テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 8 Mini-presentation (1)	プロジェクト中間発表
第9回	Unit 9 Mini-presentation (2)	プロジェクト中間発表
第10回	Unit 10 Responding to questions (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Responding to questions (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 12 Written presentation	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 13 Final mini-presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 14 Final mini-presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 15 Final mini-presentation (3)	プロジェクト最終発表

担当者から一言

講義名	英語IVA（展開コース）（環境③）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110651	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、特にライティング能力の向上に重点を置きます。パラグラフライティングから論理的な文章が書けることを目標とします。パラグラフライティングに必要な文法や表現を学習します。また、リスニングと音読を通してパラグラフの構成についても学習します。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

到達目標

（1）論理的なパラグラグを書くことができる。
（2）語彙力や文法力を向上させる。
（3）リスニング力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で40%として評価。
レポート課題		
上記以外	60%	到達目標（1）（2）について、エッセーテストを２回行い、40%として評価。 到達目標（2）（3）（4）について、指示した活動や課題で20%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Smart Writing	Miyako Nakaya他	SEIBIDO	978-4-7919-6032-3
2				
3				

初回授業でテキストの説明・導入を予定しているため、各自必ず購入を済ませて持参すること。辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境③）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110651	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要や方針についての説明。　受講者同士の自己紹介。テキストを用いて、授業の流れや予習範囲の確認。
第2回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 1 What is a Paragraph	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 2 Narration	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 3 Process	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く（1）	与えたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 4 Description of Feelings	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 5 Description of People	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 6 Description of Places & Locations	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 7 Definition	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く（2）	与えたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。

担当者から一言

講義名	英語IVB（展開コース）（環境③）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110652	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業では、４技能を統合的に活用し、特にライティング能力の向上に重点を置きます。パラグラフライティングから論理的な文章が書けることを目標とします。パラグラフライティングに必要な文法や表現を学習します。また、リスニングと音読を通してパラグラフの構成についても学習します。ペアワークやグループワークを通してインプットからアウトプットにつなげる活動もします。

到達目標

（1）論理的なパラグラグを書くことができる。
（2）語彙力や文法力を向上させる。
（3）リスニング力を向上させる。
（4）積極的に英語でコミュニケーションすることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	30%	到達目標（1）（2）（3）について、期末試験で30%として評価。
レポート課題		
上記以外	70%	到達目標（1）（2）について、エッセーテストを２回行い、40%として評価。 到達目標（2）（3）（4）について、指示した活動や課題で20%として評価。 到達目標（2）（3）についてTOEICのスコアで10%として評価。

授業外学習

学習内容を効果的に定着させるため、授業の復習・予習などの授業外学習は欠かさず行うこと。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Smart Writing	Miyako Nakaya他	SEIBIDO	978-4-7919-6032-3
2				
3				

辞書を必ず持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境③）							担当教員	神田　眞喜子
講義コード	1110652	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	授業概要、方針、課題についての説明。
第2回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第3回	Chapter 8 Comparison & Contrast	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第4回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第5回	Chapter 9 Cause & Effect	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第6回	Chapter 10 Problems & Solutions	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第7回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第8回	エッセーを書く（1）	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。
第9回	Chapter 11 Your Opinion - Agree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第10回	Chapter 12 Your Opinion - Disagree	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第11回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第12回	Chapter 13 Data Analysis	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第13回	Chapter 14 Email Writing	リスニング、音読、ライティング、コミュニケーション活動。
第14回	Peer review	受講者が書いたエッセーをレビューする。
第15回	エッセーを書く（2）	与えれたテーマに関して、Introduction, Body, Conclusionの流れにしたがってエッセーを書く。

担当者から一言

講義名	英語IVA（展開コース）（環境④）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110661	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業では、外国人が実際に体験する日本文化の現地レポートと、様々な国の出身者が自国文化と日本文化の違いを語るディスカッションの映像を見て、世界各国の多様な文化背景を持つスピーカーの考えに触れ、日本文化を再認識し、世界へ向けて英語で発信する力を養う。

到達目標

(1)語彙力を増強する。
(2)英語母語話者および非母語話者による英語を聞き取り、ペアまたはグループ・ワークによって自分の考えを述べる。
(3)日本文化を紹介する映像を視聴し、その内容を理解する。
(4)日本事象について英語で発信することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	到達目標(4)については、レポート課題によって評価する
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(30%)によって評価する。

授業を3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなる。授業中の携帯電話の使用は認めない。

授業外学習

毎週の授業について、web動画による視聴および音読を行い、復習をすること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	Discovering Cool Japan	Akiko Tusuda他	成美堂	978-4-7919-7187-9
2				
3				

英和辞書を持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境④）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110661	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	自己紹介/授業の進め方等の説明
第2回	Unit1: Long-Established Businesses	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第3回	Unit2: Uniforms	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第4回	Unit3: Volunteer Work	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第5回	Unit4: High-Tech Living (Automobiles)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第6回	Unit5: Japanese Tableware	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第7回	Unit6: Homemakers of Japan	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第8回	Unit7: Seafood	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第9回	Unit8: Voice Actors	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第10回	Unit9: Japanized Foreign Dishes	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第11回	Unit10: Bags	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第12回	Unit11: Senior Citizens (Medical Checkups)	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第13回	Unit12: Money	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第14回	Unit13: Monkeys	ビデオ視聴と内容理解及びペア・グループワーク
第15回	復習	前期学習内容の確認と復習

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVB（展開コース）（環境④）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110662	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業では、NHK World Japanの海外向けニュース番組NEWSLINEを視聴し、国内のニュースを英語で理解し、さらに発信する力を養成する。

到達目標

(1)時事問題に関する語彙および身近な日本語に対する英語表現を習得する。
(2)ニュースを聞いて正しくその内容を理解することができる。
(3)正しい発音とイントネーションを身に付け、ニュースを音読することができる。
(4)ニュースの内容について自分の意見を英語で述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40%	(4)については、発表及びワークシートの提出で評価する。
上記以外	60%	到達目標(1)については、授業内の小テスト(30%)、到達目標(2)(3)については、授業中の活動への積極的な参加(20%)によって評価する。さらに後期に受験するTOEICスコア(10%)を組み込む。

授業を3分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。また、３０分以上の遅刻は欠席扱いとなりる。授業中は携帯電話等の通信機器の使用は認めない。また、居眠りや私語、内職等は減点対象となる。

授業外学習

毎週の授業後、各ユニットの映像をオンラインで視聴し、リスニング及びシャドウイング練習を行うこと。さらに、毎週実施する小テストに備えて語彙を覚えること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	NHK Newsline2	Tatshuro Yamazaki	金星堂	978-4-7647-4072-3
2				
3				

英和辞書を持参すること。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境④）							担当教員	菰田　真由美
講義コード	1110662	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Introduction/授業概要	授業の進め方等の説明/ウォームアップ
第2回	Unit: Sprouting New Sushi Ideas	語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第3回	Unit2: In the Pole Position	小テスト①、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第4回	Unit3: Easing Off	小テスト②、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第5回	Unit4: In Memory of Monty	小テスト③、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第6回	Unit5: Dating the AI Way	小テスト④、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第7回	Unit6: Floating on a Dream	小テスト⑤、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第8回	Unit7: Japan Adventurer Completes Grand Slam	小テスト⑥、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第9回	Unit8: Sorting It Out	小テスト⑦、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第10回	Unit9: Haircuts for Charity	小テスト⑧、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第11回	Unit10: Peer Group Consumption	小テスト⑨、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第12回	Unit11: Taste of Temple Life	小テスト⑩、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第13回	Unit12: New Take on Tatami	小テスト⑪、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第14回	Unit13: Traveling with Confidence	小テスト⑫、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション
第15回	Unit14: Tanzanian Students Discover Japan	小テスト⑬、語彙確認、ニュース視聴と内容理解、ディクテーション、音読練習、ディスカッション

担当者から一言
授業内の学習だけで英語力を身に付けることは難しいので、隙間時間等を利用して語彙力の定着やリスニング力の養成に努めて下さい。具体的な教材や学習方法についてのアドバイスを行いますので、気軽に質問してください。

講義名	英語IVA（展開コース）（環境⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110671	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

この授業は、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力（リーディング）、理解し考えたことを英語で表現する力（ライティング）、口頭での英語発表のやり取りを行う力（スピーキング＋リスニング）を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

到達目標

（1）自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
（2）口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
（3）自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標（1）について、中間および最終発表によって評価（25%） 到達目標（2）について、中間および最終発表によって評価（25%） 到達目標（1）（2）（3）について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価（50%）

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語１	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。辞書は、原則、紙の辞書か電子辞書を用意してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110671	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	イントロダクション／Unit 1	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 2 Self-appeal	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 3 What is research?	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 4 Outline of research	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 5 Organizing ideas and data	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 6 Research methods	テキスト内容の確認と発展、English activities
第7回	Unit 7 Writing a script	テキスト内容の確認と発展、English activities
第8回	Unit 8 Mini-presentation (1)	プロジェクト中間発表
第9回	Unit 9 Mini-presentation (2)	プロジェクト中間発表
第10回	Unit 10 Responding to questions (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 11 Responding to questions (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 12 Written presentation	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 13 Final mini-presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 14 Final mini-presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 15 Final mini-presentation (3)	プロジェクト最終発表

担当者から一言

講義名	英語IVB（展開コース）（環境⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110672	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

この授業は、前期に引き続き、英語を使うことによって英語を学ぶ、プロジェクト中心の演習クラスです。これまで学んできた英語のスキルと知識を活かして、自分にとって関心のある事柄についてさらに詳しく調べ、必要な情報を精確に読み取る力（リーディング）、理解し考えたことを英語で表現する力（ライティング）、口頭での英語発表のやり取りを行う力（スピーキング＋リスニング）を高めます。また、プロジェクトは各自で責任をもって行ってもらいますが、小グループで互いにアドバイスをし合い学び合って、より良いものをめざします。

到達目標

（1）自分が調べた内容をまとめて表現するライティング力を身につける
（2）口頭発表を行い、Q&Aなどで英語でやり取りをする力を身につける
（3）自分にとって関心のある事柄について調べ、必要な情報を精確に読み取る力を身につける

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	到達目標（1）について、中間および最終発表によって評価（15%） 到達目標（2）について、中間および最終発表によって評価（25%） 到達目標（1）（2）（3）について、毎週の課題とクラスでの取り組みによって評価（50%）

正当な理由がなく全クラスの１／３以上欠席した場合、評価の対象としません。なお、遅刻３回で欠席１回、30分以上の遅刻は欠席として扱います。

授業外学習

このクラスは、授業外での学習（課題提出）の積み重ねが評価されます。毎週、課題に取り組む時間を確保してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	プロジェクト発信型英語１	鈴木佑治	南雲堂	9784523177357
2				
3				

辞書と教科書は、必ず初回授業から持ってくること。辞書は、原則、紙の辞書か電子辞書を用意してください。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

後期から初めてこのクラスを履修する場合は、前期の内容について説明しますので、テキストのUnit 1〜15をよく読んだ上で、最初の授業前に面談の予約をしてください。

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境⑤）							担当教員	坂本　輝世
講義コード	1110672	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	Unit 16 Starting a project	授業の進め方・評価方法の説明、English activities
第2回	Unit 17 Gathering data from interviews	テキスト内容の確認と発展、English activities
第3回	Unit 18 Gathering data from questionnaire	テキスト内容の確認と発展、English activities
第4回	Unit 19 Multimeidia resources (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第5回	Unit 20 Multimedia resources (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第6回	Unit 21 Mid-term presentation (1)	プロジェクト中間発表
第7回	Unit 22 Mid-term presentation (2)	プロジェクト中間発表
第8回	Unit 23 Paragraph reading (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第9回	Unit 24 Paragraph reading (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第10回	Unit 25 Summarizing paragraphs (1)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第11回	Unit 26 Summarizing paragraphs (2)	テキスト内容の確認と発展、English activities
第12回	Unit 27 Writing an outline	テキスト内容の確認と発展、English activities
第13回	Unit 28 Final presentation (1)	プロジェクト最終発表
第14回	Unit 29 Final presentation (2)	プロジェクト最終発表
第15回	Unit 30 Final presentation (3)	プロジェクト最終発表

担当者から一言

講義名	英語IVA（展開コース）（環境⑥）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110681	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVA（展開コース）（環境⑥）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110681	単位数	1	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG203								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の概要説明。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。

担当者から一言
When life gives you lemons, make lemonade! ピンチをチャンスにできるかは自分次第です。置かれた状況でベストを尽くしてください。

講義名	英語IVB（展開コース）（環境⑥）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110682	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業概要

本授業は、TOEICのスコアアップを目指し、リスニングおよびリーディング能力の養成を目的とします。TOEIC公式問題集の問題演習をとおして、必要な語彙や文法を学び、英語力育成を行います。授業では、音読やシャドーイングなど英語を声に出して練習し、ペアワークやグループワークで実際に英語を使う訓練も積み重ねていきます。TOEICでのスコアアップには、英語の知識だけでなく、試験時間120分に耐える集中力や、200問を解ききる瞬発力も求められます。本授業ではこうした実践力を伸ばすことも念頭において、英語力向上に向けたトレーニングを行います。

到達目標

（１）TOEIC問題の特徴を理解し、時間内に解答することができる。
（２）TOEICレベルの英文を正確にかつスムーズに音読できる。
（３）TOEICに対応できる語彙や表現知識を深める。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標（１）に関しては、期末試験で評価します（60%）。
レポート課題		
上記以外	40	到達目標（２）に関しては、授業中の音読活動やペア、グループワーク、振り返りワークシートによって評価し（20%）、到達目標（３）に関しては、各回の小テストで評価します（20%）。

出欠状況は毎回確認します。授業を４回欠席した場合、成績評価はされませんので注意してください。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとなります。

授業外学習

毎回授業の冒頭に、確認小テストがありますので、復習をかねて家で勉強してきてください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3	Educational Testing Service	国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-53-9
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	英語IVB（展開コース）（環境⑥）							担当教員	渡　寛法
講義コード	1110682	単位数	1	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	201ENG204								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	夏休みの振り返り、今学期の目標設定。
第2回	Unit 1	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第3回	Unit 2	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第4回	Unit 3	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第5回	Unit 4	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第6回	Unit 5	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第7回	Unit 6	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第8回	Unit 7	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第9回	Unit 8	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第10回	Unit 9	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第11回	Unit 10	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第12回	Unit 11	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第13回	Unit 12	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第14回	Unit 13	テキストの問題演習と音読活動を行う。
第15回	Unit 14	テキストの問題演習と音読活動を行う。

担当者から一言
前期に引き続き、TOEIC公式問題集で12月の試験にむけて腕を磨いていきましょう！千里の道も一歩から！A journey of a thousand miles begins with a single step !!

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境a)							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130010	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは必須である．
本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術，電子メール，文書処理などをMS Windows環境下で習得するとともに，情報倫理についても学ぶ．
そして，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトによる成果発表の手法を習得する．

到達目標

(1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること．情報ネットワークを介して検索ツールを駆使することができ、学術情報の検索ができること．さらに，情報倫理について理解を深めること．
(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること．
(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に議論を展開し結論づけることができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること．情報ネットワークの活用により学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること，(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること，(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることがで
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する．

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	9784130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと．

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境a)							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130010	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報処理環境の基本構成と操作	・ 情報処理（演習室）環境の基本構成と利用方法 ・ パスワードの設定
第2回	情報処理環境の慣熟操作と各種設定	・ 情報処理（演習室）環境の慣熟操作 ・ 電子メールおよびインターネット環境の設定
第3回	情報倫理について ～情報の保護と責務～	・ 個人情報の管理とインターネット使用上の留意点 ・ 電子メールの使い方について
第4回	図書館活用ガイダンス	・ 資料検索ツールおよび図書館での資料検索技術の習得
第5回	文書作成ソフトウエアの基礎	・ 文書作成ソフトウエアの起動と作成文書の保存(先) ・ USBへのファイル保存，読み出し，削除，等
第6回	表現の形態 ～論文を書くとは～	・ 論文を書くとはどのようなことか，レポートとの相違点 ・ レポートを書くときの注意点，論文の標準的なスタイル．
第7回	論文作法－１ ～書式設定の詳細～	・ 文書を入力する（書く）前に必要なこと ・ 書式設定の詳細（マージン，フォントとサイズ，段組，等）
第8回	論文作法－２ ～論文の構成～	・ 具体的な入力法（章だて，段落，脚注，インデント，等）
第9回	論文作法－３ ～Excel による表データの可視化	・ 作表および表データの可視化 ・ エクセルからの可視化データの読み込み，等
第10回	論文作法－４ ～論文の形式～	・ 論文の形式と文章の特徴（文体）
第11回	情報倫理について ～剽窃は犯罪～	・ 情報発信と著作権侵害 ・ 知的財産権について
第12回	論文作法－５ ～剽窃防止と文献引用～	・ 剽窃防止の徹底と文献引用の仕方について ・ 知的所有権と情報へのアクセスの確保
第13回	論文作法－６ ～論文発表の基本～	・ パワーポイントを用いた論文発表の基本とその注意点
第14回	表現の形態 ～まとめ～	・ 論文作法のまとめ ・ 作成課題（「表現の形態～論文を書くこと」）の印刷
第15回	課題レポートの準備	・ 課題レポート（小論文）について

担当者から一言
実習が主になる授業ですので，授業で習った内容について次の授業までに必ず復習しておくことが必要です． 授業を欠席した場合は，その日の講義内容を友人に尋ねて習得しておくこと．

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境b)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130020	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

（1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。
（2）学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境b)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130020	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得
第9回	レポートの基本	レポートと学術論文の概念と論文作成の基本
第10回	情報収集と加工	レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本
第11回	画像等の処理	レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本
第12回	統計データ処理	レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学術論文の作成のまとめ
第14回	課題の作成	レポート課題の作成
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学術論文発表のまとめ

担当者から一言

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境c)							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報処理技術の習得は日常生活に資するだけでなく，大学で学ぶ上で情報処理のリテラシーを習得しておくことは必須である．
本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術，すなわち，Webブラウザの操作と検索ツールを用いた文献資料検索技術，電子メール，文書処理などをMS Windows環境下で習得するとともに，情報倫理についても学ぶ．
そして，レポートや学術論文の作成の基本を習得し，プレゼンテーションソフトによる成果発表の手法を習得する．

到達目標

(1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること．情報ネットワークを介して検索ツールを駆使することができ、学術情報の検索ができること．さらに，情報倫理について理解を深めること．
(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること．
(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に議論を展開し結論づけることができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す (1) 大学で学ぶための自分の情報処理環境を整備できること．情報ネットワークの活用により学術情報の検索ができること．情報倫理についても理解を深めること，(2) 論文やレポートの作成のために不可欠な執筆作法の基礎的事項を習得すること，(3) 設定した問題に対し，彼我の論点を整理・対比させ，論理的に結論づけることがで
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する．

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	知の技法：東京大学教養学部「基礎演習」テキスト	小林康夫・船曳建夫	東京大学出版会	9784130033053
2				
3				

前提学力等

キーボードからの入力に慣れておくこと．

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境c)							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報処理環境の基本構成と操作	・ 情報処理（演習室）環境の基本構成と利用方法 ・ パスワードの設定
第2回	情報処理環境の慣熟操作と各種設定	・ 情報処理（演習室）環境の慣熟操作 ・ 電子メールおよびインターネット環境の設定
第3回	情報倫理について ～情報の保護と責務～	・ 個人情報の管理とインターネット使用上の留意点 ・ 電子メールの使い方について
第4回	図書館活用ガイダンス	・ 資料検索ツールおよび図書館での資料検索技術の習得
第5回	文書作成ソフトウエアの基礎	・ 文書作成ソフトウエアの起動と作成文書の保存(先) ・ USBへのファイル保存，読み出し，削除，等
第6回	表現の形態 ～論文を書くとは～	・ 論文を書くとはどのようなことか，レポートとの相違点 ・ レポートを書くときの注意点，論文の標準的なスタイル．
第7回	論文作法－１ ～書式設定の詳細～	・ 文書を入力する（書く）前に必要なこと ・ 書式設定の詳細（マージン，フォントとサイズ，段組，等）
第8回	論文作法－２ ～論文の構成～	・ 具体的な入力法（章だて，段落，脚注，インデント，等）
第9回	論文作法－３ ～Excel による表データの可視化	・ 作表および表データの可視化 ・ エクセルからの可視化データの読み込み，等
第10回	論文作法－４ ～論文の形式～	・ 論文の形式と文章の特徴（文体）
第11回	情報倫理について ～剽窃は犯罪～	・ 情報発信と著作権侵害 ・ 知的財産権について
第12回	論文作法－５ ～剽窃防止と文献引用～	・ 剽窃防止の徹底と文献引用の仕方について ・ 知的所有権と情報へのアクセスの確保
第13回	論文作法－６ ～論文発表の基本～	・ パワーポイントを用いた論文発表の基本とその注意点
第14回	表現の形態 ～まとめ～	・ 論文作法のまとめ ・ 作成課題（「表現の形態～論文を書くこと」）の印刷
第15回	課題レポートの準備	・ 課題レポート（小論文）について

担当者から一言
実習が主になる授業ですので，授業で習った内容について次の授業までに必ず復習しておくことが必要です． 授業を欠席した場合は，その日の講義内容を友人に尋ねて習得しておくこと．

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境d)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130040	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業概要

情報技術の習得は、我々の生活においても必要不可欠なファクターである。まして、大学で学問をしていく上で、情報処理のリテラシーを習得しておくことは今や必須である。そこで、本講では高年次で開講される講義や演習及び実習に必要とされる情報技術、すなわち、Webブラウザの操作と活用、電子メール、文書処理などをMS Windows環境で習得するとともに情報倫理についても学ぶ。さらに、レポートや学術論文の作成の基本を習得し、プレゼンテーションソフトなどにより、学術論文発表の手法を習得する。

到達目標

（1）情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。
（2）学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	学術論文作成のため情報を検索で得た情報を加工し、統計処理し、プレゼンテーションソフト等によって発表でき、さらに、検索で得られた情報によりレポート作成や学術論文を作成する基本を習得すること。
上記以外	50%	情報ネットワークの活用によって学術情報の検索ができ、文献検索により学術図書や学術情報の検索ができることともに、情報倫理についても収得すること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	情報学	勝木・亀田	多賀出版	
2	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な統計処理、Webによる情報検索、パソコンによる文書処理が前提

履修資格

講義名	情報リテラシー（情報倫理を含む）(環境d)							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130040	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	基本構成と操作	コンピュータの基本構成と操作
第2回	アカウントの設定	情報ネットワークの理論とアカウントの設定
第3回	システムの操作	情報システムとOSおよびファイル操作
第4回	情報検索	Webブラウザの操作と情報検索とネットワーク上でのセキュリティ
第5回	情報収集	インターネットによる情報収集とウィルスおよびスパイウエア
第6回	文献情報検索	図書情報検索と論文および著作等の情報検索
第7回	情報倫理	電子メールの利用と情報倫理としてのメールでのマナー
第8回	文書作成	文書作成ソフトによるレポート作成の基本の習得
第9回	レポートの基本	レポートと学術論文の概念と論文作成の基本
第10回	情報収集と加工	レポートと学術論文の書式と情報収集と加工の基本
第11回	画像等の処理	レポートと学術論文の書式と画像等の処理の基本
第12回	統計データ処理	レポートと学術論文の書式と統計データ処理の基本
第13回	論文の作成のまとめ	レポートと学術論文の作成のまとめ
第14回	課題の作成	レポート課題の作成
第15回	課題のまとめ	レポート課題と学術論文発表のまとめ

担当者から一言

講義名	情報科学概論（環境a）							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

　インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし，高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ．
　特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について，表計算ソフトを利用して関数による計算処理や基礎的な統計技法等について学ぶ．
　さらに，学術論文作成のための基本的なデータ処理手法などについても学ぶ．

到達目標

(1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．
(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．
(3) What-If分析を理解し，応用できる．
(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．
(5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計等ができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す（1）数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．(3) What-If分析を理解し，応用できる．(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．(5)アンケート分析の手法を理解するとと
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル（浅井・村上 訳）	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される．

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解（講義「情報リテラシー」を修得）していること．
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい．

履修資格

講義名	情報科学概論（環境a）							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130140	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	表計算ソフトの概要とデータサイエンス	・　Excel機能のいくつかの重要なポイント ・　ビッグデータとＡＩについて
第2回	セルの概念と基本操作	・　カーソルの形と意味．文字列，数値，数式，書式設定 ・　データの移動・複写・変更・消去，等
第3回	行と列の基本操作	・　行・列データの計算．数式を自分で書くvs組込関数群 ・　表の装飾，表データの可視化
第4回	What-If分析－１	・　ケーススタディ・モデル ・　相対番地と絶対番地
第5回	What-If分析－２	・　利益計画シミュレーション ・　シナリオマネージャ
第6回	What-If分析－３	・　Diet Planモデル ・　IF文とゴールシーク
第7回	回帰分析	・　分析ツール ・　相関図と回帰分析，回帰直線，最小２乗法
第8回	単回帰分析	・　度数分布表と散布図 ・　グラフに合う回帰直線の式，重決定係数
第9回	重回帰分析	・　分析ツールと説明変数が２つの場合 ・　p値の理解
第10回	演 習 （課題） ～表にまとめて可視化する～	・　課題の演習
第11回	データ集計－１	・　アンケート分析の方法 ・　頻度の集計，合計・平均，階級別ヒストグラム化
第12回	データ集計－２	・　クロス集計とピボットテーブル ・　集計方法
第13回	データベース機能－１	・　リレーショナルデータベース ・　ソーティングと検索
第14回	データベース機能－２	・　フィルタリング ・　マクロ処理（プログラミング）
第15回	まとめ	・　Excel と Word の連携による文書等作成

担当者から一言
実習が主になる授業ですので，授業で習った内容について次の授業までに必ず復習しておくことが必要です． 授業を欠席した場合は，その日の授業内容を友人に尋ねて習得しておくこと．

講義名	情報科学概論（環境b）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得し、レポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（環境b）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130150	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言

講義名	情報科学概論（環境c）							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術を含む情報リテラシーの習得を前提とし，高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ．
特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について，表計算ソフトを利用して関数による計算処理や基礎的な統計技法等について学ぶ．
さらに，学術論文作成のための基本的なデータ処理手法などについても学ぶ．

到達目標

(1) 数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．
(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．
(3) What-If分析を理解し，応用できる．
(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．
(5) アンケート分析の手法を理解するとともにクロス集計等ができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	到達目標で示す（1）数式バーに自由に計算式を書くことができ，かつ組込関数も利用できる．(2) 表の可視化を行うことができ，それについて科学的な考察を加えることができる．(3) What-If分析を理解し，応用できる．(4) 回帰分析を理解し，収集したデータを単・重回帰分析してその詳細を説明できる．(5)アンケート分析の手法を理解するとと
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストに代わる授業資料を配布する

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初等統計学	P.G.ホーエル（浅井・村上 訳）	培風館	978-4563008390
2				
3				

授業中に随時担当教員から示される．

前提学力等

レポートと学術論文の基本概念を理解（講義「情報リテラシー」を修得）していること．
初等統計学の基礎を理解していることが望ましい．

履修資格

講義名	情報科学概論（環境c）							担当教員	森　將豪※
講義コード	1130160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	表計算ソフトの概要とデータサイエンス	・　Excel機能のいくつかの重要なポイント ・　ビッグデータとＡＩについて
第2回	セルの概念と基本操作	・　カーソルの形と意味．文字列，数値，数式，書式設定 ・　データの移動・複写・変更・消去，等
第3回	行と列の基本操作	・　行・列データの計算．数式を自分で書くvs組込関数群 ・　表の装飾，表データの可視化
第4回	What-If分析－１	・　ケーススタディ・モデル ・　相対番地と絶対番地
第5回	What-If分析－２	・　利益計画シミュレーション ・　シナリオマネージャ
第6回	What-If分析－３	・　Diet Planモデル ・　IF文とゴールシーク
第7回	回帰分析	・　分析ツール ・　相関図と回帰分析，回帰直線，最小２乗法
第8回	単回帰分析	・　度数分布表と散布図 ・　グラフに合う回帰直線の式，重決定係数
第9回	重回帰分析	・　分析ツールと説明変数が２つの場合 ・　p値の理解
第10回	演 習 （課題） ～表にまとめて可視化する～	・　課題の演習
第11回	データ集計－１	・　アンケート分析の方法 ・　頻度の集計，合計・平均，階級別ヒストグラム化
第12回	データ集計－２	・　クロス集計とピボットテーブル ・　集計方法
第13回	データベース機能－１	・　リレーショナルデータベース ・　ソーティングと検索
第14回	データベース機能－２	・　フィルタリング ・　マクロ処理（プログラミング）
第15回	まとめ	・　Excel と Word の連携による文書等作成

担当者から一言
実習が主になる授業ですので，授業で習った内容について次の授業までに必ず復習しておくことが必要です． 授業を欠席した場合は，その日の授業内容を友人に尋ねて習得しておくこと．

講義名	情報科学概論（環境d）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業概要

インターネットや電子メールなどの情報技術の基本的な技術の習得の下に、さらに高年次での講義や演習及び実習で必要となるデータ処理の手法について学ぶ。特にレポート作成や研究活動に必要なデータ処理について、表計算ソフトを利用して関数による計算処理や統計的な技法等について学ぶ。さらに、学術論文作成のためのデータ処理と論文発表の手法などについても学ぶ。

到達目標

（1）Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得する。
（2）データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50%	Webデザインと表計算ソフトの利用とデータ処理の基本を習得し、さらにデータの統計処理を習得しレポート課題を提出する。
上記以外	50%	データや統計処理によって情報を加工し、学術論文作成に活用できること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	現代の情報処理	亀田彰喜	朝倉書店	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

初歩的な表計算処理、レポートと学術論文の基本概念と書式、コンピュータによる統計処理が前提

履修資格

講義名	情報科学概論（環境d）							担当教員	亀田　彰喜※
講義コード	1130170	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	101INF101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	情報社会と倫理	情報化社会の問題点と情報倫理
第2回	フォルダー作成	データ処理とファイル処理
第3回	データ処理の基本	研究の基本とデータ処理の基本
第4回	レポート作成の基本	プレゼンテーションソフトの基本と作成
第5回	レポート作成の応用	プレゼンテーションソフトの活用
第6回	Webの基本	Webデザインの基本と理論
第7回	Webの応用	Webデザインの応用と活用
第8回	Webと画像	Webデザインの画像の応用と活用
第9回	統計処理の基本	学術論文の概念と統計処理の基本
第10回	統計データ処理	学術論文の書式と統計データ処理の基本
第11回	グラフの処理	学術論文の書式と統計処理とグラフの処理
第12回	回帰分析	学術論文の書式と回帰分析
第13回	データの検定	学術論文の作成とデータの検定
第14回	小論文の作成	課題レポートおよび小論文の作成
第15回	論文作成のまとめ	課題レポートと論文作成のまとめ

担当者から一言

講義名	環境行動論/							担当教員	迫田　正美
講義コード	1150050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL302-C,313ARC208								

授業概要

本講義では、前半は基礎的学習として、人間の行動と空間、身体と環境との関係について考察するために必要な基本的な知識を習得するとともに、人間行動と環境との密接な関連性について講述する。後半では行動の場所としての環境、行動的実践の結果としての環境の形成、及び行為の規範としての慣習や文化の形成と風土性、風景との相互連関について講述する。

到達目標

(1)人間の行動と環境（社会・文化的コンテクスト）の相互作用について事例を挙げて述べることができる。
(2)環境と行動に関する基礎的な知識について説明することができる。
(3)毎回の講義のテーマについて適切な質問または意見を述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	55	（１） （２）
レポート課題	45	（３）
上記以外		

授業外学習

講義で示した参考文献・資料について目を通すこと

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境と人間-生態学的であることについて	滋賀県立大学環境ブックレット４	サンライズ出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	かくれた次元	E.T.ホール	みすず書房	
2	発生的認識論	J.ピアジェ	白水社	
3	生きた隠喩	P.リクール	岩波書店	

資料、参考書は適宜講義の中で配布、提示する。『視覚ワールドの知覚』J.J.ギブソン、『精神科学における歴史的世界の構成』W.ディルタイ、

前提学力等

履修資格

講義名	環境行動論/							担当教員	迫田　正美
講義コード	1150050	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL302-C,313ARC208								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概説１	環境行動論の概観１―認知と行為
第2回	概説２	環境行動論の概観２－身体と環境
第3回	概説３	環境行動論の概観３－行為と環境
第4回	環境の意味１	現象学的見解（環境世界と生活世界）
第5回	環境の意味２	解釈学的見解（生の構造連関とテクスト世界）
第6回	環境の意味３	いくつかの心理学的立場について クオリア問題について（ニュートンの「光学」とゲーテの「色彩論」）
第7回	環境世界の構造１	なわばり・パーソナルスペース―生命（個体性）と距離
第8回	環境世界の構造２	パーソナルスペースと社会的距離
第9回	行為と環境世界１	J.ピアジェの発生的認識論―行為のシェマ（図式）の概念、ワロンの立場（場面の知）
第10回	行為と環境世界２	ゲシュタルト心理学と環境認知
第11回	行為と環境世界３	生態学的視覚論から観た行為と環境の意味－アフォーダンスの概念
第12回	自己と環境の自己生成	オートポイエーシスシステム論における自己・環境及び社会システム
第13回	行為の実践と環境・社会システム	実践的相互行為と環境・社会システムの変容
第14回	行為の表現と環境・社会システム	行為の表現的側面と生活（居住）形式及び社会システムの変容
第15回	行為環境と景観・風土・自然	世界に住まうことと自然

担当者から一言

講義名	人間探求学（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1150290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM101								

授業概要

この講義は、学生自らが「人間」を探求し、新しい視点を発想・発見することを支援する。これは、対話型の少人数教育の機会を増やし、個々の学生の質や能力、理解度に応じた学習を支援するものである。学科毎に１年生を少人数グループに分け、担当教員が割り当てられる。

到達目標

(1)自らの考えを他者にわかりやすく説明する能力や、他者の考えを理解する能力を身につける。
(2)多様なコミュニケーション手段や自己表現活動によって発信し、応答し、共感し、批判しあえる能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	(1)(2)各回の授業に関する小レポート（チェックシート）の提出を前提とする。レポート、プレゼンテーション等、各担当教員の評価による。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	人間探求学（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1150290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	101HUM101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業概要	オリエンテーション
第2回	担当教員プログラム	
第3回	図書館活用ガイダンス	
第4回	担当教員プログラム	
第5回	担当教員プログラム	
第6回	担当教員プログラム	
第7回	担当教員プログラム	
第8回	中間まとめ	
第9回	担当教員プログラム	
第10回	担当教員プログラム	
第11回	担当教員プログラム	
第12回	担当教員プログラム	
第13回	担当教員プログラム	
第14回	担当教員プログラム	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	CAD演習 I							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200020	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC211								

授業概要

建築のデザインを考え、描き、表現する。これら一連のプロセスを行うにあたり、デジタル設計環境の活用は今や不可欠といえる。CAD(又はCAAD)とは、これら目的の作業や表現に併せた設計支援システムのことであり、建築初学時にその技術と知識を習得しておくことで、造形発想やエスキスのツールとしてだけでなく、高精度な図面作成のみならず、デザインの提案力を向上させ、ヴィジュアルプレゼンテーションを思いのままに操ることが可能となる。本演習はCADを用いた発想法、2次元図面の描画法、3次元立体の描画法、視点のシミュレーション等を通じて、上記CADの利点を全15回の演習を通して体感的に習得することを本授業の目的とする。

到達目標

(1)中規模鉄筋コンクリート造の建築物の寸法等を図面から正確に読み取り、CAD上に描画（トレース）することができる。
(2)3次元CADを用いてコンピュータグラフィックスによる建築パースペクティブ画像を作図することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す各項目について、(1)を1～7回目授業での課題作品の内容（50%）で、(2)を8～15回目授業での課題作品の内容（50%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。なお、各回の出席点を30%、課題の合計点を70%として評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト及び参考書の指定は特になし。授業中に適宜参考書を指示する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	CAD演習Ⅰ							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200020	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC211								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、演習スケジュール告知、2D-CADを用いた図形描画演習、単位管理、寸法管理、属性管理
第2回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100平面図トレース
第3回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100平面面トレース
第4回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100立面図トレース
第5回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100立面図トレース
第6回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100断面図トレース
第7回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『RC集合住宅トレース』 1/100立断面トレース
第8回	CADーAutocad（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1。『A～Bの提出』
第9回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題２『RC集合住宅モデリング』 Revit（AutoDesk社）操作方法ガイダンス
第10回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題２『RC集合住宅モデリング』 平面図モデリング
第11回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題２『RC集合住宅モデリング』 立面図モデリング
第12回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題２『RC集合住宅モデリング』 断面図モデリング・CGパース作図
第13回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題２『提出』
第14回	Photoshop（Adobe社）を用いた図形描画演習	課題３『ビットマップ画像編集,提出』
第15回	Illustrator（Adobe社）を用いた図形描画演習	課題４『ベクタ形式画像編集,提出』

担当者から一言

講義名	CAD演習 II							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC214								

授業概要

この授業では、CAD演習Ｉで習得した基礎知識、技術を踏まえ、世界の大学および建築業界で現在一番使用されている建築デザインのソフトであるBIM Revit（Autodesk会社）を用い、より高精度な図面作成、デザインの提案力の向上、プレゼンテーション能力の向上を目指すことを目的とする

到達目標

中規模住宅の２次元平面図、立体図、断面図をデジタル環境を用いて製図する技術、３次元立体の生成と図面表現、CGプレゼンテーションにかかる技術などの習得を目標とする。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外		課題提出を１００％として評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	CAD演習Ⅱ							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200030	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC214								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション、演習スケジュール告知BIMーRevitを用いた	オリエンテーション、演習スケジュール告知 課題1『建築Aモデリング』
第2回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『建築Aモデリング』 立面図モデリング
第3回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『建築Aモデリング』 断面図モデリング
第4回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『建築Aモデリング』 CGパース作図
第5回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題1『建築Aモデリング』 提出
第6回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題2『建築Bモデリング』 平面図モデリング
第7回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題2『建築Bモデリング』 立面図モデリング
第8回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題2『建築Bモデリング』 断面図モデリング
第9回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題2『建築Bモデリング』 CGパース作図
第10回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題2『建築Bモデリング』 提出
第11回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題3『建築Cモデリング』 平面図モデリング
第12回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題3『建築Cモデリング』 立面図モデリング
第13回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題3『建築Cモデリング』 断面図モデリング
第14回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題3『建築Aモデリング』 CGパース作図
第15回	BIMーRevit（AutoDesk社）を用いた図形描画演習	課題3『建築Cモデリング』 提出

担当者から一言

講義名	アジア建築史							担当教員	川井　操
講義コード	1200060	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC318								

授業概要

近代日本の建築界において、常にモデルとされ、参照されてきたのは西欧の建築である。日本の近代建築史は、英国からやってきた弱冠25歳のＪ．コンドルの教えに始まる。西欧の近代建築技術の取得が日本の建築家にとっての第一の課題であった。近代建築の展開は日本のみならず世界中で大きな影響力をもった。しかし、そのあり方について疑問、批判が提出され始めて、既に久しい。地域には地域の建築文化の伝統があり、そのあり方が一方で見直されてきたのである。本科目では、これまであまり関心を払われてこなかったアジア（非西欧世界）の建築史について議論する。

到達目標

アジアの都市建築についての基本的知識を身につける。また、空間形式の起源、形成、変容、転成、保全の原理、法則、メカニズムについて学ぶ。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	６０	
レポート課題	４０	
上記以外		

3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない

授業外学習

特定のテーマについてレポートを課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	アジア都市建築史	布野修司	昭和堂	4812203163
2	東洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	4395000878
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

世界史についての基礎的知識をもっていることが望ましい。

履修資格

講義名	アジア建築史							担当教員	川井　操
講義コード	1200060	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC318								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	東洋建築史学史序説	東洋建築史学史序説
第3回	東洋建築と日本建築	東洋建築と日本建築
第4回	東洋建築系統史論	東洋建築系統史論
第5回	ヴァナキュラー建築の世界（1）	ヴァナキュラー建築の世界（1）
第6回	ヴァナキュラー建築の世界（2）	ヴァナキュラー建築の世界（2）
第7回	仏教建築の世界史（1）	仏教建築の世界史（1）
第8回	仏教建築の世界史（2）	仏教建築の世界史（2）
第9回	中華の建築世界	中華の建築世界
第10回	朝鮮半島の建築世界	朝鮮半島の建築世界
第11回	ヒンドゥー建築の世界	ヒンドゥー建築の世界
第12回	イスラームの建築世界	イスラームの建築世界
第13回	西欧建築と植民地建築	西欧建築と植民地建築
第14回	アジアの植民地建築	アジアの植民地建築
第15回	総括	

担当者から一言

講義名	イメージ表現法							担当教員	金子　尚志／轟　慎一／高田　豊文／永井　拓生
講義コード	1200110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC209								

授業概要

建築・都市やランドスケープの設計にかぎらず、デザイン行為の原動力となるイマジネーションやアイディアを整理し、そのイメージを2次元および3次元で表現する力を養うことをねらいとしている。つまり、課題を通して、その答えを形にするまで、頭の中で描くことから始め、自分の手で様々な道具や素材を使って、空間を構成する感性を養うこと。自由な発想と可能性への挑戦をし、自分のイメージを表現する基礎トレーニングであり、環境建築デザインの設計入門となる。

到達目標

（1）デザインの原動力となる想像力やイメージを、2次元および3次元で表現する力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	（1）制作した作品とプレゼンテーション：各課題制作の評価の総合（それぞれを100点満点で採点し、平均を取る）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	初めての建築製図		学芸出版社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	コンパクト建築設計資料集成		丸善	
2	手描きで映える簡単プレゼンスケッチ		エクスナレッジ	
3				

前提学力等

履修資格

講義名	イメージ表現法							担当教員	金子　尚志／轟　慎一／高田　豊文／永井　拓生
講義コード	1200110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC209								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	授業概要、課題1説明	3次元の形態操作（ケント紙による構造表現）
第2回	課題1エスキス、制作	3次元の形態操作：エスキス、制作
第3回	課題1講評会、課題2説明	2次元のパネル表現（情報収集とプレゼンテーション）
第4回	課題2エスキス、制作	2次元のパネル表現：エスキス、制作
第5回	課題2講評会、課題3説明	立体造形とイメージ表現（共同＋個人作品）
第6回	課題3制作	立体造形とイメージ表現：共同作品制作
第7回	課題3エスキス、制作	立体造形とイメージ表現：個人作品エスキス、共同作品制作
第8回	課題3エスキス、制作	立体造形とイメージ表現：個人作品エスキス、制作
第9回	課題3講評会、課題4説明	空間イメージの表現
第10回	課題4エスキス	空間イメージの表現：エスキス
第11回	課題4制作	空間イメージの表現：エスキス、制作
第12回	課題4講評会、課題5説明	共同による実物制作とプレゼンテーション
第13回	課題5エスキス	共同による実物制作とプレゼンテーション：エスキス
第14回	課題5制作	共同による実物制作とプレゼンテーション：エスキス、制作
第15回	課題5講評会	共同による実物制作とプレゼンテーション：講評

担当者から一言

講義名	環境建築デザイン演習							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1200280	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC320								

授業概要

この授業では，3回生前期までの授業・設計演習等の内容を踏まえ，さらにその内容を発展させる形で，少人数によるスタジオ制での演習を行う．演習の形態は担当教員により異なるが，3年生を少人数グループ（４～５名）に分け，担当教員の専門を活かした課題が出題される．

到達目標

(1)各教員が与える環境・建築デザインにかかわる課題に対し，必要となる資料の収集・分析等を適切かつ十分に行うことができる．
(2)与えられた課題に対して，結果や自身の考え方を適切に表現することができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各到達目標について，課題に取り組む姿勢，資料収集・分析の適切さ，プレゼンテーションの適切さを評価する．

履修生は，初回授業までに，希望するグループを明記した配属志望調査票を提出する．配属志望調査票を提出しなかった場合や，初回授業を理由なく欠席した場合は，グループに配属されず，評価の対象とされないので注意すること．配属志望調査票の提出スケジュールについては，事前に，学年担任教員より告知される．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境建築デザイン演習							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1200280	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC320								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1〜14回	演習の到達目標に応じて，研究計画・調査対象・分析作業等の詳細なスケジュールを，指導教員の指導の下，各自で設定する．
第15回	成果の発表	各自の研究・設計・制作について発表し，質疑応答を行う．

担当者から一言

講義名	環境・建築デザイン概論							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1200290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC106								

授業概要

環境建築デザイン学科で学ぶべき専門分野（建築設計・都市計画・ランドスケープ・建築史・環境工学・構造など）の入門として位置付ける。本学科全教員が担当し、環境と建築・都市について学ぶべき視点と方法について、それぞれの専門性をふまえ講義する。

到達目標

（1）環境建築デザインを構成する各専門分野の概要を理解し、説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	100	（1）各回に課すレポートの採点結果を平均する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境・建築デザイン概論							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1200290	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC106								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	構造デザイン	授業概要、構造デザイン
第2回	環境・建築・都市計画	環境・建築・都市計画
第3回	建築計画	建築計画
第4回	環境工学	環境工学
第5回	環境設計	環境設計
第6回	ランドスケープデザイン	ランドスケープデザイン
第7回	人・環境・工学	人・環境・工学
第8回	建築論	建築論
第9回	建築史	建築史
第10回	建築デザイン	建築デザイン
第11回	未定	未定
第12回	建築構造からものづくりへ	建築構造からものづくりへ
第13回	建築メディア論	建築メディア論
第14回	地震防災	地震防災
第15回	まとめ	まとめ

担当者から一言

講義名	環境アセスメント							担当教員	錦澤　滋雄※／柴田　裕希※／杉本　卓也※
講義コード	1200300	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM207,312ETR305,313ARC305,314BRM394								

授業概要

環境アセスメントは、開発行為などに伴う環境・社会影響に配慮し、社会とのコミュニケーションを通じて、行政による最適な意思決定を支援する重要な手段である。本講義では、その制度体系と適用事例に基づく実際を論じる。具体的には、アセスの意義や方法論を法や条例の規定内容、それらが導出されるに至った歴史的経緯を踏まえて解説する。方法論については、調査・予測・評価の方法について、大気環境、動植物、景観などを題材に学ぶ。コミュニケーションの観点からは、市民参加や社会的な合意形成の問題も解説する。国内の状況だけでなく、欧米諸国の先進的な制度や実施状況について、新しいアセスである戦略アセスや持続可能性アセスの考え方について、米国における取り組みを中心に紹介する。

到達目標

（1）環境アセスメントとは何か、アセスの目的と要件を説明できる．
（2）調査・予測・評価の具体的手法とその問題点について説明できる．
（3）国内外のアセス法制度の概要、日本の制度の位置づけや課題を説明できる．
（4）SEA／SAの意義や特徴を説明できる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	25	期末レポートを課す．
上記以外	75	授業中の課題．当日ブリーフレポートなどを課す．

授業外学習

環境アセスメントに関する本や論文の他に具体事業で作成された環境アセスメントの図書（方法書、準備書、評価書）を読むことでアセスの実際をより深く学ぶことができる．下記の環境省が提供するアセス支援ネットのページなどで閲覧できる．これらの情報はレポート執筆にも役立つ．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	改訂版・環境アセスメント	原科幸彦	放送大学教育振興会	
2	都市・地域の持続可能性アセスメント	原科幸彦・柴田裕希他	学芸出版社	
3				

授業中にプリント配布する

前提学力等

履修資格

講義名	環境アセスメント							担当教員	錦澤　滋雄※／柴田　裕希※／杉本　卓也※
講義コード	1200300	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM207,312ETR305,313ARC305,314BRM394								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション、アセスの要件と手続き	シラバスの内容の解説をした上で、環境アセスメントの目的、要件、手続概要について説明する．
第2回	スクリーニングとスコーピング	環境アセスメントを実施するか否かを判断するスクリーニング手続、及び、アセスの方法を決定するスコーピング手続について説明する．
第3回	調査・予測・評価の方法（１）：大気質	大気質の調査・予測・評価の方法を説明する．滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第4回	調査・予測・評価の方法（２）：動物	動物の調査・予測・評価の方法を説明する．滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第5回	調査・予測・評価の方法（３）：景観	景観の調査・予測・評価の方法を説明する．滋賀県立大学整備事業を具体事例として取り上げる。
第6回	アセス制度の歴史	環境アセスメント制度の創設経緯、制度の変遷について説明する．
第7回	現行制度	わが国の環境アセスメントの現行制度について法アセスを中心に説明する．
第8回	自治体によるアセスの現状と課題	わが国の自治体による条例アセスの制度、実施実態や課題について説明する．
第9回	市民参加とコミュニケーション	アセスにおける市民参加手続やコミュニケーションの方法について説明する．
第10回	意思決定とアセス	アセスに係る許認可や意思決定の問題について解説する．
第11回	アセスの事例	アセスの具体事例を紹介し、アセスの実際と課題について説明する．
第12回	諸外国の制度（1）：米国NEPA	米国の国家環境政策法にもとづくアセスの取り組みを説明する．
第13回	諸外国の制度（2）：英国、EU	欧州諸国におけるアセスの取り組み（特に英国）を説明する．
第14回	ミニアセスメント	小規模事業に適用される基礎自治体によるアセス、事業者が任意に行う自主アセス、あるいは簡易アセスについて説明する．
第15回	戦略的環境アセスメント（SEA)、SA	意思決定の上位段階に適用される戦略的環境アセスメントや、経済面・社会面なども含めて包括的に評価する持続可能性アセスメントについて説明する．

担当者から一言
環境アセス制度は環境行政の基本的手段の一つであり、公務員を目指す者にとっては特に深い理解が求められる．また，アセスの適用範囲は近年より広くなっており民間企業が関与する機会も増えてきた．広い視野を持って学んでほしい．

講義名	環境科学概論 I							担当教員	小泉　尚嗣／籠谷　泰行／泉　泰弘／後藤　直成／高倉　耕一
講義コード	1200390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM103,112BTR101,113ARC102,114BRM101								

授業概要

地球環境を構成する要素と環境変化の時空間スケールを把握した上で，土壌環境ならびに陸域・水域生態系の基本的構造とこれらに見られる今日的な諸問題について学ぶとともに，これからの食料確保と環境保全のあり方を展望する．

到達目標

環境変動の仕組みについて基本的な理解を得るとともに，自然環境と人間活動の関わり方について深く考察できる能力を身につける．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	期末試験の成績により評価する。
レポート課題	40	各担当教員の実施する小テストの結果を積算して評価する。
上記以外		

毎回出欠を確認する。各担当教員は授業内容について小テストを実施する。

授業外学習

授業をきっかけにして自分で参考書類を読むなどしてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：使用しない．プリントした資料を配布する．

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：講義の中で必要に応じて紹介する．

前提学力等

高校理科習得程度．

履修資格

講義名	環境科学概論Ⅰ							担当教員	小泉　尚嗣／籠谷　泰行／泉　泰弘／後藤　直成／高倉　耕一
講義コード	1200390	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM103,112BTR101,113ARC102,114BRM101								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	地球の形成，進化論の受容度	地球の形成について学ぶ．進化論の受容度が国によって違うことを学び，その理由について考察する．
第2回	プレートテクトニクスと日本列島の形成	プレートテクトニクスの理論とそれに基づく日本列島の形成について学ぶ。
第3回	琵琶湖と活断層	日本最大の湖：琵琶湖は断層活動によってできた「断層湖」である．琵琶湖と活断層との関係について学ぶ。
第4回	生態系の成り立ち	生態系の物質循環・エネルギーの流れと人間活動の影響について学ぶ。
第5回	陸域生態系と環境問題①	地域・集水域の環境問題と陸域生態系の関係について学ぶ。
第6回	陸域生態系と環境問題②	地球環境問題と陸域生態系の関係について学ぶ。
第7回	環境と意識	「人はどのように環境を意識しているのか？」を考える。
第8回	環境と多角的視点	多角的視点から環境を眺めてみる。
第9回	環境と循環	物質循環の観点から環境を考える。
第10回	ヒトの進化と環境	我々は現在に至るまでどのような進化を経てきたのか、その過程で環境とどのような相互作用を経験してきたのかについて学ぶ。
第11回	生物の絶滅	人類誕生以降の生物の絶滅とその要因について、その背景としての人間社会の変遷とともに学ぶ。
第12回	滋賀県・近畿の外来生物問題	滋賀県をふくむ近畿地方における外来生物問題とその研究の現状について学ぶ。
第13回	食料は足りているか？	人口問題と食料問題について解説する。
第14回	環境問題と農業（１）	種々の環境問題が農業に及ぼす影響について解説する。
第15回	環境問題と農業（２）	農業活動が地球環境に及ぼす影響について解説する。

担当者から一言

講義名	環境科学概論 II							担当教員	瀧　健太郎／伊丹　清／井手　慎司／増田　清敬／上河原　献二／芦澤　竜一
講義コード	1200400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM104,112BTR102,113ARC103,114BRM102								

授業概要

多様な形で生じる環境問題は、社会の仕組みや制度と密接な関係を持っている。環境問題の解明と解決のために必要な社会的な視点やアプローチ方法について、具体的問題を取り上げながら教授する。

到達目標

次に例示するような環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること。
A 環境問題を解決することの難しさを社会的ジレンマ構造によって説明できる。
B 農業が環境に及ぼす正負の影響とそれらに対する政策対応について説明できる。
C 地球環境問題と持続可能な開発の基本的な事項について説明できる。
D 建築と環境との関わりを多角的に説明できる。
E 流域社会で顕在化する課題、および減災の考え方について説明できる。
F すまうという行為と環境との関わりを多面的に説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	環境問題の社会的側面について多面的に理解し説明できること
レポート課題		
上記以外	50%	各回の小テスト

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

教科書は使用しない。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書は講義の中で紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境科学概論Ⅱ							担当教員	瀧　健太郎／伊丹　清／井手　慎司／増田　清敬／上河原　献二／芦澤　竜一
講義コード	1200400	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM104,112BTR102,113ARC103,114BRM102								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境問題へのアプローチ －社会的ジレンマとゲーム理論－	環境問題に対するいくつかのアプローチ方法について紹介する。まずは，環境問題の根底にある社会的ジレンマの構造をゲーム理論によって説明する。
第2回	環境問題へのアプローチ －社会的ジレンマと戦略活用行動－	社会的ジレンマ構造は解消できるのか？　すべての社会の仕組みやルールは戦略活用行動として，社会的ジレンマ構造を解消するために存在する。
第3回	環境問題へのアプローチ －社会心理学－	人間とは不合理な生き物である。なぜ意識ではわかっている環境配慮が行動につながらないのだろう。心理学的なアプローチ例を紹介する。
第4回	地球環境問題とは何か	地球環境問題とは何か。どのような問題が起きているのか，どのように認識されてきたのか。国際社会はどのように対応してきたのか。事例として温暖化問題を取り上げる。
第5回	持続可能な開発とは何か	持続可能な開発とは何か。その考え方はどのように形成されたのか。また，事例として，国内の国立公園制度と国際的なアフリカゾウ論争を取り上げる。
第6回	生物多様性保全とは何か	生物多様性とは何か、生物多様性保全はどのようにして国際的政策となったのかについて学ぶとともに、
第7回	環境保全型農産物：生産編	環境保全型農業は，環境影響を緩和する持続可能な農法と考えられているが，果たして本当にそうなのだろうか。滋賀県の環境こだわり農業を例として取り上げる。
第8回	環境保全型農産物：消費編	環境保全的に栽培された農産物について，消費者は環境にやさしいと思っているのだろうか。滋賀県でのアンケート調査を例として取り上げる。
第9回	環境と建築－歴史的考察	歴史において，建築やまちづくりと環境がどのような関係をもってきたか考察する。
第10回	環境と建築－現在から未来へ	20世紀以前の建築を振り返りながら，21世紀における環境と関係をつくる建築の役割や可能性について考察する。
第11回	気候変動と適応策 － 防災から減災へ	地球温暖化に伴う気候変動の影響により水害リスクが高まっている。滋賀県の流域政策を参考に、適応策として施策を総動員してできる限り被害を軽減する「減災」の考え方を学ぶ。
第12回	持続可能な開発目標（SDGs）	SDGsは、2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016～2030年までの国際目標である。ここでは、SDGsの基本的な考え方と関連する様々な取組を
第13回	住まうという行為と気候	気候・風土に培われ定着しそして残ってきた民家，マンション・プレファブ住宅に見られる高気密高断熱な住戸，そして環境共生住宅，これら住まいを比較し，住まう行為と気候との関わりを考える。
第14回	住まうという行為と水	飲料用や炊事・洗濯・入浴用を始めとした住まう行為に関わる水について見ていきながら，地域の水環境との接点を考える。加えてヒートアイランド現象と水との関わりについても紹介する。
第15回	住まうという行為とエネルギー	電気・ガス・油という形で日常接するエネルギーと住まいの関係を見つめなおすとともに，太陽光・熱などの自然エネルギー利用と住まいとの新しい関係を，例を紹介しながら見ていく。

担当者から一言

講義名	環境学原論/							担当教員	村上　修一
講義コード	1200440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR201								

授業概要

本科目は，専門家あるいは一般市民として必ず関わりを有することになる，川の問題をとりあげる。まず，国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。次に，川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。その上で，川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

到達目標

(1) 国内における川の未来像の決め方について現状を理解する。
(2) 川の未来像の決め方における問題点を特定できるようになる。
(3) 川の未来像の決め方に対して改善策を案出できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標（1）： ワークシート1（30%） 到達目標（2）： ワークシート2（30%） 到達目標（3）： ワークシート3（40%）

ワークシート1，2，3は，それぞれ第5，10，14回の授業時間内に履修生が記述し，回収される。第6，11，15回に解説が行われ，履修生は理解を深める。

授業外学習

授業時間内に紹介される参考図書資料や参考サイトを閲覧すること。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	第十堰日誌	姫野雅義	七つ森書館	978-4822811426
2	吉野川住民投票―市民参加のレシピ	武田真一郎	東信堂	978-4798911922
3	再帰的近代の政治社会学―吉野川可動堰問題と民主主義の実験	久保田滋　他	ミネルヴァ書房	978-4623050826

授業時間内に参考図書資料や参考サイトを紹介する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境学原論/							担当教員	村上　修一
講義コード	1200440	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR201								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	あなたにとって川とは？	川との関わりを再認識し，川の未来を考えることの重要性を意識するようになる。
第2回	川の未来像を決める5W1H	国内における川の未来像の決め方について基本を理解する。
第3回	川の未来像を決める最初の一歩	河川整備基本方針の内容を理解する。
第4回	川の未来像を決める具体的な内容とは？	河川整備計画の内容を理解する。
第5回	ワークシート1	国内における川の未来像の決め方について理解したことを書いてみる。
第6回	ワークシート1の解説	国内における川の未来像の決め方について理解を深める。
第7回	これだけは変えられない？	川の未来像を決める二重構造－河川整備基本方針と河川整備計画との間に存在する問題点を理解する。
第8回	川は「溝」なのか？	河道主義にもとづく川の未来像の決め方について現状と問題点を理解する。
第9回	川の未来像を決める「みんな」とは？	流域委員会の現状と問題点を理解する。
第10回	ワークシート2	川の未来像の決め方における問題点を特定し書いてみる。
第11回	ワークシート2の解説	川の未来像の決め方における問題点について理解を深める。
第12回	国内の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す国内の事例について理解しヒントを得る。
第13回	海外の事例にはどのようなヒントがある？	川の未来像の決め方はどうあるべきか，新たな方向を示す海外の事例について理解しヒントを得る。
第14回	ワークシート3	川の未来像の決め方に対して改善策を案出し書いてみる。
第15回	ワークシート3の解説	川の未来像の決め方に対する改善策について理解を深める。

担当者から一言

講義名	環境監査							担当教員	池北　實※
講義コード	1200480	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM204,312ETR303,313ARC304,314BRM392								

授業概要

　地球温暖化防止をはじめとした環境問題の解決には、各組織の継続的な取り組みが欠かせない。このためには、経営に環境マネジメントシステムを導入することが不可欠とされ、多くの組織で導入されている。一方、マネジメントシステムには公正性と透明性が必要である。その健全性を確保し運用の実態を検証するために監査が必要となる。
本講では、環境マネジメントシステム（ISO14001)及び環境監査（ISO19011）を中心に学び、環境マネジメントシステム及びそのチェック機能としての環境監査のあり方や手法を理解する。更に、環境政策、企業の環境対応の現状、森林認証など監査（認証）の多様性を学ぶ。
キーワード：環境監査、内部監査、環境マネジメントシステム、ISO14001、ISO19011

到達目標

（１）地球環境問題及び対応する取り組み並びに環境管理に関する国際規格について概要を説明できる。
（２）環境監査の基準となるISO14001環境マネジメントシステム規格について、全体構築を含めて説明できる。
（３）ISO19011マネジメントシステム監査のための指針に準拠した内部環境監査の運用を説明できる。
（４）多様な分野における各種マネジメントシステムの特徴や政策科学の視座での手法を説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	（１）第１回～第２回：１回の小テスト１０％ （２）第３回～第６回：１回の演習１５％、１回の小テスト１５％ （３）第７回～第１２回：１回の演習２０％、１回の小テスト２０％

授業外学習

小テストの一つは、内部環境監査の理解度テストとして位置づけて、「内部環境監査員養成講座修了証」授与の条件にもなります。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキストは、毎回講義でプリントを配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

鈴木敏央著「新・よくわかるＩＳＯ環境法」（ダイヤモンド社）

前提学力等

履修資格

講義名	環境監査							担当教員	池北　實※
講義コード	1200480	単位数	2	開講期	前期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM204,312ETR303,313ARC304,314BRM392								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス　授業方針	・地球環境問題とISO14001環境マネジメントシステム規格の制定 ・BS7750環境管理･監査システムの概要
第2回	ISO14001支援ツール規格と概要	・環境監査/ISO19011 ・環境パフォーマンス評価/ISO14031
第3回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説（１）	規格要求事項／ISO14001:2015
第4回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説（２）	規格要求事項／ISO14001:2015
第5回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説（３）	規格要求事項／ISO14001:2015
第6回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の解説（４）	規格要求事項／ISO14001:2015
第7回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の運用（１）	・環境側面集計と環境影響評価の手法
第8回	ISO14001環境マネジメントシステム規格の運用（２）	・環境法規の体系、主要環境法規の概要
第9回	環境監査（１）	・環境監査の種類、環境監査のシステム、環境監査の実施プロセス ・ISO19011マネジメントシステム監査のための指針の解説
第10回	環境監査（２）	・ISO19011マネジメントシステム監査のための指針の解説 ・監査計画と監査チェックリストの作成
第11回	環境監査（３）	・内部監査/是正処置報告書の作成 ・演習とレビュー（１）
第12回	環境監査（４）	・演習とレビュー（２）
第13回	中小事業者向け環境マネジメントシステム	・エコアクション21、KES、エコステージ ・ISO14005段階的実施環境マネジメントシステム規格
第14回	監査の多様性	・品質、情報セキュリティ、食品安全、森林認証
第15回	政策科学から見た環境マネジメントシステム	・政策手法、政策事例、企業の対応

担当者から一言

講義名	環境技術/							担当教員	宮崎　慎也※
講義コード	1200510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	413ARC307,414BRM388								

授業概要

近代以降、建築物に要求される環境性能は急速に多様化・高度化しており，この過程の中で建築デザインにおける環境技術の位置づけも高まっている．また，地球環境負荷の軽減，省エネルギーに対する社会的要請も一層強まっており，環境技術の知識や原理の理解は、建築デザインを行う上で必須のリテラシーとなっている．

本講義では、環境技術の進化と建築デザインの変化の過程を追いながら、環境工学の基礎的な原理・知識から，環境要素技術，そして実際の建築デザインにおける応用事例までトータルに学習することで，建築デザインにおける環境技術の重要性を理解し，建築デザインにおける実践的な知識を習得する．

また，環境技術の原理や事例の学習を通して，低炭素社会を実現していく上での，技術的課題，社会的課題について自ら問題意識を持って，設計や研究活動に取り組めるようになることが目標である．

到達目標

（１）　環境技術の原理と手法が理解できる．
（２）　建築デザインと環境技術の相互関係を，実際の建築物の断面図や詳細図を読み取りながら図式的に理解できる．
（３）　低炭素社会実現に向けた環境技術の位置づけと，背景を理解できる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)～(3)について同じ比率で評価する．
レポート課題	20	環境建築や環境都市などの事例収集に関するレポート課題を課す．到達目標(1),(2)について同じ比率で評価する．
上記以外	20	講義ごとに，それぞれのテーマに応じた小課題を課す．到達目標(1)～(3)について同じ比率で評価する．

授業外学習

講義で紹介できる事例は限られているので，自発的に雑誌や論文などの資料を探して，予習復習すること．

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	INVISIBLE FLOW　省エネルギー建築ガイド	省エネルギー建築ガイド編集委員会	建築環境・省エネルギー機構,	
2	環境としての建築	レイナー バンハム	鹿島出版会	4306052605
3	設計のための建築環境学	日本建築学会	彰国社	978-4-395-00894-0

前提学力等

履修資格

講義名	環境技術/							担当教員	宮崎　慎也※
講義コード	1200510	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	413ARC307,414BRM388								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	環境技術の発展と建築デザイン．１回～１５回までの講義概要と到達目標，評価方法，等の説明を行う．
第2回	地球環境問題と建築	低炭素社会実現のための前提条件（エネルギー，人口縮減，ライフスタイル，自然資源，温暖化対応施策等）について学習する．またIPCCのレポートなどから地球温暖化状況について把握し，京都議定
第3回	環境技術の先駆者(1)	レイナー・バンハムの「環境としての建築」を題材として，環境技術の発展が建築デザインに対してどのような影響を与えてきたか，歴史的経緯をふまえながら具体的な作品事例を通して学習する．
第4回	環境技術の先駆者(2)	近代建築の巨匠の作品とその環境技術の応用方法を学習する．ミース，コルビュジェ，ライト，カーン，ブルーヴェなどの事例を通して，巨匠たちの環境技術の考え方とデザインへの適用方法を学習す
第5回	環境技術の先駆者(3)	バックミンスター・フラーの作品事例（ダイマクションハウスなど）を通して，「ライトネス」や「エフェメラリゼーション」などの現代の環境建築に通じる概念について学習する．
第6回	環境要素技術(1)	環境工学の基礎をおさらいしながら，要素技術全般の概略について学習する．
第7回	環境要素技術(2)	環境工学（光環境，熱環境）の基礎をおさらいしつつ，要素技術（アースチューブ，放射冷暖房，躯体蓄熱）について具体的事例を通して学習する．
第8回	レポート課題発表会	初回に課すレポート課題の発表会を行う．
第9回	レポート課題のまとめ	発表されたレポートの内容整理と議論を行う．
第10回	環環境要素技術(3)	環境工学（空気環境，熱環境）の基礎をおさらいしつつ，エンベロープデザイン（エアロフローウィンドウ，ダブルスキン他）について，具体的事例を通して学習する．ペリメーターの断面詳細や設備
第11回	環境技術と現代建築(1)	T.ヘルツォーク，P.ズントー，R.ピアノ，N.フォスター他．現代建築の具体的事例を紹介しながら，環境技術の建築デザインへの応用方法について学習する．
第12回	環境技術と現代建築(2)	省エネルギー住宅のデザイン，ZEB，ZEH．　省エネルギー住宅の事例紹介と発展の歴史を学習する．また，環境性能評価方法を学びながら，住宅の環境性能基準や「性能の見える化」などの課題につい
第13回	地域のエネルギーデザイン	地域冷暖房，スマートシティ，など自治体レベルでの省エネルギー化の取り組み事例を学習する．また，バイオマス発電などの地域エネルギーの活用など，地域単位でのエネルギーシステムの在り方に
第14回	サスティナブルシティ	都市の低炭素化について学習する．フライブルク，クリチバ，ポートランドなどの先端的な環境都市の都市デザイン手法や政策について学習する．
第15回	低炭素社会実現のための課題	低炭素社会実現のために，今後私たちがとるべきアクション，課題について整理する．

担当者から一言
事例紹介を中心に講義をすすめていきます．建築だけでなく，都市や地域，集落などの事例も紹介します．低炭素社会実現に向けて，建築に何ができるのか，みなさんとディスカッションしながらすすめていきたいと思います．

講義名	環境技術史							担当教員	白井　宏昌
講義コード	1200520	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC316								

授業概要

本講座では「建築」が作り出す「環境」を、それを支える技術とその背後にある思想の２つの側面から、日本のみならず世界の事例を通して歴史的に考察するものである。また「建築」を「社会」との関わりから見つめることで、「環境」の持続可能性を「社会」的な持続可能性と密接に結びついていることを学習する。本講座では「環境」を建築内部の問題としてだけでなく、自然との関わり、社会との関わりから考察し、これからの建築を考えるための糧とすることを意図している。

到達目標

（1）　建築が作り出す「環境」を支える技術の歴史的変遷が理解できる
（2）　建築史における「環境」と「社会」の多様な関わりを理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	到達目標（1）および（2）について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す
上記以外	10	講義への出席率を評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境技術史							担当教員	白井　宏昌
講義コード	1200520	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC316								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	広い意味での建築における「環境」、そしてその持続可能性を学び、本講座の進め方を講義する
第2回	建築の部位‐1：窓・壁	建築の特定の「部位」に注目し、それらが日本および世界の建築史のなかで、どのような発展を遂げてきたかを考察する
第3回	建築の部位‐2：屋根・天井・床	建築の特定の「部位」に注目し、それらが日本および世界の建築史のなかで、どのような発展を遂げてきたかを考察する
第4回	建築の部位‐3：設備	建築の特定の「部位」に注目し、それらが日本および世界の建築史のなかで、どのような発展を遂げてきたかを考察する
第5回	建築の持続可能性‐1：リノベーション	建築が長期にわたり、使われ続けるための多様な手法を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第6回	建築の持続可能性‐2：カスタマイズ	建築が長期にわたり、使われ続けるための多様な手法を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第7回	建築の持続可能性‐3：仮設建築	建築が長期にわたり、使われ続けるための多様な手法を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第8回	建築と自然-1：緑	建築と自然との多様な関わりを、日本および世界の建築の事例からを考察する
第9回	建築と自然-2：光	建築と自然との多様な関わりを、日本および世界の建築の事例からを考察する
第10回	建築と自然-3：風	建築と自然との多様な関わりを、日本および世界の建築の事例からを考察する
第11回	建築と自然-4：水と土	建築と自然との多様な関わりを、日本および世界の建築の事例からを考察する
第12回	建築と社会-1：公共空間	広く社会にとっての建築のあり方を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第13回	建築と社会-2：コミュニティ	広く社会にとっての建築のあり方を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第14回	建築と社会-3：参加型デザイン	広く社会にとっての建築のあり方を、日本および世界の建築の事例からを考察する
第15回	建築と社会-3：デジタル社会	広く社会にとっての建築のあり方を、日本および世界の建築の事例からを考察する

担当者から一言

講義名	環境共生論							担当教員	金子　尚志
講義コード	1200542	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC309								

授業概要

風雨をしのぎ、暑さ寒さを防ぐことは建築の基本的な性能であるが、これからの建築は環境と共生しながら快適な室内環境をつくることが求められる。環境共生とは、地球環境や地域環境に与える負荷を最小限にしながらも、人にとって快適な生活環境を創造することである。その環境を活かし、環境と共生する持続可能な建築の実現をめざすため、建築の構成要素ごとに環境共生の視点からその原理を示し、具体的な事例をもとに環境共生の思想と実践について具体的に講述する。

到達目標

・環境共生と持続可能性の概念が理解できる。
・持続可能な社会や都市が理解できる。
・環境共生の概念を技術として理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	定期試験、レポート、出席状況をもとに総合的に評価する。
レポート課題	50	定期試験、レポート、出席状況をもとに総合的に評価する。
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	空間の旅：可能性のデザイン	岡部憲明	鹿島出版会	4306046109
2				
3				

必要に応じて資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	クリマデザイン：新しい環境文化のかたち	クリマデザイン研究会	鹿島出版会	
2	パッシブ建築設計手法辞典		彰国社	
3	最高にわかりやすい建築設備		エクスナレッジ	

前提学力等

履修資格

講義名	環境共生論							担当教員	金子　尚志
講義コード	1200542	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC309								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境共生概論	環境共生とは
第2回	環境共生の思想と建築（１）	
第3回	素材のデザイン	
第4回	環境共生の思想と建築（２）	
第5回	設備のデザイン	
第6回	環境共生の思想と建築（３）	
第7回	エネルギーのデザイン	
第8回	環境共生の思想と建築（４）	
第9回	構造・構法のデザイン	
第10回	環境共生の思想と建築（５）	
第11回	都市・外部空間のデザイン	
第12回	環境共生の思想と建築（６）	
第13回	リノベーションのデザイン	
第14回	環境共生の思想と建築（７）	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	環境計画学							担当教員	瀧　健太郎
講義コード	1200560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR203,313ARC206								

授業概要

講義前半は、数理計画法を基礎を学び、計画立案の実務のベースとなる技能を習得する。進捗に応じて講義内容に関する小テストを２回実施し習得度を確認する。講義後半は、自然環境と社会経済活動との関係性に着目しながら、環境計画の歴史的変遷、意義・分類・手法・実例を体系的に解説する。

到達目標

(1) 国内の主要な環境計画の変遷と目的・内容について体系的に説明できる。
(2) 代表的な数理的計画手法を習得する。
(3) 計画策定プロセス・進行管理について体系的に説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	60	到達目標(1)(2)(3)について、定期試験で評価する。 (1) 15% (2) 30%
レポート課題		
上記以外	40	到達目標(1)(2)(3)について、小テストで評価する。 (1) 10% (2) 20%

３分の１以上欠席した場合は、評価の対象としない。届けのない欠席については、一回５点の減点とする。

授業外学習

毎回、宿題を課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義ごとに配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境計画・政策研究の展開 ― 持続可能な社会づくりへの合意形成	原科幸彦	岩波書店	4000224735
2	新版数理計画入門	福島雅夫	朝倉書店	4254280041
3	土木計画学ー公共政策の社会科学	藤井聡	学芸出版社	4761531665

前提学力等

履修資格

講義名	環境計画学							担当教員	瀧　健太郎
講義コード	1200560	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212BTR203,313ARC206								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	計画学基礎 ー 計画とは何か①	計画の基礎（基本概念、種別など）について解説する。
第2回	計画学基礎 ー 計画とは何か②	計画の基礎（策定・実施プロセス、行政計画の分類など）について解説する。
第3回	環境計画・開発計画の変遷	わが国の環境計画と開発計画の明治期から今日に至るまでの変遷について、時代背景と共に両者を対比しながら解説する。
第4回	環境基本計画（国）	国が策定する環境基本計画の概要（位置づけ、策定プロセス、内容とその特徴など）について解説する。
第5回	環境基本計画（自治体）	都道府県および市町村の環境基本計画の概要（位置づけ、策定プロセス、内容とその特徴など）について解説する。
第6回	数理計画法 ー 線形計画法①	シンプレックス法による線形計画問題の解法について解説する。
第7回	数理計画法 ー 線形計画法②	二段階シンプレックス法による線形計画問題の解法について解説する。
第8回	数理計画法 ー 非線形計画法③	双対シンプレックス法による線形計画問題の解法について解説する。
第9回	数理計画法 ー 非線形計画法①	制約条件のない非線形計画問題の解法について解説する。
第10回	数理計画法 ー 非線形計画法②	制約条件（等式）のある非線形計画問題の解法について解説する。
第11回	数理計画法 ー 非線形計画法③	制約条件（不等式）のある非線形計画問題の解法について解説する。
第12回	数理計画法 ー 非線形計画法④	最急勾配法、ニュートン法による解法について解説する。
第13回	人工知能入門	人工知能の基礎および人工知能を用いた計画立案手法について解説する。
第14回	新しい考え方	生態系サービス、グリーンインフラストラクチャー、Eco-DRRなど環境計画を取り巻く新しい考え方について解説する。
第15回	持続可能な開発目標（SDGs）	今後の環境計画の基礎となる「持続可能な開発目標（SDGs）」について解説する。

担当者から一言

講義名	環境経済学入門							担当教員	高橋　卓也／林　宰司
講義コード	1200581	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM203,112ETC101,113ARC203,114BRM194								

授業概要

人間社会にとっての環境問題を考察、解決するうえで、経済学的思考は強力なツールとなりえる。また、現代社会に生きる市民として、経済学は必要不可欠な一般教養でもある。本講義では、環境問題、資源問題を具体的に紹介し、経済学的思考に触れ、今後、どのような学びが必要かについて自覚してもらうことを目標とする。具体的問題としては、公害、地球温暖化、廃棄物、再生可能天然資源（森林、水産業）、非再生天然資源（鉱業）、土地利用などを取り扱う。それぞれの問題を中心の話題として講義を進める。この授業は、環境経済、環境経営系の一連の授業の導入にあたる。

到達目標

(1)環境・資源問題に応用される経済的政策手法のうち、簡単な事例について説明できるようになる。
(2)経済学の基礎的理論および簡単な数式や図解を用いて、環境・資源問題について定性的・定量的な予測・評価ができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標で示す(1)および(2)について、試験（50%:（1)25%,（2)25%）で評価する。
レポート課題		
上記以外	50	到達目標で示す(1)および(2)について、各回の課題作業（50%:（1)25%,（2)25%）で評価する。

授業外学習

林：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。
高橋：課題、小テストを適宜行う。試験を実施する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境経済学をつかむ 第3版（テキストブックス[つかむ]）	栗山浩一、馬奈木俊介	有斐閣	978-4641177246
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境経済学入門							担当教員	高橋　卓也／林　宰司
講義コード	1200581	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM203,112ETC101,113ARC203,114BRM194								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス　-授業方針。環境問題と経済学。	授業の進め方についての説明、および環境問題を分析する際の経済学的思考方法について
第2回	外部性と市場の失敗	外部不経済の発生により市場の失敗が生じるメカニズムについて理解する。
第3回	公共財とフリーライダー	公共財の性質と、フリーライダー問題発生の構造を理解する。
第4回	直接規制と経済的手法	直接規制による環境政策と市場機構を活用した経済的手法による環境政策を比較し、経済的手法の効率性について理解する。
第5回	環境税と補助金	経済的手法を用いた環境政策のうち、環境税と補助金の効率性と両者の対称性、および分配影響の違いを理解する。
第6回	排出量取引	経済的手法を用いた環境政策のうち、排出量取引のしくみとその効率性について理解する。
第7回	直接交渉による解決	直接交渉により市場が形成された場合の環境問題解決のしくみについて理解する。
第8回	中間まとめ	第1回から第7回までの講義について振り返り、疑問点について解決をする。
第9回	資源問題と経済学：　導入	資源経済学の紹介。適用分野の概観。需要供給曲線による分析方法、余剰概念の復習。
第10回	非再生資源の経済学（１）	シェールガス、オイルサンドという事例から、地代という概念について理解する。
第11回	非再生資源の経済学（２）	レアメタル資源という事例から、価格弾力性という概念について理解する。
第12回	理解度の確認	小テストによって、理解度を確認する。
第13回	再生資源の経済学（１）	森林の利用、保全のバランスという事例から、生産可能フロンティア、最適配分について理解する。
第14回	再生資源の経済学（２）	水資源、水環境という事例から、非市場価値評価について理解する。
第15回	まとめ	第9回から第14回までの講義について振り返り、疑問点について解決をする。

担当者から一言

講義名	環境財政							担当教員	村上　一真
講義コード	1200582	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM205,212ETC311,313ARC306,214BRM293								

授業概要

環境問題の多様化・複雑化による環境保全経費増加に対する負担構造のあり方や実際についての理解を目指す。講義では、環境政策を担う組織や制度、権限や予算等の移譲と役割・機能分担、政策立案や予算編成、行政評価、財政のしくみや現状とともに、費用負担（汚染者負担、受益者負担、共同負担）と受益の関係の違いなどにより設計された、国際レベル・国レベル・地方レベルの様々な環境政策手段の理論と実際について学ぶ。

到達目標

(1)国・地方自治体の役割・機能に基づく行政・公共政策のしくみと現状、(2)国・地方自治体の政策実施等の原資となる財政のしくみと現状、(3)国・地方自治体の環境政策の手段や組み合わせのしくみと現状、(4)エネルギー・地球温暖化、森林政策の経済的手法のしくみと現状を理解し、説明できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5（50/4）%、期末試験12.5（50/4）%で評価する。
レポート課題	50	到達目標の(1)～(4)のそれぞれについて、毎回の授業中に課すレポートを12.5（50/4）%、期末試験12.5（50/4）%で評価する。
上記以外		

授業外学習

毎回の授業中にレポートを課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜、資料を配布する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	水と森の財政学	諸富徹・沼尾波子	日本経済評論社	
2	環境政策のポリシーミックス	諸富徹	ﾐﾈﾙｳﾞｧ書房	
3				

適宜、資料を配布する。

前提学力等

履修資格

講義名	環境財政							担当教員	村上　一真
講義コード	1200582	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM205,212ETC311,313ARC306,214BRM293								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス、環境財政に係る政策、組織の概要	ガイダンス、環境財政に係る政策、組織の概要
第2回	環境政策に係る国・地方自治体の役割と直接規制	環境政策に係る国・地方自治体の役割と直接規制
第3回	公共政策のかたちと策定・実施プロセス	公共政策のかたちと策定・実施プロセス
第4回	地方自治体の役割	地方自治体の役割
第5回	地方財政のしくみと現状	地方財政のしくみと現状
第6回	財政と政策評価	財政と政策評価
第7回	環境政策の役割分担（分権化とグローバル化）	環境政策の役割分担（分権化とグローバル化）
第8回	環境政策における費用負担原理	環境政策における費用負担原理
第9回	環境税、排出権取引の機能（インセンティブ税、財源調達）	環境税、排出権取引の機能（インセンティブ税、財源調達）
第10回	地球温暖化、水資源、廃棄物分野での取組み	地球温暖化、水資源、廃棄物分野での取組み
第11回	排出権取引に係る取組み1	排出権取引に係る取組み1
第12回	排出権取引に係る取組み2	排出権取引に係る取組み2
第13回	森林環境税に係る取組み1	森林環境税に係る取組み1
第14回	森林環境税に係る取組み2	森林環境税に係る取組み2
第15回	まとめ	まとめ

担当者から一言

講義名	環境職能論							担当教員	川井　操／松岡　拓公雄※／陶器　浩一／芦澤　竜一
講義コード	1200650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC319								

授業概要

現代生活にとって職能（プロフェッション）の重要性は益々増大している。とりわけ生活環境の想像、安全防災、健康、自然の保全に関わる建築家のなど職能人の責任は大きい。プロフェッションの現代的意義、制度、倫理などについて論述する。故内井昭蔵教授の職能とは何か、また生活環境創造に関わる職能人として大きな存在であった建築家やアーチストを例にとり、その歴史を概説し、聖職者、医師、弁護士など、他の職能との比較を通じ、その本質について理解を求める。又、諸外国でのプロフェッション成立を考察し、我が国の職能問題を明らかにする。更に環境問題と職能、環境倫理との関係について論述する。

到達目標

建築、ものつくりに関わる人々の職能意識を知ることができ、その意義であるデザインマインドについて理解を深めることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		出席回数および毎回提出レポート内容による。
上記以外		

出席回数および毎回提出レポート内容による。

授業外学習

授業内でミニレポート提出

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境職能論							担当教員	川井　操／松岡　拓公雄※／陶器　浩一／芦澤　竜一
講義コード	1200650	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC319								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	建築の職能の実態と現在の状況	建築の職能の実態と現在の状況
第2回	日本の建築家職能の誕生、その歴史と位置づけ	日本の建築家職能の誕生、その歴史と位置づけ
第3回	丹下健三論＋コルビュジェ論	丹下健三論＋コルビュジェ論
第4回	天野太郎論＋フランクロイド・ライト論	天野太郎論＋フランクロイド・ライト論
第5回	建築家とのコラボレーション１（ものつくり職能論）	建築家とのコラボレーション１（ものつくり職能論）
第6回	イサムノグチ論（アーチストからのメッセージ）	イサムノグチ論（アーチストからのメッセージ）
第7回	職能の変遷と建築職能団体の意味	職能の変遷と建築職能団体の意味
第8回	実践者を招いて１	実践者を招いて１
第9回	WMヴォーリズ論	WMヴォーリズ論
第10回	環境再生という職能（景観再生、団地再生他）	環境再生という職能（景観再生、団地再生他）
第11回	日本再生の意味（京都を例にして職能倫理）	日本再生の意味（京都を例にして職能倫理）
第12回	建築家とのコラボレーション２（プロフェッションの意味）	建築家とのコラボレーション２（プロフェッションの意味）
第13回	実践者を招いて２	実践者を招いて２
第14回	内井昭蔵の環境職能論	内井昭蔵の環境職能論
第15回	建築家の使命と職能論まとめ	建築家の使命と職能論まとめ

担当者から一言

講義名	環境政策学							担当教員	上河原　献二／和田　有朗
講義コード	1200700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM206,212BTR202,213ARC205,214BRM295								

授業概要

環境政策が成立する背景、環境政策に関わる組織と制度、環境政策の目標と手段など、環境政策の体系に関する理解を目指す。環境政策は、環境問題を解決するために実践された様々な試みが成立の根拠となっている。現在では、汚染管理、自然環境保全、地球環境保全、さらには放射性汚染対策まで拡大している。ここでは主要な政策の形成過程にとどまらず、その実施過程と成果を概観して、当該政策の意義と問題点を説明する。さらに、政策の実効性を高めるためには、政府だけではなく多元的な主体が関与する必要があるので、環境ガバナンスを巡る課題について解説する。

到達目標

（1）環境問題と環境政策の関連について説明できる
（2）環境政策の性格と機能を理解できる
（3）環境政策の目標と手段を説明できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	20	到達目標(2)について10% 到達目標(3)について10%
レポート課題	50	各授業中に作成するレポート 到達目標(1)について10% 到達目標(2)について10%
上記以外	30	中間試験 到達目標(2)について10% 到達目標(3)について10%

講義10回以上の出席が単位取得要件となる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	環境社会検定試験ECO検定公式テキスト	東京商工会議所編	日本能率協会マネージメントセンター	ISBN978-4-8207-4924-0
2	よい環境規制は企業を強くする	三橋規宏監修	海象社	978-4-907717-96-4
3	新版原子力の社会史	吉岡斉	朝日新聞出版	978-4-02-259983-4

前提学力等

環境政策は、環境問題に対応して発達する。
従って、環境問題についての一般常識を身に付けていることが望ましい。そのため日頃から印刷された新聞に目を通し、環境問題に関するニュース

履修資格

講義名	環境政策学							担当教員	上河原　献二／和田　有朗
講義コード	1200700	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	211FFM206,212BTR202,213ARC205,214BRM295								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境政策とは	①環境政策とは、②環境政策の性格、③環境政策の基本的な枠組み、⑤環境政策の基本的な理念
第2回	環境問題の性格	①環境問題、②公害、③環境規制、④公共の利益
第3回	環境問題の歴史(1)	①戦後復興と高度経済成長前半期（激甚公害の発生）、②高度経済成長後半期（環境政策形成期）
第4回	環境問題の歴史(2)	①低成長期と都市化・生活型公害（環境立法・政策の停滞）、②環境問題の国際化と環境政策の新展開、③環境基本法の制定
第5回	環境政策の主体	①政策形成過程における多様な主体の役割、②環境政策の形成と実施における政府の役割、③環境の保全に関する基本的施策
第6回	環境政策の目標と手段	①環境目標・基準の背後にある考え方、②環境目標・基準設定の実際、③環境政策の費用負担に関する原則
第7回	政策統合の必要性と方法	①環境政策の手段と執行、②政策手段の活用と組み合わせ－ポリシー・ミックスへ
第8回	環境ガバナンス	①環境保全の権利と責務、②政府機構改革、③政策決定プロセスの改革、④財政システムの改革、⑤統合的環境政策手段の導入を推進する主体の強化
第9回	生物多様性保全	①生物多様性とは何か、②生物多様性保全基本法と他の制度への浸透、③生物多様性国家戦略、④外来種対策、⑤自然再生
第10回	気候変動対策	①気候変動とは、②気候変動対策の体系、③日本の温室効果ガス排出状況、④日本の気候変動対策
第11回	化学物質対策	①化学物質と環境問題、②基本的考え方、③主要な国内法制度
第12回	廃棄物対策	①循環型社会の形成、②廃棄物対策、③災害廃棄物対策、④国際的な資源循環とバーゼル条約
第13回	大気・水環境管理	①目標設定（環境基準）、②規制値設定、③環境モニタリング（測定網整備）、④遵守確保と⑤最近の課題
第14回	原子力汚染対策	①福島第一原発事故とその被害、②その後の汚染対策に関する法整備、③高レベル放射性廃棄物処理、④経済性、⑤温暖化への影響（二酸化炭素排出量）
第15回	原子力汚染対策（発表会）	第14回講義の終わりに提示するレポートの構成に基づいて作成したレポートを発表する。

担当者から一言

講義名	環境設計Ⅰ							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200810	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC216								

授業概要

人間生活を支える器としての都市・建築における空間計画や空間構成に必要な基礎的知識と原理を学ぶ。まず、空間の大きさや寸法の決め方および人間の行動法則を理解する。その上で建築物を設計する際に考慮すべき美的・社会的・実利的な視点を踏まえながら、単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について謙述する。

到達目標

それぞれの文明による環境、都市空間、建築空間の構造について、単位空間を集合させた複合空間としての建築空間の計画方法について

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	４０％	
レポート課題	３０％	
上記以外	３０％	中間試験

レポート課題（３０％）＋中間試験（３０％）＋期末試験（４０％）の合計１００点で評価し、６０点以上を合格とする。レポート課題は各回の内容、中間試験は第１～７回の内容、期末試験は第１～１５回の内容を理解し、問題を解けること。

授業外学習

毎回、講義後に小テストを行う。また、毎回レポート課題（演習問題）も課す。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

講義の中で紹介する。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境設計Ｉ							担当教員	Jimenez Verdejo Juan Ramon
講義コード	1200810	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC216								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	都市開発のパターン・都市計画のコンセプト	都市開発のパターン・都市計画のコンセプト
第2回	新石器時代、メソポタミアの都市・建築	新石器時代、メソポタミアの都市・建築
第3回	エジプトの都市・建築	エジプトの都市・建築
第4回	ギリシアの都市・建築	ギリシアの都市・建築
第5回	ローマの都市・建築	ローマの都市・建築
第6回	イスラムの都市・建築	イスラムの都市・建築
第7回	中世の都市・建築	中世の都市・建築
第8回	中世の都市・建築	中世の都市・建築
第9回	ルネサンスの都市・建築	ルネサンスの都市・建築
第10回	ルネサンスの都市・建築	ルネサンスの都市・建築
第11回	ラテンアメリカ植民地都市・建築	ラテンアメリカ植民地都市・建築
第12回	バロック都市・建築	バロック都市・建築
第13回	１９世紀の都市・建築	１９世紀の都市・建築
第14回	２０世紀の都市・建築	２０世紀の都市・建築
第15回	２０世紀の都市・建築	２０世紀の都市・建築

担当者から一言

講義名	環境設計II							担当教員	金子　尚志
講義コード	1200820	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC313								

授業概要

日本の民家に見られる縁側やすだれ、韓国の民家を特徴づけているマルとオンドルなど、世界各地のヴァナキュラー（土着的）な民家・集落の知恵には、地域の気候風土に適した建築の原理や、環境と共生する手法がバリエーション豊かに体現されている。また、近代建築の秀作において、例えば、コルビュジェのブリーズ・ソレイユ（ユニテ・ダビタシオン・マルセイユ）や光の筒（ラ・トゥーレット修道院）、カーンによるコンクリートの天井を銀色に照らすトップライト（キンベル美術館）や採光・眺望と通風の機能が分担された窓（フィッシャー邸）など、光や風などの環境要素との関係が、建築空間の質に決定的な役割を果たすさまざまな例を見ることができる。環境要素と統合された建築空間の設計へ展開するため、環境工学の知識を応用するとともに建築事例を通してその関係を学び、設計・デザインに生かすための設計手法を学習する。

到達目標

・気候特性、地域特性を読み取ることができる。
・過去から現代までの建築と環境の関係を理解できる。
・自然エネルギーを活用したパッシブ手法が理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	定期試験、レポート、出席状況をもとに総合的に評価する。
レポート課題	50	定期試験、レポート、出席状況をもとに総合的に評価する。
上記以外	未定	未定

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	設計のための建築環境学―みつける・つくるバイオクライマティックデザイン		彰国社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	パッシブ建築設計手法辞典	彰国社		
2	最高にわかりやすい建築設備	エクスナレッジ		
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境設計Ⅱ							担当教員	金子　尚志
講義コード	1200820	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC313								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境設計概論	環境と応答する建築をめざして
第2回	地域・気候・風土	
第3回	人と身体感覚	
第4回	パッシブデザイン手法	
第5回	温熱環境と建築計画	
第6回	光環境と建築計画	
第7回	風・空気環境と建築計画	
第8回	窓・開口部・外皮の計画	
第9回	Climate Design	
第10回	都市に住む	
第11回	集まって住む	
第12回	負荷の削減と快適性の向上	
第13回	環境建築デザインの歴史	
第14回	シミュレーションによる建築計画、設備計画	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	環境設備							担当教員	伊丹　清
講義コード	1200840	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC224								

授業概要

省エネルギー・環境負荷軽減などを考慮しつつ、快適な建築内部環境をつくり・維持するための設備的手法について、その原理・技術を理解し、適切な計画ができるようになるための考え方、またその具体的な方法等について学ぶ。加えて、ヒートアイランド現象等への対策、建築設備・都市設備に関する環境負荷軽減手法や省エネルギー手法等の最新動向についても紹介する。

到達目標

(1) 快適な建築室内環境をつくり・維持するための設備的手法の具体的な原理・技術について理解し説明ができること。
(2) 環境負荷軽減や省エネルギーのための手法、ヒートアイランド対策などと、われわれの生活環境、建築・都市設備との関わりについて理解した上で、対策を選択できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	(1) 30% (2) 20%
レポート課題	20%	レポート課題４回程度レポート課題を出す） (1) 10% (2) 10%
上記以外	30%	簡単な出席レポートを毎回出す。 (1) 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	１級建築士受験基本テキスト 学科Ⅱ（環境・設備）第２版	大脇 賢次	彰国社	978-4-395-35005-6
2				
3				

前提学力等

「建築環境工学」を履修済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	環境設備							担当教員	伊丹　清
講義コード	1200840	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC224								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	都市設備の概要	都市設備の歴史、都市設備と建築設備の関わりについて理解する
第2回	都市設備の防災的視点	地域をおそう災害とライフラインとしての都市設備との関係を理解し、防災対策のあり方を考える
第3回	都市供給処理施設と環境	地域の自然環境と水・エネルギーのフローを理解し、都市供給処理施設のあり方を考える
第4回	空気調和設備とは	空気調和設備の原理と手段を理解する
第5回	温熱・冷熱を作り・運ぶ	冷・暖房に必要となる温熱源・冷熱源を作る設備と運ぶ設備の原理を理解する
第6回	空調方式と居室の関係	さまざまな空調方式と居室の状態との関わりについて理解する
第7回	空調の計画と熱負荷	空調を計画・設計するために必要となる熱負荷について理解する
第8回	温度と湿度のコントロール	空調すべき室の温度と湿度のコントロールの仕方と夏・冬の熱負荷との関わりを理解する
第9回	ペリメータ負荷とピーク負荷への対応策	窓付近のペリメータ負荷や夏の午後のピーク負荷へのさまざまな対応策を理解する
第10回	給水・衛生器具設備-1（給水設備）	給水設備、特に給水方式や汚染防止策、給水負荷について理解する
第11回	給水・衛生器具設備-2（給湯設備・衛生器具設備）	給湯にかかわる設備と衛生器具設備について理解する
第12回	給水・衛生器具設備-3（排水・通気設備・排水処理設備）	排水にかかわる設備と排水処理にかかわる設備について理解する
第13回	電気設備（ライフライン・電源設備）	電気エネルギーの地域・都市におけるフローと電源設備について理解する
第14回	電気設備（負荷設備・弱電設備）	建物内のさまざまな負荷設備と配線設備・弱電設備について理解する
第15回	防災設備、設備計画	建物と火災の拡大との関係、および、さまざまな防災設備について理解する

担当者から一言

講義名	環境造形論							担当教員	迫田　正美
講義コード	1200860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC219								

授業概要

19世紀末から現代にいたる芸術・造形活動の動向とその背景・影響についての理解を深めるとともに、建築やランドスケープデザインを始めとする環境造形の要点として、空間・意味・行為の相互連関が20世紀を通じてどのように位置付けられてきたかを理解する。その上で、モダニズムから現代の建築・環境造形作品の中に、それぞれの作家がそれらをどのように表現してきたかを追うことで、環境を造形することの意味と可能性の広がりについて考える。

到達目標

(1)近現代の造形芸術と建築デザインの歴史的位置づけについて述べることができる。
(2)個々の造形作品と建築作品について、その特徴について説明することができる。
(3)20世紀の造形思想の流れについて説明することができる。
(4)各回の講義で扱ったテーマに関連する事項について説明または自分の意見を述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	(1) (2) (3)
レポート課題	30	(4)
上記以外		

授業外学習

毎授業の終わりに簡単なレポートを作成する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	近代建築史	石田純一郎他	昭和堂	
2	近代建築史図集	日本建築学会編	彰国社	
3				

教科書１は常に授業に持参すること

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境造形論							担当教員	迫田　正美
講義コード	1200860	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC219								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概説	人間行動と環境造形（解釈学、発達心理学、ゲシュタルト心理学、動物行動学、現象学、文化人類学などの立場から）
第2回	20世紀造形芸術の諸相（１）	表現手法と認識の型（透視図法から印象派まで）ダ・ビンチ、ミケランジェロ、ベラスケス・・・モネ、スーラ、セザンヌ他
第3回	20世紀造形芸術の諸相（２）	芸術の対象と表現の可能性（抽象と構成主義）カンディンスキー、クレー、モンドリアン、ポロック・・・ステラ、フォンタナ、ミニマリズム
第4回	20世紀造形芸術の諸相（３）	出来事としての芸術（デュシャン、マン・レイ・・・ジョン・ケージ、ウォーホール、ジャスパー・ジョーンズ他）
第5回	20世紀造形芸術の諸相（４）	「見ること」と「存在／表現すること」ハプニング、パフォーマンス、インスタレーション、アースワーク他
第6回	モダニズムの空間（１）	近代的空間の誕生（ルドゥからバウハウスまで）
第7回	モダニズムの空間（２）	ユニヴァーサル・スペースの射程（ミースvs.妹島和世）
第8回	モダニズムの空間（３）	機能と構造について（有機体と機械／芸術と工芸・・・建築）
第9回	モダニズムの空間（４）	ル・コルビュジエの作品と思想（ドム・イノシステム、モデュロール、他）
第10回	モダニズムの空間（５）	ル・コルビュジエとCIAM
第11回	モダニズムの空間（６）	ルイス・カーンの作品と思想
第12回	ポスト・モダンの諸相（１）	新しい造形理念へ（記号論、構造主義、脱構築の概念）ヴェンチューリ、ジェンクス、アイゼンマン（ジャック・デリダ）他
第13回	ポスト・モダンの諸相（２）	ベルナール・チュミ、レム・クールハース、リベスキンド、ハディッド他
第14回	環境イメージと造形（１）	環境（場所）・意味・行為（身体図式と行為の図式）vs.アフォーダンスと直接知覚
第15回	環境イメージと造形（２）	現代における価値創出のカタチ、ジャン・ボードリヤール、村上隆、ル・コルビュジエ、他

担当者から一言

講義名	環境フィールドワークⅠ							担当教員	学部教員
講義コード	1200960	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	111FFM102-C,112BTC101-C,113ARC101-C,114BRM100-C								

授業概要

実際の地域環境問題が生起するフィールドに足を運び、自分自身の五感を通して環境問題に触れ、それを図、文字、数値データに記録する方法を学ぶ。また、自分自身で記述した記録から、地域環境問題がどのような問題構造をもったものであるか、グループ討議を通して組み立てる演習をおこなう。実際には４つのテーマで授業を行う。１テーマあたり３～４週を１クールとし、各クールで別テーマの授業を受ける。

４つのグループに分かれて、３～４週（１週は３、４、５時限の合計３時限）でひとつのテーマ、合計４つのテーマについてフィールド実習・演習をおこなう。
テーマは「大キャンパスの魅力を探せ」、「愛知川周辺の農村地域の自然・社会環境」、「エコキャンパス・バイコロジー」、「流域環境の構造と機能」である。各グループ実習・演習の中で１週は学外に出かけ、フィールド観察、施設・機関の見学などをおこなう。また、４回のグループ実習・演習ごとにその観察結果をまとめ、グループでプレゼンテーションを行うとともに、各個人がレポートを提出する。
各テーマでの授業計画については、各テーマ開始時に示される。

到達目標

（1）フィールドワークに必要な基本的スキルを身につける。
（2）指定された項目について、文章で表現できる。
（3）調査結果を考察し、その内容を他者に説明できる基礎力をつける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	（項目1）フィールドワークの基本スキルの修得：40% （項目2）指定された項目に対する文章表現：30% （項目3）調査結果を考察し、それを他者に説明する能力：30%

各項目についての成績評価方法は各テーマで異なるので，各テーマの授業開始時に説明をうけること。

授業外学習

各テーマの実習・演習終了時あるいは実施中にレポート等が課されることが原則である。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	フィールドワーク心得帖 新版	滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会	サンライズ出版	978-4883255627
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境フィールドワークⅠ							担当教員	学部教員
講義コード	1200960	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	111FFM102-C,112BTC101-C,113ARC101-C,114BRM100-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1クール	各回，担当教員の指示に従うこと。
第2回	第1クール	
第3回	第1クール	
第4回	第2クール	
第5回	第2クール	
第6回	第2クール	
第7回	第2クール	
第8回	第3クール	
第9回	第3クール	
第10回	第3クール	
第11回	第3クール	
第12回	第4クール	
第13回	第4クール	
第14回	第4クール	
第15回	第4クール	

担当者から一言

講義名	環境フィールドワークII							担当教員	学部教員
講義コード	1200970	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	211FFM202-C,212BTC201-C,213ARC201-C,214BRM200-C								

授業概要

地域環境にかかわる情報は多分野にまたがり、性質も多様である。これらの環境情報を収集し解析するために、対象地域あるいは問題対象を特定し、フィールドワークを通じて、自然調査や社会調査の基本的な手法を学んでいく。ねらいは、フィールドワークの手法を地域の環境問題の解析に適用することにより、現場に即した調査態度と解析手法、レポートに作成、発表の方法を学ぶことである。実際には９つのテーマに分かれ、その１つのテーマについて１５週の授業を受ける。

学生はAからＩまでの9グループに分かれる。グループ編成は学生の希望にもとづき、教員側で決定する。前期を通じて同じグループで授業を受ける。授業の成果を報告集として作成することを目標とする。各テーマでの授業計画については、授業開始時に示される。

到達目標

（１）なんらかの課題に対し、教員の指導の下でフィールドデータを取ることができる。
（２）取得したデータに対し、基礎的な分析を行うことができる。
（３）データの分析結果に基づき、論理的に議論できる。
（４）データの分析結果を適切な文章で表現できる。
（５）初歩的な報告書を書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	（項目１）フィールドワークのパフォーマンス：６０％ （項目２）データ分析のパフォーマンス：１０％ （項目３）プレゼンテーションのパフォーマンス：１０％

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境フィールドワークII							担当教員	学部教員
講義コード	1200970	単位数	3	開講期	前期	授業種別	実習		
ナンバリング番号	211FFM202-C,212BTC201-C,213ARC201-C,214BRM200-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	個別クラス	各テーマでの授業計画については、授業開始時に示される。
第2回	個別クラス	
第3回	個別クラス	
第4回	個別クラス	
第5回	個別クラス	
第6回	個別クラス	
第7回	個別クラス	
第8回	個別クラス	
第9回	個別クラス	
第10回	個別クラス	
第11回	個別クラス	
第12回	個別クラス	
第13回	個別クラス	
第14回	個別クラス	
第15回	個別クラス	

担当者から一言

講義名	環境フィールドワークIII							担当教員	学部教員
講義コード	1200980	単位数	3	開講期	通年集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	311FFM302-C,312PEL301-C,313ARC301-C,314BRM310-C								

授業概要

各教員が提示するテーマごとのグループに分かれ、その教員の指導のもとで１５週４５講分の時間を用い、フィールドワークを主体とした調査を行ない、調査報告書を作成する。

授業計画は、各教員によって異なる。
４月に環境フィールドワーク委員会から配布される「各グループのテーマおよび内容」を参照のこと。そのうえで、環境フィールドワーク委員会の指示にしたがい、どのテーマのグループに所属したいかを記した希望票を提出すること。

到達目標

（1）特定の課題に対し、教員の指導を受けつつ自発的にフィールドデータを取ることができる。
（2）取得したデータに対し、専門的知見を交えた分析を行うことができる。
（3）データの考察を行い、その結果を適切な文章で表現できる。
（4）考察を交えた報告書を書くことができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	（項目１）フィールドワークのパフォーマンス：６０％ （項目２）データ分析のパフォーマンス：２０％ （項目３、４）報告書作成のパフォーマンスおよび文章の質：２０％

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	環境フィールドワークIII							担当教員	学部教員
講義コード	1200980	単位数	3	開講期	通年集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	311FFM302-C,312PEL301-C,313ARC301-C,314BRM310-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	個別クラス	各担当教員の指示に従うこと。
第2回	個別クラス	
第3回	個別クラス	
第4回	個別クラス	
第5回	個別クラス	
第6回	個別クラス	
第7回	個別クラス	
第8回	個別クラス	
第9回	個別クラス	
第10回	個別クラス	
第11回	個別クラス	
第12回	個別クラス	
第13回	個別クラス	
第14回	個別クラス	
第15回	個別クラス	

担当者から一言

講義名	環境公正論							担当教員	土屋　正春※
講義コード	1201085	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC304,313ARC207								

授業概要

今や小学生でさえ「地球環境問題」という言葉を知っています。この時代に生きる私たちには歴史的にも前例のない努力と配慮を求められていますが、その内実は極めて複雑な状況にあります。

一例を挙げると、2010年に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）ではこれまでになく資源提供国と利用国との激しい対立が展開されたことは知られている通りです。それでも2015年12月にパリ協定として全ての国が協調して温暖化問題に取り組む枠組みが採択されたのは、問題の深刻さが広く国際社会で広く共有されたためだと言えるでしょう。

ところがアメリカのトランプ大統領はアメリカの国益に沿わないという立場からパリ協定からの脱退を宣言したことから、アメリカ国内でも国際社会でも状況は混乱しています。

これら一連の出来事は、「権利」と「義務」とで成り立つ「制度」には、避けることができない「仕組み」としての限界が潜んでいることを示しています。このため、今や地球規模にまで拡大した環境問題を考えるためには、これとは別のチャネルの共有が強く求められるようになりました。人間の行動をより広い正義や公正の観点から見直そうとする動きがそれであり、すでに40年ほど前から研究成果の蓄積を得てきています。

到達目標

・これまでの環境思想の流れの理解を通じて時代認識を得ること。
　また、生命についての考え方との関係を理解できること。
　そして、一番大切なことですが、自分の考えを持てるようになること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	・到達目標について記述式試験、および穴埋め問題など による試験を行います。(70%)
レポート課題		
上記以外	30	・講義の進度に応じて記述式小テストを行います。(30%)

・3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としません。

授業外学習

・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

・教科書は使用しません。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

前提学力等

・前提とする学力内容が多岐にわたるので3年次以上の履修としています。

履修資格

講義名	環境公正論							担当教員	土屋　正春※
講義コード	1201085	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312ETC304,313ARC207								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	環境公正論の基本テーマ	深刻化と拡大化をたどる環境問題について、先進国を中心として新しい思潮が登場したのは1970年代の初期でした。それまでの考え方の枠組みのどこが批判されたのか、それに代わり必要とされ強調
第2回	水俣からの問い	1956年は現代日本社会にとって時代を画するものとなりました。「もはや戦後ではない」と経済白書が戦後復興経済の立ち上がりを宣言し、同時に「奇病」が九州水俣で公式発見されたのがこの年な
第3回	社会変化のバランスシート	水俣を代表とする公害問題は「公害日本」にまでなりましたが、その背景には経済成長と便利生活を求める社会の動きがありました。その後、公害の性質が汚染から開発に転じた過程を通じても問題
第4回	成長の限界と持続的な発展	1972年に発表された「成長の限界」という考え方と1987年に発表された「持続的発展」という考え方は、現代社会の抱える困難な課題を私たちに共に問いかけていますが、それに応える道筋も少しず
第5回	現代開発論ＳＤＧｓ	さまざまな外的環境に働きかけて人間は文明をより強力なものにしてきましたが、これまでに明らかにされたようにその限界ははっきり見てとれるようになっています。これに対して2015年に国連か
第6回	功利主義と環境問題	日本から眼を広げてみましょう。現在の社会のあり方をこれまで方向づけてきたのは功利主義だとされています。であるとすれば、最大多数の最大幸福というその原理が地球環境問題というような人
第7回	共時性と通時性というツール	視野を広げて考えると、もはや一時的で、かつ、一地域的な性格を大きく超える問題については共時性と通時性というツールで整理することが大いに貢献します。利害が大きく傾いた問題についての
第8回	世代間責任について	共時性の観点に立つと国際的な相互支援体制づくりがゴールですが、通時性の場合にはどうなるのでしょう。そもそも将来世代に対する現世代の責任の有無はどう議論されているのか、です。今は存
第9回	前半中間まとめ	ここまでは人間世界の内側をいくつかのポイントを通じて考察してきました。実際の場面では現実問題の複雑さを反映して入り組んだ議論が展開してきています。この回では各回の内容よりはこれま
第10回	保全と保存という考え方	この回からは人間世界と外側とについて考えて行きます。「子、孫の代まで漁が続けられるように」とする意見広告を長崎県壱岐市の漁業団体が世に問うたのは3年前のことでした。私達の外側の
第11回	共生論と共同体論	ＵＳＰの初代学長であった日高先生は「自然との共生」という言葉には批判的でした。人間も自然の一部だというのです。人間と自然とを別個の存在として考えることの限界を突破し、人間も自然の
第12回	自然の権利、動物の権利	人間と自然とが平等であるとすれば、真の平等を実現するには自然の側にも人間に対して自らを守る権利があって当然だ、という考え方が登場しても不思議ではありません。自然に、そして動物に権
第13回	「種の差別」という議論	すべての生き物は平等な配慮を受けて当然だとする考え方は更に分析的な様相を呈し、ヒトであるとかイヌであるとかの「種」を超えた配慮にまで及びます。ヒトよりイヌを大切にする、そうした認
第14回	人格論の展開	ヒトはいつまでヒトであり、どうなったらヒトではなくなるのか。私たちは一体何を守ろうとしているのか。極めて大きな枠組である「環境」でスタートした講義が「ヒト」をめぐるピンポイントの
第15回	講義全体のまとめ	私たちはもっと周りに対する見方をソフトにし、多様化し、将来へのチョイスの幅を広げるように努めねばなりません。学んできたように成長が社会にもたらす魅力が尽きないものだとすれば、その

担当者から一言
・今後の予習課題掲載ページに注意願います。

講義名	基礎数学Ⅰ							担当教員	山﨑　惣治郎※
講義コード	1201110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM105,112PEL101,113ARC104,114BRM190								

授業概要

自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。
授業概要（要約版：印刷用）　自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、数学的な見方・考え方の力を身につけ、様々な分野で数学が利用されていることを学習する。

到達目標

(1)漸化式が解けること。(2)数列の極限が求められること。(3)ベクトル・行列の扱いに慣れること。(4)いろいろな曲線の表し方を理解すること。(5)確率の計算・確率分布・平均・分散が求められること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	期末考査
レポート課題	30	出席を含む
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基礎数学Ⅰ							担当教員	山﨑　惣治郎※
講義コード	1201110	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM105,112PEL101,113ARC104,114BRM190								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	いろいろな数列	
第2回	漸化式	漸化式を解き、数列の極限を求める。
第3回	数列の極限	
第4回	級数	
第5回	平面上のベクトル	
第6回	ベクトルの内積	
第7回	空間のベクトル	
第8回	行列	行列の便利さを知る。
第9回	行列の累乗	
第10回	一次変換	
第11回	２次曲線	
第12回	曲線の媒介変数表示	
第13回	極座標と極方程式	色んな発想を知る。
第14回	確率	宝くじの「夢」を知る。
第15回	確率分布	

担当者から一言

講義名	基礎数学Ⅱ							担当教員	山﨑　惣治郎※
講義コード	1201120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM106,112PEL102,113ARC105,114BRM191								

授業概要

自然科学の研究には、客観的手段として数学が必要になる。本科目は高校数学をベースにして、直感を重視しながら数学的な見方・考え方の力を身につけ、また環境問題を扱う上でしばしば見受けられる三角関数・指数関数・対数関数を軸として、関数の微少な変化を調べてその結果を知るための微分・積分の基礎的概念を学習する。

到達目標

(1)三角・指数・対数関数の計算ができること。
(2)平均変化率・導関数の計算ができること。
(3)置換積分・部分積分の計算ができること。
(4)簡単な微分方程式が解けること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	期末考査
レポート課題	30	出席等
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	基礎数学Ⅱ							担当教員	山﨑　惣治郎※
講義コード	1201120	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	111FFM106,112PEL102,113ARC105,114BRM191								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	三角関数	計算ができること
第2回	指数関数	
第3回	対数関数	
第4回	関数の極限	
第5回	平均変化率と微分係数・導関数	
第6回	関数の増減・極値・グラフの凹凸	グラフがかけること
第7回	平均値の定理・近似式	
第8回	不定積分	
第9回	置換積分・部分積分	
第10回	区分求積法と定積分	
第11回	面積	
第12回	体積	
第13回	曲線の長さ	
第14回	微分方程式	
第15回	まとめ	

担当者から一言

講義名	景観計画							担当教員	村上　修一
講義コード	1201160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL307,213ARC302,214BRM287								

授業概要

ランドスケープは，自然と人為の関わり合いをとおして形成される場の様相である。本科目では，ランドスケープの特徴や仕組みを分析して課題を抽出し，課題の解法を創造するための計画手法を学ぶ。受講生は単に知識を得るだけでなく，未来社会にふさわしい新たなランドスケープ形成手法を習得する。

各回の授業は以下のように実践形式である。
（1）目標とワークシート課題の提示
（2）課題を解くために必要な手法の講述
（3）ワークシートの作成と採点

到達目標

講述する手法を用いたランドスケーププランニングができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標について授業時間内に実施する13回分のワークシート課題の点数を合計し（100点／回，1300点満点），100点満点に換算して評点とする（100%）。ワークシートは授業時間中に座席間を移動する教員によって採点される。

授業に出席しても，居眠り等によりワークシート課題を行っていない場合は，その回の点数は0点となる。

ワークシートは，講義の内容によって，トレーシングペーパー上で地図を作成する形式や，小クイズ形式の場合などがある。

授業外学習

本科目で習得した手法を，設計演習や卒業設計における課題制作に際して，積極的に活用し，その手法を確実に身につけてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ランドスケープデザイン	佐々木葉二，曽和治好，村上修一，久保田正一	昭和堂	
2	環境デザイン学‐ランドスケープの保全と創造	森本幸裕，白幡洋三郎編	朝倉書店	
3	テキスト　ランドスケープデザインの歴史	武田史朗，山崎亮，長濱伸貴編	学芸出版社	

追加の参考書

前提学力等

(1) 川の課題に取り組む回があるので，人間学「川の未来学」を履修し河川計画の基本を知っておくことが望ましい。
(2) 等高線を描く回があるので，「ランドスケープデザイン」を履修し等高線の作図法を習得しておくことが望ましい。

履修資格

講義名	景観計画							担当教員	村上　修一
講義コード	1201160	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	212PEL307,213ARC302,214BRM287								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	序論	ランドスケーププランニングの概要
第2回	都市公園	近代都市公園の計画手法を先例に学ぶとともに，国内における都市公園の制度，現状，課題を理解する。
第3回	パークシステム	都市緑地の系統化による回廊空間創出の手法を学ぶ。
第4回	京都ランドスケープデザイン展の各自見学(ワークシート無し)	京都で開催される展覧会で学生によるランドスケープデザイン作品を見学し，表現方法やデザイン手法について学ぶ。（会期によって授業の順番が変わることがある）
第5回	京都ランドスケープデザイン展の作品レヴュー	京都ランドスケープデザイン展における特筆すべき作品の解説を聞き，表現方法やデザイン手法について学ぶ。（会期によって授業の順番が変わることがある）
第6回	グリーンインフラ	都市における降雨の地表面流出を植物と土壌で遅らせる計画手法を学ぶ。
第7回	シナリオデザイン	土地利用の将来像を段階的に描く計画手法を学ぶ。
第8回	ランドスケープ・エコロジー	リチャード・フォーマンが提唱する，生物多様性のための土地利用の原則を学び，緑地配置の計画に応用できるようになる。
第9回	オーバーレイ・メソッド	イアン・マクハーグが考案した，土地条件図の重ね合わせによる土地利用計画の手法を学ぶ。
第10回	オルタナティブ・メソッド	カール・スタイニッツが考案した，複数の未来シナリオの設定と総合評価による意思決定支援の手法を学ぶ。
第11回	文化的景観	自然条件に即して生業や生活が成り立つよう人為によって形成された景観の特徴を分析する方法を学ぶ。あわせて，文化的景観を守り育てる制度を学ぶ。
第12回	山間部の景観	山間部の自然条件に即して生業や生活が成り立つよう人為によって形成された景観の特徴と仕組みを分析，課題を抽出する方法を学ぶ。さらに，課題解決策の案出を試みる。
第13回	川の景観	水の流れや地形を読み川と共生した先人の知恵を，景観の特徴として見出すための分析手法を学ぶ。
第14回	湖岸の景観	湖岸の移動にともなって体験されるシークエンス景観を記譜法で記述し，その特徴と課題を抽出する手法を学ぶ。
第15回	沿岸域の景観	陸域と水域のせめぎあいの痕跡を読み解き，新たなデザイン課題を発掘する手法を学ぶ。

担当者から一言

(1) 遅刻をしないこと。各回の講義の冒頭で目標を説明しワークシート課題を提示する。遅刻すると目標や課題の理解が不十分な状態でワークシートの作成を行うことになる。

講義名	建築一般構造							担当教員	黒川　直樹※
講義コード	1201200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC107								

授業概要

建築を初めて学ぶにあたり、建築物を成立させている部位と構造・しくみを知ることによって、多様な建築技術の全体像を把握する。建築材料、架構、仕上などの基礎的な知識、世界の有名建築家、有名建築物、歴史的建造物における使用例、また技術の歴史的変遷から最新の技術まで、実際の設計・施工の現場における諸問題にも触れて幅広く講義する。

授業内容はこれから大学で学ぶ建築講義の基礎知識となるだけでなく、社会人になってから必要となる最低限の知識を含んでいる。又、建築のおもしろさ、幅広さ、奥深さを感じる教養としてもとらえることができる。

授業は、テキスト、配布プリントの内容をパワーポイントにて説明する。毎回、簡単な宿題リポートを課し、その講評と質疑回答を説明する。

到達目標

(1)建築技術の全体像を把握する。
(2)建築物の構造（しくみ）を理解する。
(3)これから建築に携わる人が必要とする建築技術専門用語を修得する。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	期末筆記試験
レポート課題	60	宿題(レポート評価)
上記以外		

出席状況も成績評価に反映する。

授業外学習

テキストに準拠し、その内容を幅広く展開して総合的に講義するので、事前にテキストの該当するページを読んでおくこと。（授業計画概要の(P　～P　)はテキストの該当ページを示す）

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築構法　第五版	内田祥也編著	市ヶ谷出版社	9784870710016
2				
3				

授業に持参すること

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業時にプリントを配布する

前提学力等

履修資格

講義名	建築一般構造							担当教員	黒川　直樹※
講義コード	1201200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC107								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	建築物のしくみと構造概要	建築物を成立させている躯体・仕上などの部位としくみの概要を学び、多様な架構の実例に触れる。（P1～P18）
第2回	構法の歴史	古代から現代に至るまで、建築架構・材料などの歴史的変遷を学ぶ。（P263～P266・P271～P274）
第3回	建築物への荷重・外力	地震・風･雪などの荷重・外力を知り、外力に抵抗する構造計画を学ぶ。制振・免震にも触れる。(P19～P29)
第4回	鉄骨造	鉄骨造の特徴、部位の名称と架構技術を学ぶ。（P30～P51）
第5回	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造の特徴、部位の名称と架構技術を学ぶ。（P52～P72）
第6回	その他の構造	組積造、プレストレストコンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、空間構造、超高層など多様な構造を学ぶ。（P73～P106）
第7回	木造	木造の特徴、部位の名称と架構技術を学ぶ。（P107～P146）
第8回	基礎・施工	地盤の性質、基礎の種類及び工程表・施工プロセス・建設業の現状について学ぶ。（P147～P155）
第9回	屋根	屋根の機能・種類・名称・材料について学ぶ。（P156～P172）
第10回	壁	壁の機能・種類・名称・材料について学ぶ。（P173～P210）
第11回	開口部･建具	開口部･建具・ガラスの機能・種類・名称・材料について学ぶ（P194～P210）
第12回	床・階段・天井	床・階段・天井の機能・種類・名称・材料について学ぶ。（P211～P230）
第13回	造作・モデュール・プレハブ	住宅造作・モデュール・プレファブリケーションについて学ぶ。（P231～P242・P250～P262・P266～P270）
第14回	設計	設計図・仕様書などの設計図書及び設計プロセスについて学ぶ。設計過程の実例にも触れる。（P243～P249）
第15回	まとめ	第1回から第14回までの授業を復習する。

担当者から一言

講義名	建築環境工学							担当教員	伊丹　清
講義コード	1201210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC221								

授業概要

建築に関わる光・音・熱・空気などの物理的環境要素の特性を理解し、室内・建築内においてこれらのあり方・分布の仕方をコントロールするための技術の基礎を学ぶ。また、これら環境要素を刺激として知覚・認知する人間の側の特性についても理解することによって、よりよい室内環境、建築環境を実現するための方法について学ぶ。さらには、これら方法を環境負荷軽減や省エネルギー、省資源の観点も踏まえて選択できることを目指す。

到達目標

(1) 光・音・熱・空気などの物理的環境要素の基本的な特性について理解し、空間内でのあり方を予測できること。
(2) これら物理的環境要素と人の感覚との関わりについて説明できること。
(3) これら物理的環境要素と建物との関わりについて理解し、建物はどのように人の健康・安全や省エネルギー等の社会的ニーズと関わりを持ち、どういうあり方がよいのか説明できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50%	(1) 15% (2) 15% (3) 10%
レポート課題	20%	３回程度レポート課題を出す。 (1) 10% (2) 10%
上記以外	30%	簡単な出席レポートを毎回出す。 (1) 15% (2) 15%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	1級建築士受験基本テキスト 学科II（環境・設備）第二版	大脇 賢次	彰国社	ISBN978-4-395-35005-6
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	建築環境工学							担当教員	伊丹　清
講義コード	1201210	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC221								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概論、光・光源	建築環境工学の概要、光・光のスペクトル・光源の種類とその特徴について理解する
第2回	測光量	照度などの測光量とそれらと見やすさの関係を理解する
第3回	照明法と見やすさ	ここちよい視環境と照明のあり方との関係、および、モノの色と感覚との関係を理解する
第4回	面光源による照度	天空光や面光源における立体角投射率について、および、照度計算法との関係を理解する
第5回	昼光照明	昼光光源の特性を理解し、太陽位置と昼光照明のあり方について理解する
第6回	日照・日射	日影の日変化と季節変化、および、日照・日射・長波長放射といった事柄を理解する
第7回	放射と外皮	放射と建物外皮との関係、すなわち、ガラス面や壁面への放射の作用の仕方を理解する
第8回	伝熱と熱貫流	建物外皮における日射遮蔽と日射熱取得性能、および、熱伝達と熱貫流を理解する
第9回	断熱性能と室温変動	断熱性と蓄熱性による室温変動の変化について理解する
第10回	湿度と温熱感覚	湿度指標と乾湿感の関係、および、６種の温熱感覚要素と２つの快適指標の関係を理解する
第11回	断熱性と防露性	壁体内の温度分布計算の方法と結露のメカニズム、および、結露防止策について理解する
第12回	空気汚染と換気	換気と室内空気質の関係、および、必要換気量について理解する
第13回	自然換気	２種の自然換気とそれらによる換気量計算法について理解する
第14回	音と騒音	音の聞こえ方、伝搬の仕方に関する特性、および、騒音の評価法について理解する
第15回	室内音響	遮音・吸音と室内音響について理解する

担当者から一言

講義名	建築環境工学演習							担当教員	伊丹　清
講義コード	1201220	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC315								

授業概要

「建築環境工学」の講義内容に沿った演習・実験を行い、具体的な建築内や外部空間においての物理的環境要素のあり方を比較・考察をすることにより、各要素の空間的・時間的なあり方の変化について理解を深めるとともに、これら各要素の絶対量や変化量とわれわれの感覚との関わりについて深く考察ができることを目指す。

到達目標

(1) 物理的環境要素に関する測定・評価の方法を理解し、それら結果を適切に比較・考察できること。
(2) 建築環境工学の授業で身につけた物理的環境要素の特性、建築との関わり、人の感覚への影響などについて説明できること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	70%	(1) 30% (2) 40%
上記以外	30%	毎回、小課題の提出がある。 (1) 30%

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

建築環境工学を修得済みであることが望ましい。

履修資格

講義名	建築環境工学演習							担当教員	伊丹　清
講義コード	1201220	単位数	2	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC315								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	物の色、素材の色	建材表面の色を測定・比較し、視環境との関係を考察する
第2回	光の色、さまざまな光源の性質	輝度・色度や色温度などから光源の特徴を理解する
第3回	よく見えるとは、輝度と照度	測光量である照度・輝度と明視条件との関係を理解する
第4回	昼光照明・人工照明の明るさの分布	開口部・照明の位置と室内各所での明るさとの関係を理解する
第5回	平均放射温度と温冷感	気温以外の温熱感覚要素の影響の仕方について理解する
第6回	熱と湿気の移動と分布	温度差と蒸気圧差を駆動力として移動しようとする建物内の熱と湿気のあり方を理解する
第7回	建物内の炭酸ガス濃度など	建物内の空気質の変化とその要因としての人の存在、換気のあり方について理解する
第8回	建物内の気流のあり方	建物各所・各部位における気流のありようの観察より温度差換気の生じ方について理解する
第9回	建物形状と開口の仕方による気流の生じ方	流れの可視化により風力換気の生じ方について理解する
第10回	日射と表面温度	直達日射だけでなく天空日射を受けるさまざなな外壁の部位における日射の受け方の違いを理解する
第11回	地表面付近の熱収支計算	日射を受け、長波長放射の授受を行うことで温度変化をする地表面付近の熱収支を理解する
第12回	太陽位置と日影	太陽位置の日変化・季節変化を計算により確認し、日影の生じ方とその影響の仕方を理解する
第13回	省エネ基準と熱負荷計算	住宅の省エネルギー基準による熱性能の評価の仕方を理解する
第14回	可聴範囲と聴覚	正弦波の聞こえる範囲とその大きさ感から可聴範囲と感度の変化を理解する
第15回	室内環境と音の減衰	場所と距離による音の減衰の仕方を比較・考察する

担当者から一言

講義名	建築数学・物理							担当教員	伊丹　清／高田　豊文
講義コード	1201250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC108								

授業概要

建築の設計には，設計製図などのデザイン・意匠の能力だけでなく，構造や環境・設備などの工学的な視点も必要となる．この授業では，構造分野や建築環境・設備分野などの環境建築デザイン学科での工学的な専門科目で用いる基礎的な数学および物理について学習する．具体的には，建築工学全般に必要な微分・積分，建築構造解析や光・熱・音・波などの解析に必要な数学・力学の基礎について学習する．

到達目標

(1)指数関数・対数関数・微積分に関する問題を解くことができる．
(2)建築構造の授業の理解に必要な静力学の基礎な問題を解くことができる．
(3)建築分野に現れる簡単な微分方程式を解くことができる．
(4)波の周波数分析の理解に必要な複素数の極形式表現に関して基礎的な問題を解くことができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	50	到達目標(1)および(2)について，論述式試験を行う（50%）．
レポート課題	50	到達目標の各項目について，毎回課題レポートを課す（50%）．
上記以外		

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学新入生のための数学入門（増補版）	石村園子	共立出版	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	大学新入生のためのリメディアル数学	中野友裕	森北出版	
2	なるほど虚数-理工系数学入門	村上雅人	海鳴社	
3				

前提学力等

微分・積分の知識が必要であるため，「基礎数学Ｉ」の単位を取得していることが望ましい．

履修資格

講義名	建築数学・物理							担当教員	伊丹　清／高田　豊文
講義コード	1201250	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC108								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス，関数とグラフ・三角関数	2次関数までのグラフや不等式の範囲の図示，三角関数の基礎について学習する．高校数学の内容の復習である．
第2回	指数関数・対数関数	指数関数および対数関数について学習する．高校数学の内容の復習である．
第3回	微分（その１）	簡単な関数の微分，高次微分，偏微分について学習する．
第4回	微分（その２）	三角関数や指数関数・対数関数の微分について学習する．高校数学の内容の復習である．
第5回	積分（その１）	簡単な関数や三角関数の定積分・不定積分について学習する．高校数学の内容の復習である．
第6回	積分（その２）	三角関数や指数関数・対数関数の積分，構造力学で現れる積分について学習する．
第7回	複素数（その１）	複素平面と極形式について学習する．
第8回	複素数（その２）	波の成分分析（スペクトル解析）の基礎について学習する．
第9回	簡単な微分方程式	簡単な微分方程式の解法，構造力学で現れる微分方程式について学習する．
第10回	振動論の基礎	1自由度系の非減衰自由振動の解法について学習する．
第11回	力の基本的性質	静力学の基礎，とくに力のモーメントについて学習する．
第12回	力とベクトル	力の合成・分解，力のつり合いについて学習する．
第13回	外力と反力（その１）	集中荷重や分布荷重が作用する梁の，支点反力の算定方法について学習する．
第14回	外力と反力（その２）	集中荷重・分布荷重・モーメント荷重が作用する梁や構造物の，支点反力の算定方法について学習する．
第15回	外力と反力（その３）	集中荷重・分布荷重・モーメント荷重が作用する構造物の，支点反力の算定方法について学習する．

担当者から一言

講義名	建築生産施工							担当教員	中西　茂行※
講義コード	1201260	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC223								

授業概要

『建築生産施工』とは、建築設計を目指す学生、建築施工管理を目指す学生共に、重要な知識を得る講義です。
『建築生産施工』とは、科学的理論と技術に基づいて、設計図書に示された所定の建築物を具体的に生産することを意味し、建築学を学ぶ学生にとって極めて重要な一分野です。
本講義は、その生産プロセスにおいて与えられた諸条件に対して、広義には「工法選択技術」および「生産管理技術」を包括しているので、それらの基本を広い視野をもって習得することを目的としています。
大学を卒業後、建築技術者として、建築設計者として携わる人、施工管理者として携わる人、そのどちらにも必要な先人たちの知識・経験によって得られた知恵から学ぶ読解力を養うことを目的としている講義です。

到達目標

(1) 建築生産作業完了までの流れを理解し、説明できる。
(2) 建築生産での仕事の内容など基礎的事項を理解し、説明できる。
(3) 建築生産に携わる建築技術者（設計監理者・施工管理者）の役割を理解し、説明できる。
(4) 実際の建物の紹介事例に対して自らの考えを述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	70	１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。
レポート課題	30	１００点満点で採点し、６０点以上を合格とする。
上記以外		

授業時間数の1/3以上欠席した者は評価対象としない。

授業外学習

彦根市内や近隣地域において実際に建設中の建物を見学し、その施工について知ることは学生個々の知識習得につながるので、授業時間外の時間を利用し見学会等を実施します。設計者を目指す学生、施工管理者を目指す学生それぞれにとって本講義での知識は不可欠であるので、積極的な参加

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築施工教科書	建築施工教科書研究会	彰国社	9784395008865
2				
3				

教科書以外に毎講義ごとのプリント等を配布します。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	基礎から学ぶ建築生産	大久保孝昭	学芸出版社	
2				
3				

前提学力等

設計や施工に関する一般的な建築用語を知るなど、建築に関するある程度の基礎知識（建築一般構造の履修時の知識・建築法規の履修時の知識）を有することが望ましい。

履修資格

講義名	建築生産施工							担当教員	中西　茂行※
講義コード	1201260	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC223								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	建築生産施工　序説	建築施工施工とは何か？これから学ぶ『工法選択技術』・『生産管理技術』について基礎的な講義の流れを理解し、学ぶべきポイントを整理し理解する。また、建設業を取り巻く現在の情勢・変化を理
第2回	建築生産システムとそのプロセス　①　　請負契約と積算	生産施工のスタートとなる『請負契約と積算』について、その流れと内容、契約に必要な事項を学ぶ。
第3回	建設生産システムとそのプロセス　②　　工事計画	工事計画とは何か？『工程管理』についての基礎とその手法について理解する。続いて『工事監理』についての基礎とその手法についての理解を深める。
第4回	生産プロセス　各論Ⅰ　①　　『仮設工事』　『土工事』	実際の建築物の施工について『仮設工事』における種類や施工の進め方、続いて『土工事』とは何か？その種類、施工法、各種工法について理解を深める。
第5回	生産プロセス　各論Ⅰ　②　『地業工事』	『地業工事』とは何か？を理解する。合わせて地盤についての支持力と地盤調査についても理解をし、建築生産施工の基礎となる各種地業工事の種類と施工法についての理解を深める。
第6回	生産プロセス　各論Ⅰ　③　『鉄筋コンクリート系工事』	建築材料である鉄筋・コンクリート等の特性や種類、JIS規格に関する事項、現場施工のやり方、その施工管理方法、設計監理の方法を習得する。また、補強コンクリートブロック造、ALC版について
第7回	生産プロセス　各論Ⅰ　④　『鉄骨系工事』	『鉄骨工事』の基礎知識の習得をする。鉄骨造の長所、短所を理解する。その施工手法、管理方法、監理方法についても学ぶ。材料学としての鉄骨素材についての基礎知識の習得も目指す。
第8回	生産プロセス　各論Ⅰ　④　　『木造』	『木造』を学ぶための基礎となる我が国の木造建築の沿革の講義を通して日本の過去から現在の木造建築の基礎知識を習得する。そのうえで、木造・木材の基礎知識を知ることで木造とは何かを学ぶ。
第9回	生産プロセス　各論Ⅰ　⑤　　『木質系工事１』	木造の施工を行ううえで必要となる木材について、またEW（集成材等のエンジニアリングウッド）についてもその技術と種類についての基礎知識を習得する。
第10回	生産プロセス　各論Ⅰ　⑥　　『木質系工事２』	木造施工の手法とその施工法についての技術を理解する。鉄筋コンクリート造、鉄骨造との対比による構造特性についての基礎知識習得のため、ロングスパン架構の構築に関するトラス構造その他の架
第11回	生産プロセス　各論Ⅱ	実際に施工されている『中・大規模木造建築の設計例』を紹介することで、その問題点と解決方法についての知識の習得を目指す。合わせて他の構造と比較することで、建築物の防火・耐火についても
第12回	生産プロセス　各論Ⅱ　『内外装仕上げ工事①』	外装工事である「防水工事」・「タイル工事」・「石工事」・「屋根工事」・「左官工事」についての基礎知識の習得を目指す。
第13回	生産プロセス　各論Ⅲ　『内外装仕上げ工事②』	内装仕上として、「塗装工事」・「カーテンウォール工事」・「ガラス工事」・「金属製建具工事」・「木製建具工事」・「内装工事」についての基礎知識の習得を目指す。
第14回	建築施工における管理項目とその技術	建築物の解体工事についての各種施工法とそれにより発生する廃棄物処理についての講義を通して、産業廃棄物となる建築材料についての基礎知識を習得する。合わせて廃棄についての手法と持続可能
第15回	先端建築にみる建築生産の未来像	『最新の建設技術の案件の紹介とその解説』をすることで、学生たちの進むべき未来についての知識を得ることを目的にする。

担当者から一言
設計者・施工管理者を問わず、建築用語・施工法に対する理解はたいへん重要です。 建築士の受験、就職以後にも役立つ内容ですからしっかり理解する努力をして欲しい。

講義名	建築法規							担当教員	戸川　勝紀※
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC225,333RED224								

授業概要

法治国家の目的は、正義及び公平の原則に従って、社会を規律し、かつ法的安定性をもたらすことであり、社会秩序を維持し、国民間の利害を調整して国民に経済的･文化的に人間に値する生活を営ませることである。そして、建築基準法の目的は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することである。　これらを踏まえて、都市デザイン、建築デザイン及び生活デザインを行うために、建築関係法令の役割及び規制の概説だけでなく、誘導及び取組み方も解説する。また、具体的な事例をもとに制限や可能性を解説し、都市、建築及び生活に取り巻く今日的課題と法整備の状況を解説する。

到達目標

(1)　法律制度を説明できる。(2)　建築法規の目的を説明できる。(3)　都市デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(4)　建築デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。(5)　生活デザインを考える上で法規制の基礎を理解できる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	100	授業開始時に試験を行う。 授業終了後に試験を行う。 合計１００点満点のうち、６０点以上を合格とする。
レポート課題		
上記以外	加点	講義中に質問を行うので正解した学生または授業内容の習得に関する質問を行った学生について、一回につき５点を成績に加点する。

毎回講義開始及び講義終了時に試験を行う。試験は、教科書１（平成31年版建築基準法〔法令編〕）、教科書２（建築法規用教材2019）及び講義ノート(自身で記載したもの）を閲覧可能とするので、教科書への書き込み、講義ノートへの記帳をすると圧倒的に試験に有利である。★故に初日から必ず教科書１及び教科書２を用意しておくこと。

授業外学習

(成績評価備考２)
講義中に質問を行うので正解した学生または授業内容の習得に関する質問を行った学生について、一回につき５点を成績に加点する。発言に対して

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	平成31年度版建築基準法令集［法令編］	国土交通省住宅局・一般社団法人日本建築学会	技法堂出版株式会社	
2	建築法規用教材2019	一般社団法人日本建築学会	丸善出版株式会社	
3				

教科書１及び教科書２は講義に必要となるので、★必ず初日から持参すること。毎回の試験中の閲覧が可能であることから、持参しない場合は単位

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築法規 第2版増補（建築学の基礎)	矢吹茂郎・加藤健三	共立出版株式会社	
2	行政不服審査の実務	行政不服審査実務研究会	第一法規株式会社	
3	公務員のための住民も納得の窓口対応	山口道昭ほか	第一法規株式会社	

前提学力等

履修資格

講義名	建築法規							担当教員	戸川　勝紀※
講義コード	1201270	単位数	2	開講期	後期集中	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC225,333RED224								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	建築法規の概要	建築法規の構成及び法令用語の読み方を学ぶ。
第2回	建築基準法の目的	建築基準法の目的、法令構成・内容、基本用語の定義及び面積・高さ・階数の算定方法を学ぶ。
第3回	建築基準法の制度規定1	手続の種類、開発許可と建築の手続及び建築物の確認等について学ぶ。
第4回	建築基準法の制度規定2	許可を要する建築物、認定を要する建築物、違反建築物に対する措置及び建築審査会等について学ぶ。
第5回	建築基準法の単体規定1	単体規定のあらまし及び構造強度について学ぶ。
第6回	建築基準法の単体規定2	防火・避難関係規定1（耐火建築物、防火区画及び避難施設）について学ぶ。
第7回	建築基準法の単体規定3	防火・避難関係規定2（排煙設備、非常用の照明装置及び内装制限）について学ぶ。
第8回	建築基準法の単体規定4	一般構造・設備1（居室の採光及び換気）について学ぶ。
第9回	建築基準法の単体規定5	一般構造・設備2（便所及び昇降機）について学ぶ。
第10回	建築基準法の集団規定1	集団規定のあらまし及び道路と敷地・建築物等について学ぶ。
第11回	建築基準法の集団規定2	建築物の用途の制限、建蔽率及び容積率について学ぶ。
第12回	建築基準法の集団規定3	前面道路による斜線制限、隣地境界からの斜線制限、天空率による斜線制限の特例及び日影による中高層建築物の高さの制限について学ぶ。
第13回	建築基準法の集団規定4	地区計画、防火上の地域内の建築物の制限、建築基準法のその他の規定及び工事現場の安全について学ぶ。
第14回	建築関連規定1	消防法、都市計画法及び建築士法について学ぶ。
第15回	建築関連規定2	建設業法、労働安全衛生法及び建築法規の歴史について学ぶ。

担当者から一言

●建築法規を学ぶことは社会に出てから生きる武器を得る絶好の機会となる。それは、建築法規が建築士受検のための必須科目となっているからである。国家資格である建築士は当然のことながら全国で通用する資格であり、配偶者の転勤、親の介護、子供の世話等があって、遠方に行くことに

講義名	構造計画（建築デザイン）							担当教員	陶器　浩一／松村　和夫※
講義コード	1201340	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC213								

授業概要

建築物は、機能性、安全性と芸術性を兼ね備えた総合的な創作である。建築物を成り立たせるためには、そこに作用する力の種類と力の流れを把握し、構造材料の特性を活かして架構することが必要である。本講義では建築物に作用する外力の種類と特徴、建築物を構成する構造材料とその特徴およびそれらを活かした架構方法、さらに構造力学の基本となる力の合成と分解、力の流れの計算方法について講義する。

到達目標

建築物に作用する力の種類と力の流れ、および建築物を成立させるための架構計画の基本につき習得し、構造力学基本（力の合成と分解、構造物の支点反力）について解けること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	50	講義内容を理解しているか
上記以外	50	毎回の講義において小課題を課す

講義中に小課題を課す

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	空間 構造 物語　ストラクチュラル・デザインのゆくえ	斎藤公男	彰国社	
2				
3				

前提学力等

物理の知識を有していること

履修資格

講義名	構造計画（建築デザイン）							担当教員	陶器　浩一／松村　和夫※
講義コード	1201340	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC213								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	構造計画とは 1	構造計画の役割について
第2回	構造計画とは 2	同上
第3回	空間創造の歴史	建築構造の歴史
第4回	自然の力と荷重条件	構造物に作用する力と設計荷重
第5回	架構とその特徴1	建築構造の架構方法と特徴
第6回	架構とその特徴2	同上
第7回	素材・架構・空間　1	素材の特徴とそれを活かす工夫
第8回	素材・架構・空間　2	同上
第9回	素材・架構・空間　3	同上
第10回	素材・架構・空間　4	同上
第11回	構造設計のプロセス	建築構造設計の流れ
第12回	構造計算・解析の手法まとめ　1	構造設計手法（計算、解析と構造設計）
第13回	構造計算・解析の手法まとめ　2	同上
第14回	ものづくりと建築	構造設計の理念と役割
第15回	まとめ	1～14回講義のまとめ、復習

担当者から一言

講義名	構造材料実験							担当教員	陶器　浩一／高田　豊文／永井　拓生／下平　祐司※
講義コード	1201350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	実験		
ナンバリング番号	313ARC317								

授業概要

木材・鋼材・コンクリートなどの構造材料，およびラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、実験を通じて理解させるのが本科目の主目標である。
また、建築構造の最も基本となる構造力学について、演習を通して、理解を深めることも目的とする。
さらに、他の構造系科目で扱わない、地盤・基礎構造の調査法と施工についての講義・演習を、本科目において補う。

到達目標

(1)コンクリート、鋼、木材、それぞれの性質を、理論・実験を通じ理解すること
(2)ラーメン・トラス・アーチなどの架構の特性を、制作・実験を通して理解すること
(3)地盤・基礎構造の基本事項を修得すること

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	50	実験結果をまとめたレポート等による
上記以外	50	制作・演習問題の成績等による

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：日本建築学会編「構造入門教材　ちからとかたち」（丸善）

前提学力等

構造力学Ⅰ・Ⅱの内容をよく復習しておくことを強く勧める。

履修資格

講義名	構造材料実験							担当教員	陶器　浩一／高田　豊文／永井　拓生／下平　祐司※
講義コード	1201350	単位数	2	開講期	後期	授業種別	実験		
ナンバリング番号	313ARC317								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	材料実験①　モルタル試験体の作製、骨材試験	材料実験①　モルタル試験体の作製、骨材試験
第2回	材料実験②　木材の曲げ試験	材料実験②　木材の曲げ試験
第3回	材料実験③　鋼材・鉄筋の引張試験、金属板の座屈試験	材料実験③　鋼材・鉄筋の引張試験、金属板の座屈試験
第4回	材料実験④　モルタル強度試験（曲げ、圧縮）、木造建物の実大	材料実験④　モルタル強度試験（曲げ、圧縮）、木造建物の実大試験
第5回	建築基礎構造①　建築基礎構造入門	建築基礎構造①　建築基礎構造入門
第6回	建築基礎構造②　土の力学、地盤調査、基礎の設計	建築基礎構造②　土の力学、地盤調査、基礎の設計
第7回	建築基礎構造③　直接基礎、実際に出くわす地盤・基礎の諸問題	建築基礎構造③　直接基礎、実際に出くわす地盤・基礎の諸問題
第8回	建築基礎構造④　杭基礎	建築基礎構造④　杭基礎
第9回	構造デザイン演習①	構造デザイン演習①
第10回	構造デザイン演習②	構造デザイン演習②
第11回	構造デザイン演習③	構造デザイン演習③
第12回	構造デザイン演習④	構造デザイン演習④
第13回	構造力学演習①	構造力学演習①
第14回	構造力学演習②	構造力学演習②
第15回	構造力学演習③	構造力学演習③

担当者から一言

講義名	構造力学Ⅰ（建築デザイン）							担当教員	陶器　浩一／永井　拓生
講義コード	1201360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC202,214BRM289,333RED321								

授業概要

建築空間を創造するためには、建築物に作用する力の種類と流れ、および建築物を構成する部材に作用する力とそれに対する架構の挙動を理解することが不可欠である。
本講義では、建築構造関係科目を学習するにあたって必要とされる力学知識や力学基礎について学習する。具体的には、静定トラス・静定梁・静定構造物の応力算定、ひずみ度と応力度、部材断面の各種応力度算定について学習する。

到達目標

(1)静定構造物を対象とした建築構造力学の知識の習得する。
(2)簡単な骨組構造を対象として力学の基礎原理を学習する。
(3)構造物における力の流れを理解できるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	80	中間試験および期末試験による
レポート課題	10	宿題等による
上記以外	10	授業中の小課題等による

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築構造力学Ⅰ	坂田弘安，島﨑和司	学芸出版社	
2				
3				

演習・練習問題を多く含む教科書を勧める。

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

数学・物理の知識を有していること。「建築数学・物理」の授業を履修し、内容を理解しておくことを強く勧める。

履修資格

講義名	構造力学Ⅰ（建築デザイン）							担当教員	陶器　浩一／永井　拓生
講義コード	1201360	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC202,214BRM289,333RED321								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス，概論，静力学の基礎	ガイダンス，概論，静力学の基礎
第2回	静力学の基礎①	静力学の基礎①
第3回	静力学の基礎②	静力学の基礎②
第4回	構造物の支点反力①	構造物の支点反力①
第5回	構造物の支点反力②	構造物の支点反力②
第6回	静定トラスの解法（節点法）	静定トラスの解法（節点法）
第7回	静定トラスの解法（切断法）	静定トラスの解法（切断法）
第8回	中間試験	第１回～第７回の復習
第9回	静定梁の応力算定	静定梁の応力算定
第10回	静定構造物の応力算定	静定構造物の応力算定
第11回	静定梁・静定構造物の応力算定	静定梁・静定構造物の応力算定
第12回	断面の性質	断面の性質
第13回	ひずみ度と応力度	ひずみ度と応力度
第14回	部材断面の各種応力度算定	部材断面の各種応力度算定
第15回	総合練習問題，質疑応答	総合練習問題，質疑応答

担当者から一言
演習・練習問題を数多く解き、計算問題に慣れることを強く勧める。

講義名	構造力学II							担当教員	高田　豊文
講義コード	1201370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC314								

授業概要

本講義は，環境建築デザイン学科専門科目の「構造計画」「構造力学Ｉ」で習得した力学原理の理解を確認・発展させ，建築構造設計を行う際に必要とされる構造力学の原理を理解することを目的としている．具体的には，静定構造物・不静定構造物の応力算定法，構造物の弾性変形の計算方法について学習する．なお，講義内容の理解を深めるため，毎回レポート課題（演習問題）を課す．

到達目標

(1)静定構造物（梁・トラス）の応力算定ができる．
(2)静定構造物（梁・トラス）の弾性変形を求めることができる．
(3)不静定構造物の応力算定ができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	40	(1)静定構造物の応力算定ができること． (2)静定構造物の弾性変形を求めることができること． (3)不静定構造物の応力算定ができること．
レポート課題	50	(1)静定構造物の応力算定ができること． (2)静定構造物の弾性変形を求めることができること． (3)不静定構造物の応力算定ができること．
上記以外	10	毎回，授業の最初に小テストを行う．評価基準は以下の通り． (1)静定構造物の応力算定ができること． (2)静定構造物の弾性変形を求めることができること．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築構造力学II－不静定構造力学を学ぶ	坂田弘安，島﨑和司	学芸出版社	
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	建築構造力学Ｉ－静定構造力学を学ぶ	坂田弘安，島﨑和司	学芸出版社	
2				
3				

前提学力等

構造力学Ｉの単位を修得していることが望ましい．

履修資格

講義名	構造力学Ⅱ							担当教員	高田　豊文
講義コード	1201370	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC314								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス．静定梁の応力算定	静定梁の軸力・せん断力・曲げモーメントの計算方法について講義する．構造力学Ⅰでの内容の復習である．
第2回	静定構造物の応力算定	静定構造物の軸力・せん断力・曲げモーメントの計算方法について講義する．構造力学Ⅰでの内容の復習である．
第3回	静定梁の変形（弾性曲線による方法）	静定梁の変形を，弾性曲線の微分方程式を用いて解く方法について講義する．
第4回	静定梁の変形（モールの定理による方法）	静定梁の変形を，モールの定理を用いて解く方法について講義する．
第5回	静定トラスの応力算定	静定トラスの軸力の計算方法（節点法と切断法）について講義する．構造力学Ⅰでの内容の復習である．
第6回	仮想仕事の原理（トラス）	トラス構造物の変形を，仮想仕事の原理を用いて解く方法について講義する．
第7回	仮想仕事の原理（静定構造物）	静定構造物の変形を，仮想仕事の原理を用いて解く方法について講義する．
第8回	簡単な不静定梁の応力算定（その１）	簡単な不静定梁（1端固定他端ピンの梁と連続梁）のせん断力・曲げモーメントの計算方法について講義する．
第9回	簡単な不静定梁の応力算定（その２）	簡単な不静定梁（両端固定梁）のせん断力・曲げモーメントの計算方法について講義する．
第10回	第1回～第9回のまとめ	第1～9回の内容について，練習問題を行う．
第11回	たわみ角法（その１）	節点荷重だけが作用する静定構造物のせん断力・曲げモーメントを，たわみ角法を用いて解く方法について講義する．
第12回	たわみ角法（その２）	部材途中に荷重が作用する静定構造物のせん断力・曲げモーメントを，たわみ角法を用いて解く方法について講義する．
第13回	固定モーメント法（その１）	固定モーメント法の基礎である分割モーメント，到達モーメント，等価剛比の内容について講義する．
第14回	固定モーメント法（その２）	一般的な不静定構造物のせん断力・曲げモーメントを，固定モーメント法を用いて解く方法について講義する．
第15回	第1回～第14回のまとめ	1級建築士試験の過去問等を用いた総合練習問題を解き，全体における質疑応答を行う．

担当者から一言
演習のレポート課題は必ず自分でやること．

講義名	サスティナブルデザイン論							担当教員	芦澤　竜一
講義コード	1201465	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL303,313ARC303								

授業概要

現代における地球環境を考慮した持続可能な社会を構築するための建築デザインについて論じる。環境、社会と建築との関りに注目して、事例を分析し、地域特性、素材、環境制御技術と連動したデザインを考察する。日本建築から現代建築まで具体的な事例を取り上げ、建築におけるサスティナブルデザインの可能性を検証する。

到達目標

（1）現代の環境や社会を考慮した建築のサスティナブルデザインに関わる知識を身につける。
（2）現代の社会や環境に対して、サスティナブルデザインを提案する能力を身につける。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	70	授業内容を理解し、自身の論を立てられていることを評価する。
上記以外	30	毎回の出席点

1/3以上欠席した場合は、評価の対象としない。

授業外学習

授業内容をきちんと復習し、自身で調査・考察すること。定期的に出題するレポートに意見を論述する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	住まいがつたえる世界のくらし	藤木庸介編	世界思想社	978-4-7907-1689-1
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

適宜指定

前提学力等

履修資格

講義名	サスティナブルデザイン論							担当教員	芦澤　竜一
講義コード	1201465	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	312PEL303,313ARC303								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	講義概要説明／建築と社会	
第2回	モダニズムデザイン	事例を紹介しながら考察する。
第3回	日本建築のサスティナビリティ	事例を紹介しながら考察する。
第4回	現代建築とサスティナビリティ	事例を紹介しながら考察する。
第5回	サスティナブルエリアデザイン1	事例を紹介しながら考察する。
第6回	サスティナブルエリアデザイン2	事例を紹介しながら考察する。
第7回	自然現象と建築（光）	事例を紹介しながら考察する。
第8回	自然現象と建築（風）	事例を紹介しながら考察する。
第9回	素材とデザイン(木)	事例を紹介しながら考察する。
第10回	素材とデザイン（土、竹）	事例を紹介しながら考察する。
第11回	植物と建築	事例を紹介しながら考察する。
第12回	動く建築	事例を紹介しながら考察する。
第13回	リノベーション	事例を紹介しながら考察する。
第14回	弱者のためのデザイン	事例を紹介しながら考察する。
第15回	サスティナブル都市デザイン	事例を紹介しながら考察する。

担当者から一言

講義名	西洋建築・思潮史							担当教員	迫田　正美
講義コード	1202320	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC217								

授業概要

　ヨーロッパを中心とした建築の歴史を、現代建築へとつながるデザインの源泉として、どのように理解し評価するのか、その視座の獲得を目標に据える。
　したがって、各時代の様式や個々の作品の知識だけでなく、その創作の背景となる世界観や各時代の芸術表現あるいは建築理論や芸術論なども併せて講述する。

到達目標

(1)古代ギリシアから２０世紀初頭までの芸術及び建築デザインの変遷について説明することができる。
(2)各時代・地域の芸術論の基礎的な知識について説明することができる。
(3)個々の芸術作品及び建築作品について、その特徴について述べることができる。
(4)各回の講義のテーマに関連した事項について説明または自分の意見を述べることができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	55	(1)古代ギリシアから２０世紀初頭までの芸術及び建築デザインの変遷について説明することができる。 (2)各時代・地域の芸術論の基礎的な知識について説明することができる。
レポート課題	45	(4)各回の講義のテーマに関連した事項について説明または自分の意見を述べることができる。
上記以外		

授業外学習

毎授業の終わりに簡単なレポートを作成する。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ヨーロッパ建築史	西田雅嗣編	昭和堂	
2	西洋建築史図集	日本建築学会	彰国社	
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	西洋建築・思潮史							担当教員	迫田　正美
講義コード	1202320	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC217								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	概説	授業の狙いと講述内容について
第2回	建築のはじまり	ギリシア古典建築とその思想
第3回	ローマ時代の建築	ドームとヴォールトによる内部空間とオーダー
第4回	初期キリスト教建築と美術の展開	初期キリスト教建築と美術
第5回	ビザンティン建築	ビザンティンの建築と装飾芸術
第6回	中世の美術と建築	イコノロジーと芸術および聖アウグスティヌスの思想
第7回	ロマネスク様式の展開	修道会と建築
第8回	ゴシック様式の展開	スコラ哲学と大聖堂
第9回	ルネッサンスの思想とデザイン	時代背景とルネサンス芸術
第10回	マニエリズム期の芸術と建築	マニエラの現代的意義
第11回	バロック様式の展開	宗教改革と建築
第12回	近代合理主義と空間の発見	ガリレオからデカルト、ニュートンへ
第13回	啓蒙思想と新古典主義建築	ロジェ、ルドゥ、ブーレー
第14回	産業革命、進化論から近代建築へ	ワーグナーとロース
第15回	モダニズムへの胎動	ゼツェッション、アール・ヌーヴォー、デ・スティル

担当者から一言

講義名	設計演習Ⅰ							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202340	単位数	3	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC215								

授業概要

イメージ表現、設計基礎演習などの既往演習を基礎にして、より本格的、建築的な課題で進めていく。前半課題では、人間的な尺度、そして認知、行動、更には生活と空間との関係を念頭において設計することを課題とする。後半課題では、様々な目的で生まれる複数の動線の処理、広がりを持つ場所で既存のコンテクストへの対応を踏まえた課題を出す。この目的で、設計建築物としては、木造戸建住宅（構造計画も含める）、小規模施設などとする。

到達目標

(1)80㎡程度の小住宅と、60㎡程度の店舗空間を複合的に捉え設計できること。
(2)200㎡程度の木造低層公民館を設計することができること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標に示す各項目について、(1)を前半課題の作品の内容（50%）で、(2)を後半課題の作品の内容（50%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。なお、各回行われるグループエスキスの出席点を30%、課題の合計点を70%として評価する。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	設計演習Ⅰ							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202340	単位数	3	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC215								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前半課題説明	前半課題説明；導入講義
第2回	着手発表会	建築構想の初回発表
第3回	エスキス	平面計画案の批評
第4回	エスキス	立面図、断面図の検討
第5回	中間発表会	計画案の講評
第6回	エスキス	図面完成に向けての作業
第7回	講評会	各作品の選抜と講評
第8回	後半課題説明	後半課題説明；導入講義
第9回	着手発表会	建築構想の初回発表
第10回	エスキス	立面図、断面図の検討
第11回	エスキス	矩形図の説明と作図案
第12回	中間発表会	計画案の講評
第13回	エスキス	図面完成に向けての作業
第14回	講評会	講評；夏季休暇課題の説明
第15回	講評会	合同講評会（設計演習１，３の合計4課題合同）

担当者から一言

講義名	設計演習 II							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202350	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC310								

授業概要

コンセプチュアルな思考から、実践的な設計行為につながる設計過程を習得することを目標に、中規模建築を様々な工法で設計する方法を学ぶ。具体的には前後半で２つの中規模建築の設計課題に取り組む。

到達目標

（1）中規模の建築を設計することができること。
（2）設計内容を的確に伝えるために適切な表現ができること。
（3）社会の動向を把握し、建築によって問題提議・課題解決を図れること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す各項目について、(1)を前半課題の作品の内容（50%）で、(2)を後半課題の作品の内容（50%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。なお、エスキスチェックは必ず受けること。

授業外学習

毎回のエスキスチェックや講評を踏まえて、各自調査・設計を行っていく。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	設計演習 II							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202350	単位数	3	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	213ARC310								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前半課題説明、敷地調査･分析	前半課題の説明、敷地の現地調査、敷地分析
第2回	敷地調査・エスキス案発表	敷地分析・エスキス案発表・講評
第3回	エスキスチェック	
第4回	中間発表	コンセプト・ダイアグラム・平面図・立面図・断面図・スタディ模型・講評
第5回	エスキスチェック	
第6回	エスキスチェック	プレゼンテーション指導
第7回	前半課題の講評会	
第8回	後半課題説明、敷地調査･分析	後半課題の説明、敷地の現地調査、敷地解析
第9回	敷地調査・エスキス案発表	敷地分析・エスキス案発表・講評
第10回	エスキスチェック	
第11回	中間発表	コンセプト・ダイアグラム・平面図・立面図・断面図・スタディ模型・講評
第12回	エスキスチェック	
第13回	エスキスチェック	プレゼンテーション指導
第14回	後半課題の講評会	
第15回	設計演習 II・設計基礎演習合同講評会	

担当者から一言

講義名	設計演習III							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202360	単位数	3	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC311								

授業概要

環境建築デザイン学科の演習授業の総括として、より高度な計画・デザイン手法を身につけることを主眼とし、大規模な複合施設の設計課題に取り組み、都市計画的・景観計画的な分析能力を養い、提案する建築を社会や環境に関連づけて機能させる総合提案力を習得することを目標とする。

到達目標

（1）大規模の建築を敷地計画も含めて総合的に計画・デザインできること。
（2）設計内容を的確に伝えるために適切な表現ができること。
（3）社会の動向を把握し、建築によって問題提議・課題解決を図れること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す各項目について、(1)を前半課題の作品の内容（50%）で、(2)を後半課題の作品の内容（50%）で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。なお、エスキスチェックは必ず受けること。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

テキスト：プリント配布

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書：適宜紹介

前提学力等

履修資格

講義名	設計演習III							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202360	単位数	3	開講期	前期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	313ARC311								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	前半課題説明、敷地調査･分析	前半課題の説明、敷地の現地調査、敷地分析
第2回	敷地調査・エスキス案発表	敷地分析・エスキス案発表・講評
第3回	エスキスチェック	
第4回	中間発表	コンセプト・ダイアグラム・平面図・立面図・断面図・スタディ模型・講評
第5回	エスキスチェック	
第6回	エスキスチェック	プレゼンテーション指導
第7回	前半課題の講評会	
第8回	後半課題説明、敷地調査･分析	後半課題の説明、敷地の現地調査、敷地解析
第9回	敷地調査・エスキス案発表	敷地分析・エスキス案発表・講評
第10回	エスキスチェック	
第11回	中間発表	コンセプト・ダイアグラム・平面図・立面図・断面図・スタディ模型・講評
第12回	エスキスチェック	
第13回	エスキスチェック	プレゼンテーション指導
第14回	後半課題の講評会	
第15回	設計演習Ｉ＋III　合同講評会	

担当者から一言

講義名	設計演習IV							担当教員	東福　大輔※／白井　宏昌／山崎　泰寛／森田　一弥※
講義コード	1202365	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業概要

環境建築デザイン学科の設計演習の発展として、極めて高度な計画・デザイン手法を身につけることを主眼とし、設計課題に取り組み、分析能力を養い、提案する建築を社会や環境に関連づけて機能させる総合的な提案力を習得することを目標とする。後日指示する初回の授業日に「デジタルデザイン」（東福大輔）と「マテリアルデザイン」（森田一弥）にスタジオを分け、2回目以降の授業は各講師と調整の上決定する。概要は以下の通りである。

デジタルデザイン（東福）概要：
本スタジオは現代においてデザイン手法の一潮流となりつつあるパラメトリック・デザイン／アルゴリズミック・デザインと呼ばれるデザイン手法を習得することを目的とする。

マテリアルデザイン（森田）概要：
京都の山間地域の集落のために、地域で産出される材料を主な材料として、その土地の歴史や風土を体験可能な空間の設計を行う。

到達目標

（1）高度な設計技術を習得し、適切に使用できること。
（2）設計内容を的確に伝えるために適切な表現ができること。
（3）社会の動向を把握し、建築によって問題提議・課題解決を図れること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す項目について、課題の作品の内容で評価する。100点満点で採点し、60点以上を合格とする。エスキスチェックを受けないものは不可となる。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

建築に対する関心・意欲が貪欲であることが前提です。

履修資格

講義名	設計演習IV							担当教員	東福　大輔※／白井　宏昌／山崎　泰寛／森田　一弥※
講義コード	1202365	単位数	1	開講期	後期集中	授業種別	演習		
ナンバリング番号									

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	課題の説明
第2回	エスキス	
第3回	エスキス	
第4回	エスキス	
第5回	エスキス	
第6回	講評会	

担当者から一言
希望者数が偏る場合などは選抜を行うことがあります。

講義名	設計基礎演習							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC212								

授業概要

私達が生きる空間は3次元空間であり、建築を作ることは3次元の空間中に立体物を作ることである。通常、建築の姿かたち、設計の意図、仕組み、情報を伝える方法として、紙やコンピュータの画面が用いられるが、これらは2次元の平面である。この演習では、3次元の立体である建築を2次元の平面に表現する方法として考案されてきた数々の作図方法の一端を学ぶ。
また、建築を手軽なかたちで3次元のまま表現するために、往々にして模型が用いられる。2次元の図と模型を用い、建築をプレゼンテーションする方法についても学ぶ。

到達目標

(1) 立体としての建築の表現方法を学ぶ
(2) 建築の設計図の書き方、読み取り方を学ぶ
(3) 各種構造の建物の成り立ち方を学ぶ
(4) 小規模な建築・空間の設計および表現方法を学ぶ

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	授業時間内に取り組む課題、および宿題の成果により評価する

・履修には全ての課題（宿題を含む）の提出を必要とする。期限を過ぎての提出は内容に関係なく大幅な減点となる。
・宿題は提出日の授業中に提出する。（提出日の授業時に指示する）
・製図のための用具は各自が用意する。毎回の授業に必ず持参すること。

授業外学習

各課題には提出期限が定められている。これに遅れないように計画的に作業を進めて欲しい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

新装版　初めての建築製図：＜建築のテキスト＞編集委員会編、学芸出版社、2007.3

前提学力等

履修資格

講義名	設計基礎演習							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202370	単位数	2	開講期	後期	授業種別	演習		
ナンバリング番号	113ARC212								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション、正投象による立体の図面表現	簡単な立体の平面図、立面図、断面図を正投象により作図する。
第2回	立体の斜投象による図面表現、アクソメ図	簡単な立体形状を斜投象によって表現する。
第3回	立体の透視図（パースペクティヴ）①	簡単な立体形状を透視図（パースペクティヴ）によって表現する。
第4回	立体の透視図（パースペクティヴ）②	簡単な立体形状を透視図（パースペクティヴ）によって表現する。
第5回	木造住宅トレース①	建築の設計図面をトレース（複写）することで、建築の設計図書の見方や製図の方法、また、建物はどのような要素（デザイン、材料、工法・・・）によって成り立っているのかを学ぶ。
第6回	木造住宅トレース②	構造伏図のトレース。
第7回	木造住宅トレース③／2回生課題講評会見学	詳細図のトレース。 授業時間中、２回生の設計課題の講評会の見学を行う。
第8回	建築表現、プレゼンテーション１	前半の演習で身に付けた技法をもとに、プレゼンテーションの演習を行う。
第9回	建築表現、プレゼンテーション２	前半の演習で身に付けた技法をもとに、プレゼンテーションの演習を行う。
第10回	RC造建物、その他トレース１	建築の設計図面をトレース（複写）することで、建築の設計図書の見方や製図の方法、また、建物はどのような要素（デザイン、材料、工法・・・）によって成り立っているのかを学ぶ。
第11回	RC造建物、その他トレース２	詳細図のトレース。
第12回	RC造建物、その他トレース３	模型作成。
第13回	大学内の敷地に立つ立体物・空間の設計１	前回までに修得した技術・知識を用い、大学敷地内に立つ小規模な建築物の設計を行う。基本的な方針、デザイン案のエスキース。
第14回	大学内の敷地に立つ立体物・空間の設計２	作品講評会
第15回	2・3回生合同講評会の見学	２・３回生の設計課題等の講評会を見学する。

担当者から一言
図面を書く目的は、作りたいモノの内容、成り立ち方、作り方を人に理解してもらうためです。色々なルールや決まりがあり、また表現の工夫をしなければならないのはもちろんですが、そもそもは、読む人のために書く、ということを忘れず取り組んでください。

講義名	卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202450	単位数	3	開講期	前期研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	413ARC401								

授業概要

この授業は，3年次後期の「環境建築デザイン演習」の延長上にあり，「環境」，「建築」，「デザイン」，「地域」などをキーワードとして，各自が取り組むべき課題を設定して，研究・設計・制作を進める．4年次後期の「卒業研究・卒業制作Ⅱ」と連携させ，「通年論文」，「通年設計」，「前期論文・後期設計」のいずれかの形態を選択する．

到達目標

(1)「環境」，「建築」，「デザイン」，「地域」などをキーワードとして設定した課題に対し，必要となる資料の収集・分析等を適切かつ十分に行うことができる．
(2)設定した課題に対して，結果や自身の考え方を適切に表現することができる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各到達目標について，課題に取り組む姿勢，資料収集・分析の適切さ，プレゼンテーションの適切さを評価する．

研究・設計・制作の遂行に当たっては，担当指導教員やその他の教員との議論を頻繁に行うこと．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・卒業制作Ⅰ（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202450	単位数	3	開講期	前期研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	413ARC401								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1～14回	「環境」，「建築」，「デザイン」，「地域」などをキーワードとし，卒業研究・卒業制作として取り組むべき課題を各自で設定し，指導教員の指導の下，課題内容を遂行する．
第15回	成果の発表	各自の研究・設計・制作・調査を論文としてまとめ，さらにその内容を発表して，質疑応答を行う．

担当者から一言

講義名	卒業研究・卒業制作Ⅱ（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202460	単位数	3	開講期	後期研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	413ARC402								

授業概要

この授業は，4年次前期の「卒業研究・卒業制作Ⅰ」の延長上にあり，「卒業研究・卒業制作Ⅰ」で得た結論・知見に基づき，必要に応じて各自が取り組むべき課題を再設定して，研究・設計・制作を進める．4年次後期の「卒業研究・卒業制作Ⅰ」と連携させ，「通年論文」，「通年設計」，「前期論文・後期設計」のいずれかの形態を選択する．

到達目標

(1) 学術的・社会的に有意義なテーマと目的を設定することができる
(2) 目的に照らして適切な方法を用いて考察することができる
(3) 客観的・実証的に論理を組み立てることができる
(4) 成果について的確かつ独創的に表現することができる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	各到達目標について，課題に取り組む姿勢，資料収集・分析の適切さ，プレゼンテーションの適切さを評価する．

研究・設計・制作の遂行に当たっては，担当指導教員やその他の教員との議論を頻繁に行うこと．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	卒業研究・卒業制作II（環境建築デザイン）							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202460	単位数	3	開講期	後期研究	授業種別	演習		
ナンバリング番号	413ARC402								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	第1〜14回	「卒業研究・卒業制作Ｉ」で得た結論・知見に基づき，研究の考察・解析を深めるか，制作により自分の考えを具体化する計画・方策を立案し，指導教員の指導の下，課題内容を遂行する．
第15回	成果の発表	各自の研究・設計・制作・調査をまとめ，さらにその内容を発表して，質疑応答を行う．

担当者から一言

講義名	地域環境計画							担当教員	轟　慎一
講義コード	1202570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC210-C								

授業概要

都市計画・地域計画の分野における、都市・集落の生活空間・地域環境の構造と、その調査論・計画論・まちづくりについて論じる。都市・集落をいかに捉えるか、どうやって地域・環境にアプローチするか。都市計画・建築設計・環境デザイン・まちづくり・都市政策では、地域の社会的・空間的特質の把握と、地域像のパースペクティブが不可欠である。本講は、研究技法の系統的理解にとどまらず、地域にかかる基本的な概念体系をふまえ、地域そのものの構造的理解をめざす。都市システム、地域環境、景観、地域空間、居住、コミュニティ、生活空間等の観点から、実践的な調査の視点や具体的な現場の視点をまじえ論考する。本講は、設計演習・環境フィールドワーク等における、対象の構造的把握においても論理的・技術的有用性がある。

到達目標

（1）都市システム・地域環境・地域生活空間の基本を理解し、説明することができる。
（2）都市・集落調査の基本を理解し、実践することができる。
（3）都市問題・まちづくり・計画論の基本を理解し、説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	40	（2）研究レポート
上記以外	60	（1）（3）中間小論文（25%）、期末小論文（35%）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域環境計画							担当教員	轟　慎一
講義コード	1202570	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	113ARC210-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	本講の概要	生活空間の概念
第2回	都市空間論	土地利用、自然環境、都市構造
第3回	都市空間論	都市形成、社会環境、地域開発
第4回	集落空間論	都市近郊地域・平野地域・沿岸地域と景観
第5回	集落空間論	地域問題とまちづくり
第6回	地域調査論	都市・集落研究の方法論、事実と意見
第7回	地域調査論	文献調査、図書・雑誌、統計・資料
第8回	中間まとめ	小論文
第9回	地域調査論	地図分析、空中写真、フィールドワーク
第10回	地域調査論	観察調査、ヒヤリング、アンケート
第11回	地域計画論	地域概念、都市の階層構造
第12回	地域計画論	過疎過密と地域構造、都市問題とまちづくり
第13回	都市計画論	都市環境問題、交通問題
第14回	都市計画論	都市システムと持続・再生
第15回	期末まとめ	小論文

担当者から一言

講義名	地域産学連携実習Ⅰ							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202621	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC322								

授業概要

自治体や民間の設計事務所等・シンクタンク等で研修を行い，実社会で環境・建築デザイン専門分野の活動がどのように行われているか体験学習する．なお，「地域産学連携実習Ⅰ」では，原則として前期に行った体験研修を評価の対象とする．

到達目標

(1)専門家としての職能像を明確に持つとともに，実践現場において必要とされる作法や技術のあり方を理解できる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	体験学習した内容をレポート等にまとめ，その内容により評価する．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域産学連携実習Ⅰ							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202621	単位数	2	開講期	前期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC322								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	各回	学科教員と相談の上，研修先や研修内容等を決定し，研修先で研修を行う．また，最終回までに研修レポートを作成する．

担当者から一言

講義名	地域産学連携実習II							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202622	単位数	2	開講期	後期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC323								

授業概要

自治体や民間の設計事務所等・シンクタンク等で研修を行い，実社会で環境・建築デザイン専門分野の活動がどのように行われているか体験学習する．なお，「地域産学連携実習II」では，原則として後期に行った体験研修を評価の対象とする．

到達目標

(1)専門家としての職能像を明確に持つとともに，実践現場において必要とされる作法や技術のあり方を理解できる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	体験学習した内容をレポート等にまとめ，その内容により評価する．

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	地域産学連携実習 II							担当教員	学科教員／伊丹　清／迫田　正美／陶器　浩一／村上　修一／轟　慎一／高田　豊文／Jimenez Verdejo Juan Ramon／永井
講義コード	1202622	単位数	2	開講期	後期実習	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC323								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	各回	学科教員と相談の上，研修先や研修内容等を決定し，研修先で研修を行う．また，最終回までに研修レポートを作成する．

担当者から一言

講義名	都市・地域計画							担当教員	轟　慎一
講義コード	1202760	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC312-C								

授業概要

都市・農山漁村における地域空間の実態と成り立ち、地域課題の解決と持続・再生に向けた計画について、空間論的視座と計画論的視座を中心に論考する。都市・地域はいかに成り立ち、どのような問題を抱え、いかなる実状にあり、どのような方向にむかっているか。空間論的視座では、生活・生業の器としての空間の構造、生活者・コミュニティからみた居住環境・生活空間について論じる。計画論的視座からは、それら空間をつくりだすための計画制度・事業展開・まちづくり等について論じる。地区レベルでは、中心市街地・郊外住宅地・農山漁村等を事例として、居住、コミュニティ、少子高齢化、定住環境、生活空間、景観等の観点から、実践的な調査・計画の視点をまじえ論考する。本講は、卒業論文・卒業設計等における、計画論的研究の方法論においても有用性がある。

到達目標

（1）生活空間・コミュニティ・地域環境・地域研究の基本を理解し、説明することができる。
（2）計画論・計画制度・まちづくりの基本を理解し、説明することができる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	35	（1）（2）研究レポート（35%）
上記以外	65	（1）（2）中間小論文（30%）、期末小論文（35%）

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	都市・地域計画							担当教員	轟　慎一
講義コード	1202760	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC312-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	本講の概要	計画論の視座
第2回	地域空間論	地域と国土整備、街道・鉄道・高速交通網
第3回	都市空間論	都市構造と都市環境、都市居住と住まい
第4回	都市空間論	生活者・コミュニティと居住空間、まちづくり
第5回	集落空間論	地域史と生活景、農漁村と生活・生業・空間
第6回	集落空間論	景観と地域環境
第7回	地域研究論	計画論的研究の方法論
第8回	地域研究論	計画論的研究の方法論
第9回	中間まとめ	小論文
第10回	都市計画論	まちづくりと計画制度
第11回	都市計画論	マスタープラン
第12回	都市計画論	土地利用計画
第13回	都市計画論	都市施設、都市開発
第14回	都市計画論	地区計画、都市計画のプロセス
第15回	期末まとめ	小論文

担当者から一言

講義名	内部空間論							担当教員	山崎　泰寛
講義コード	1202840	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC220								

授業概要

「建築を設計する」といったときに、人は建築をどのように認識し、構築していくのだろうか。外面だけ、外形だけをデザインしても、建築を設計したことにはならない。建築は外形だけでも、室内だけでもなく、総体として設計され、立ち上がっている。室内空間に注目してみても、その環境は、光、音、空気、といった無数の不可視なる要素で満たされており、にもかかわらず、その一つ一つは設計されるべき対象である。
　さらにいえば、建築は建築だけで存在するのではない。空間の規模を問わず、洋の東西も時代も問わず、建築はある役割を担う存在である。もしある空間が生き生きとした魅力を持っている（あるいは持っていない）とすれば、その空間から私たちは何を学べば良いのだろうか。
　この講義では、主に近代の日本における住宅とインテリアの歴史を紐解くとともに、いくつかの事例を挙げて、内部空間の建築的な成り立ちを検討していく。参考文献は、講義の都度提示する。講義を通じて、建築をより想像力豊かに経験する糸口をつかむことが最大のねらいであり、願いでもある。

到達目標

(1)建築の内部空間に関する関心を高め、積極的に建築に触れること。
(2)建築の内部空間がどのように生まれてきたか、その歴史的観点から専門的知見を得ること。
(3)建築の内部空間の寸法・面積・仕様に関する専門的知見を得ること。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100	到達目標で示す各項目について、(1)を授業1回目のレポート課題として課す（10%）。(2)(3)を授業中のレポート課題として課し、その内容（40%）で評価する。また15回目に小テストを出題し、その得点(50%)で評価する。その他に授業中に小レポートを課す場合がある。

授業外学習

新旧・国内外問わず多くの建築を見てください。また、建築に限らず書籍に親しみ読書を習慣化してください。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	五十嵐太郎・菊地尊也・東北大学五十嵐太郎研究室編	図面でひもとく名建築	丸善	978-4621300428
2	TOKYO インテリアツアー	浅子佳英・安藤僚子	LIXIL出版	978-4864800235
3				

プリントなどで講義中に随時紹介します。

前提学力等

履修資格

講義名	内部空間論							担当教員	山崎　泰寛
講義コード	1202840	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC220								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	オリエンテーション	
第2回	住宅における内部空間1	第二次世界大戦後の小住宅に内部空間を学ぶ。
第3回	住宅における内部空間2	第二次世界大戦後の小住宅に内部空間を学ぶ。
第4回	住宅における内部空間3	第二次世界大戦後の集合住宅に内部空間を学ぶ。
第5回	住宅における内部空間4	第二次世界大戦後の集合住宅に内部空間を学ぶ。
第6回	公共建築における内部空間1	公共建築における内部空間の計画と設計を学ぶ。特に1950年代以後の公共建築を対象にする。
第7回	公共建築における内部空間2	公共建築における内部空間の計画と設計を学ぶ。特に丹下健三と剣持勇を事例にして建築家とデザイナーの役割を論じる。
第8回	公共建築における内部空間3	公共建築における内部空間の計画と設計を学ぶ。特に美術館建築についてその特徴を論じる。
第9回	公共建築における内部空間4	公共建築における内部空間の計画と設計を学ぶ。特に学校建築についてその特徴を論じる。
第10回	建築とインテリア1	1950年代のインテリア空間について、建築家とデザイナーの思想と設計を学ぶ。イームズ夫妻と日本。
第11回	建築とインテリア2	1960年代のインテリア空間について、建築家とデザイナーの思想と設計を学ぶ。前川國男と岩淵活輝。
第12回	建築とインテリア3	1970年代のインテリア空間について、建築家とデザイナーの思想と設計を学ぶ。黒川紀章と倉俣史朗。
第13回	建築とインテリア4	1980-90年代のインテリア空間について、建築家とデザイナーの思想と設計を学ぶ。
第14回	建築とインテリア5	2000-10年代のインテリア空間について、建築家とデザイナーの思想と設計を学ぶ。
第15回	内部空間の批評	内部空間を記述する文章を書く演習を行う。

担当者から一言

講義名	日本建築史							担当教員	白井　宏昌
講義コード	1202850	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC222								

授業概要

本講座では原始時代から現代にいたるまで、わが国で建設された建築物の思想・技術の変遷を、それらが建てられた時代背景とともに振り返る。そこでは、単に懐古的に過去の建築を眺めるというのではなく、現在・未来を考えるうえでの歴史学という観点から、これからの建築を考えるための教訓を得ることを意図している。本講座の構成は大きく３つに分けることができる。前半は時系列的に各時代の建築を考察し、後半は「住まい」と「象徴」という２つのテーマに沿って日本建築の歴史を横断していく。

到達目標

（１）　原始から近代までの日本建築の変遷が理解できる
（２）　各時代に建てられた特徴的な建築様式とその社会背景が理解できる

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題	90	到達目標（１）および（２）について、自らの考えを問うためのレポート課題を課す
上記以外	10	講義への出席率を評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	日本建築様式史	太田博太郎 、藤井恵介	美術出版社	978-4568400793
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	日本建築史							担当教員	白井　宏昌
講義コード	1202850	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	313ARC222								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	建築史を学ぶ意義を踏まえたうえで、本講座の進め方を講義する
第2回	通史（1）原始：縄文・弥生・古墳	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第3回	通史（2）古代 飛鳥・奈良・平安	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第4回	通史（3）中世 鎌倉・南北朝・室町	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第5回	通史（4）近世 桃山・江戸	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第6回	通史（5）近代-1 明治・大正・昭和初期	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第7回	通史（6）近代-2 明治・大正・昭和初期	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第8回	通史（7）現代-1 昭和後期・平成	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第9回	通史（8）現代-2 昭和後期・平成	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第10回	通史（9）現代-3 昭和後期・平成	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第11回	特論（1）住まい-1	該当する時代の社会背景を踏まえたうえで、その時代に建てられた建築の思想・技術を学ぶ
第12回	特論（2）住まい-2	これまで日本に建てられた庶民の住まいの変遷を学ぶ
第13回	特論（3）住まい-3	これまで日本に建てられた庶民の住まいの変遷を学ぶ
第14回	特論（4）象徴‐1	これまで日本に建てられた建築の象徴性を振り返り、その変遷を考察する
第15回	特論（5）象徴‐2	これまで日本に建てられた建築の象徴性を振り返り、その変遷を考察する

担当者から一言

講義名	木匠塾（建築デザイン）							担当教員	高田　豊文／陶器　浩一
講義コード	1203180	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC321-C								

授業概要

木材等の生物材料あるいは土・石などの自然素材を主として用い，構築物（遊具、家具、倉庫など）を学生主体で設計・製作することによって，素材の特性，利用方法，加工技術，木組み，ディテール（収まり）などを総合的に学習する．活動拠点となる地域を，加子母（岐阜県中津川市），川上村（奈良県），多賀町（滋賀県）の中から選択する．主な実施製作の期間は，夏季2週間程度を予定しているが，活動拠点によっては，その他の時期でも活動を行う．製作のための設計は，現地の方々と連絡をとりながら行う．木匠塾には，他大学の学生の参加もあり，地元の人々の指導も受けることができる．

到達目標

(1)地域に必要とされる構築物の設計を提案できる．
(2)木造の設計の基礎を習得する．
(3)木材加工のための工具を巧みに使用できる．

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験		
レポート課題		
上記以外	100%	成績評価は，設計と制作での取り組み態度（パフォーマンス）によって評価し，到達目標で示す(1)については50%，(2)については30%，(3)については20%で評価する

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

前提学力等

履修資格

講義名	木匠塾（建築デザイン）							担当教員	高田　豊文／陶器　浩一
講義コード	1203180	単位数	2	開講期	通年集中	授業種別	実習		
ナンバリング番号	113ARC321-C								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	この授業で活動拠点を，加子母，川上村，多賀の各木匠塾の中から選択し，決定する．
第2回	第2～30回	現地視察・制作物の内容検討・実施設計・現場での制作を行い，最終的に制作物を完成させる．

担当者から一言

講義名	ランドスケープデザイン							担当教員	村上　修一
講義コード	1203200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC204,214BRM288								

授業概要

ランドスケープデザインは，生活空間を豊かにするために人間が生み出した創造行為である。主に近代以降の代表的な事例を紹介しながら，ランドスケープデザインの様々な手法や理論を解説する。受講生は単に知識を得るだけでなく，未来社会にふさわしい新たなデザインを習得する。

各回の授業は以下のように実践形式である。
（1）目標とワークシート課題の提示
（2）課題を解くために必要な手法の講述
（3）ワークシートの作成と採点

到達目標

講述する手法を用いたランドスケープデザインができるようになる。

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	0	
上記以外	100	到達目標について授業時間内に実施する13回分のワークシート課題の点数を合計し（100点／回，1300点満点），100点満点に換算して評点とする（100%）。ワークシートは，授業時間中に座席間を移動する教員によって採点される。

授業に出席していても，居眠り等でワークシートを作成していない場合，その回のワークシート課題の点数は0点となる。つまり欠席と同じ扱いとなる。1限目の授業の履修に不安がある人は，その点をよく考慮して履修すること。

授業外学習

本科目で習得した手法を，設計演習や卒業設計における課題制作に際して積極的に活用することで，確実に身につけるようにしてほしい。

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1	ランドスケープデザイン	佐々木葉二，曽和治好，村上修一，久保田正一	昭和堂	
2	環境デザイン学 - ランドスケープの保全と創造	森本幸裕，白幡洋三郎編	朝倉書店	
3	テキスト　ランドスケープデザインの歴史	武田史朗，山崎亮，長濱伸貴編	学芸出版社	

追加の参考書：

前提学力等

履修資格

講義名	ランドスケープデザイン							担当教員	村上　修一
講義コード	1203200	単位数	2	開講期	前期	授業種別	講義		
ナンバリング番号	213ARC204,214BRM288								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	序論	ランドスケープデザインの概要を理解する。
第2回	三次元	床面，側面，天井で屋外空間を構成する手法を学ぶ。
第3回	動的平衡	幾何学の美学を応用して空間を構成する手法を学ぶ。
第4回	視線と動線の連続性	屋内と屋外との間で視線および動線の連続性を確保する手法を学ぶ。
第5回	曖昧性	透明性により複数の形態が同時に体験され得る空間の構成手法を学ぶ。
第6回	樹木の基本	学内の実物を見て触れて樹木の基本を理解する（雨天決行，ワークシートなし）。
第7回	樹木の構成する空間	樹木の形態の特質を理解し，その特質を活かす空間の構成手法を学ぶ。
第8回	モルフォシス	経時変化を活かす空間の構成手法を学ぶ。
第9回	ヒトの場	都市の中に森をつくる手法を学ぶ。
第10回	シークエンス	歩行にともない変化する景観を楽しめる空間の構成手法を学ぶ。
第11回	事象の顕在化	自然現象が顕在化する空間の構成手法をアースワークとランドアートに学ぶ。
第12回	場所性	場の特性を活かす空間の構成手法を学ぶ。
第13回	地形の操作	等高線の基本を理解し，地形操作の前提となる作図方法を学ぶ。
第14回	再生	旧来の空間に新たな可能性を発見し形にする手法を学ぶ。
第15回	脱構築	非予定調和の空間構成で多様な活動を誘発する手法を学ぶ。

担当者から一言
（1）遅刻をしないこと。授業の冒頭で目標を説明しワークシート課題を提示する。遅刻すると目標や課題の理解が不十分な状態でワークシートの作成を行うことになる。

講義名	建築デジタルデザイン基礎							担当教員	永井　拓生
講義コード	1203330	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号	213ARC218								

授業概要

本科目は７～８回の講義（外部講師含む）と製図室での実習により行います。

近年、個人向けのコンピュータでも大容量の高速演算が手軽に行えるようになってきています。建築の様々な分野においてコンピュータシミュレーションの利用が進んでおり、特にビッグデータを活用した統計的な解析手法はあらゆる分野で大きな威力を発揮することが期待されています。
建築においては、構造や環境設備の分野ではもちろんのこと、それ以外の分野でも、基礎的な数学の知識を持っていることは、今後は非常に有用となるに違いありません。デジタルツールの有効な活用は生産性を大幅に高め、限られた地球資源やエネルギーの効率的な活用へと直接的に貢献することになります。

本講義ではコンピュータを用いたシミュレーションを行うための基礎的な数学やそれらを用いたアルゴリズムのエッセンスを高校数学程度の知識を前提に解説します。
また、コンピュータシミュレーションやデジタルデザインの事例として、最先端の巨大建築、パラメトリックデザインの実施例、3Dプリンタとコンピュータプログラムとの連携、地域活性の拠点としてFab‐Labを設置した試みなどの先端的な事例について紹介し、本講義で学ぶ知識がどのように活かされるかについて述べます。

到達目標

(1) デジタルデザインの概念・意味・有効性を理解する
(2) 様々なデータ活用のための基礎的な数学知識を得る
(3) 先端技術・新技術に対する敷居の高い印象を払拭する

成績評価

種別	割合(%)	評価基準等
定期試験	0	
レポート課題	60	３Ｄソフトを使ったモデリングに関する課題を課す。
上記以外	40	授業時間内に消化できる簡単な演習、またはレスポンスペーパーを課す。

授業外学習

教科書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

Rhinoceros（学生版約3.5万円、無料版は３か月使用可）またはMATLAB（学生版1万円、無料版は１か月使用可）の購入が必要となる場合がありま

参考書

No	書籍名	著者名	出版社	ISBN/ISSN
1				
2				
3				

授業中にプリントを配布する

前提学力等

「建築物理・数学」を受講し、単位を取得しておくことを強く勧める。

履修資格

講義名	建築デジタルデザイン基礎							担当教員	永井　拓生
講義コード	1203330	単位数	2	開講期	後期	授業種別	講		
ナンバリング番号	213ARC218								

授業計画		
回数	タイトル	概要
第1回	ガイダンス	デジタルデザインの歴史、現況、意義を述べる
第2回	講義１	デジタルデザインの概要
第3回	実習	製図室での実習
第4回	講義２	設計とデジタルデザイン
第5回	実習	製図室での実習
第6回	講義３	ゲストレクチャー
第7回	実習	製図室での実習
第8回	講義４	ゲストレクチャー
第9回	実習	製図室での実習
第10回	講義５	ゲストレクチャー
第11回	実習	製図室での実習
第12回	講義６	ゲストレクチャー
第13回	実習	製図室での実習
第14回	講義７	デジタルデザイン事例
第15回	講義８	デジタルデザインの未来、未来の働き方について

担当者から一言
コンピュータの計算力向上のため、かつてと異なり、必要な数学知識は実は極めてシンプルなものだけあれば十分です。先端技術と聞くと敷居を高く感じるかもしれませんが、怖れず挑戦すれば必ず頼りになる武器になります。